令和６年度

教科の指導計画と評価規準
＆
６年間の学習計画

東京都立三鷹中等教育学校

後期課程

三鷹中等教育学校　日課表・週時程表（後期課程）

時程	曜日	月	火	水	木	金	土
	8:25 ～ 8:35	朝読書・学活					
１校時	8:40 ～ 9:30	１	７	１４	２０	２７	３３
２校時	9:40 ～ 10:30	２	８	１５	２１	２８	
３校時	10:40 ～ 11:30	３	９	１６	２２	２９	３４
４校時	11:40 ～ 12:30	４	１０	１７	２３	３０	
昼休み	12:30 ～ 13:15	昼休み					
５校時	13:20 ～ 14:10	５	１１	１８	２４	３１	
６校時	14:20 ～ 15:10	６	１２	１９	２５	３２	
７校時	15:20 ～ 16:10		１３		２６		
ＳＨＲ	月・水・金　15:10～15:20 火・木　16:10～16:20						
清掃	月・水・金　15:20～15:40 火・木　16:20～16:40						
下校	17:00（届出による延長 月・水・金 18：30, 火・木 19：00）						

※ 土曜授業は、年間１８回実施

年間の指導計画と評価規準
〈後期課程〉

令和６年度　＜後期４学

年　国語科目　＞　年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	精選　現代の国語 （第一学習社）
使用補助教材	生きる漢字・語彙力<３訂版>（駿台文庫） カラー版新国語便覧（第一学習社）

目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し 効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 （１）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【評価の観点】 **（知識・技能）**実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 **（思考・判断・表現）**「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 **（主体的に学習に取り組む態度）**言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 **【評価の方法・材料】**授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	「生きもの」として生きる（中村桂子）	6	・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・主張と論拠、推論など、情報と情報との関係を理解する。	・筆者の提案する人間の生き方について文章構成をもとに自分に照らし考えを深める。	・個別の情報の一般化の仕方について進んで捉えようとしている。
	5	「本当の自分」幻想（平野啓一郎）	6		・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	・反論を示して自分の主張の正しさを補強する推論方法を理解しようとしている。
	6	「水の東西」（山崎正和）	8	・文章の効果的な接続のしかたを理解する。	・東西の対比関係を用いて、日本の水文化の特徴について論じる叙述の方法を把握する。	・水を用いた芸術や仕掛けについて積極的に探し表現を工夫し説明しようとしている。
	7	日本語は世界をこのように捉える（小浜逸郎）	4	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章を分析的に読み具体例を多用した論理を理解する。	・論理の展開を分析し、今までの学習を生かし主張をまとめようとしている。

2	9 10 11 12	現代の「世論操作」（林香里） 「文化」としての科学（池内了） 生と死が創るもの（柳澤桂子） 「私作り」とプライバシー（阪本俊生）	8 8 8 6	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。	・情報操作の具体例を通し筆者の主張を理解しメディア社会に生きる問題意識を持つ。 ・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、関係を理解する。 ・三つの関係性を捉えて内容を把握し、生命科学点から「死」について考えを深める。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。	・現代社会の課題を把握し、根拠の示し方や説明の仕方を考えて書こうとしている。 ・主張と論拠を読み取り、表現を工夫し自分の考えをまとめようとしている。 ・筆者の経歴や発表している短歌等を調べ、生と死に関する自分の考えを深めようとしている。 ・論理の展開を分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。
3	1 2 3	不均等な時間（内山節） グローバリズムの「遠近感」（上田紀行） スピーチで自分を伝える	6 8 4	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・言い換えなどの修辞を理解する。 ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。	・具体例から一般論への展開と対比の構造とを手がかりに近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・「遠近感」の二重の意味を文脈から把握し、グローバル社会の問題を多様な視点で考える。 ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を実践する。	・既習の評論と粘り強く読み比べ、積極的に持続可能な社会に関する意見文を書こうとしている。 ・書き手の意図に対する自分の考えをもち、表現を工夫してまとめようとしている。 ・積極的にスピーチを聞き、評価シートを活用して評価しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期４学年　国語科目　＞　年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	精選　言語文化（第一学習社）
使用補助教材	古文単語３３０　（いいずな書店） 必携新明説漢文（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社） 新精選古典文法（東京書籍）

目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【評価の観点】 **（知識・技能）** 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 **（思考・判断・表現）**「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 **（主体的に学習に取り組む態度）** 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。 **【評価の方法・材料】** 授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・説話「宇治拾遺物語」	6	・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。	・古典の文章に慣れて、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・訓読に慣れ、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物の面白さを捉えようとしている。 ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 ・歌物語に積極的に親しみ、和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容をまとめようとしている。
	5	・小説「羅生門」	8	・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。		
	6	・物語「伊勢物語」	6	・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題から作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢文の訓読のきまりを理解する。		
	7	・故事成語「漁夫之利」 「蛇足」	4			

2	9 10 11 12	・詩　一つのメルヘン、自分の感受性くらい、I was born ・日記「土佐日記」 ・小説「夢十夜」 ・漢文「完璧」 「先従隗始」	8 8 8 6	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・訓読のきまりを理解する。	・詩独特の表現方法や構成などを理解し、作品に託されたメッセージを読み取る。 ・我が国最初の日記文学から記録ではない日記の表現方法と意図を読み解く。 ・「夢」という非日常の世界で「自分」の判断の根拠とは何かを読み解く。 ・史伝を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。	・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。 ・虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて批評しようとしている。 ・「夢」の中での判断やその根拠を捉え、作品世界を解釈しようとしている。 ・史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
3	1 2 3	・小説「城崎にて」 ・随筆「徒然草」 ・唐詩「春暁」「江雪」「月夜」他	8 6 4	・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・主として敬語について文語のきまりを理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。	・三つの小動物の死と関連して心境を読み取り、死生観を深める。 ・さまざまな文体を駆使した随筆を踏まえて､内容や展開を的確に捉える。 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の思いを読み取る。	・作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。 ・作者の批判・教訓・感動を読み取り、考えた事を伝え合おうとしている。 ・漢詩のきまりを進んで理し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜後期５学年　文学国語＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	「文学国語」（筑摩書房）
使用補助教材	改訂版　プログレス〈読解・論点・探究〉現代文総演習発展編 入試頻出漢字＋現代文重要語彙　TOP2500　三訂版 カラー版新国語便覧（第一学習社）

目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【評価の観点】 **（知識・技能）**生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 **（思考・判断・表現）**「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 **（主体的に学習に取り組む態度）**言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。 **【評価の方法・材料】**授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	豊かな認識へと導くことばに触れる 「プラスチック膜を破って」	6	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	5	小説から情景や心情を読み取る 「山月記」	8	・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。	・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈するなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	6	身近な題材を取り上げ、問題を発見する 「メディアと倫理」	6	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	7	現実を多面的に捉える想像力を身につける 「異なり記念日」	4	・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。	・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。

2	9 10 11 生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える 「死者の声を運ぶ小舟」 12 選び抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう 「小景異情」「永訣の朝」	「自己」を追い求める近代の特色について考える 「こころ」	１２ ８ ６	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について，体系的に理解し使っている。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
3	1 2 異質な価値観のぶつかり合いを読み解く 「舞姫」 3	柔軟に思考するために新鮮な着眼点を探る 「文学の仕事」	６ １４	・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなかで、自らの学習を調整しようとしている。 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すなかで、自らの学習を調整しようとしている。
		年間授業時数	７０			

令和６年度　＜後期５学年　古典探究＞　年間指導計画

単位数	３単位
使用教科書	「高等学校古典探究」古文編・漢文編（第一学習社）
使用補助教材	必携新明説漢文（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社） 新精選古典文法（東京書籍） 古文単語 330（いいずな書店） ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル　三訂版

目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （2）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【評価の観点】 **（知識・技能）**生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。 **（思考判断表現）**「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 **（主体的に学習に取り組む態度）**言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養おうとしている。 **【評価の材料】**授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容 ●古文　▼漢文	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	●随筆『徒然草』『方丈記』 観念性・抽象性の高い文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、人間・社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	12	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	5	▼古代の史話「背水之陣」 やや長めの文章を読むことによって訓読の方法に習熟し、漢文の読解力を高める。歴史に残る名場面を迫力ある表現で描いた史伝の魅力を味わう。	6	古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察するなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	6	●随筆『枕草子』 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	9	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	7	●歌物語『大和物語』 歌物語における和歌の役割を理解する。	3	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すこと を通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。

		▼漢詩「絶句」「律詩」「古体詩」 ▼日本の漢文(日本漢詩) それぞれの詩のリズムを味わい、詩句に込められた作者や登場人物の心情を把握する。	6	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
2	9	●日記『和泉式部日記』 日記を読んで、人間、文学、社会などに対する作者のものの考え方や感じ方を理解する。	8	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	10	▼項羽と劉邦『史記』 歴史に残る名場面を迫力ある表現で描いた史伝の魅力を味わう。長めの文章を読むことによって訓読の方法に習熟し、漢文の読解力を高める。	13	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との 関係について理解を深めている。	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、 考え方を深めている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化につい て自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	11 12	●物語『源氏物語』 長編物語を読んで、登場人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。	18	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を 深めている。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、 表現の特色について評価している。	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、 考え方を深めるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
3	1	●物語『大鏡』 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を話の展開に即して読み取る。	12	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする 読書の意義と効用について理解を深めている。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、 表現の特色について評価するなかで、自らの学習を調整しようとしている。
		▼逸話 名文と呼ばれる文章を読み、作者のものの見方や考え方を理解するとともに、駢儷文の持つ表現の華麗さを味わう。	3	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化につい て自分の考えを広げたり深めたりしている。	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	2	▼諸家の思想『孟子』『老子』『荘子』『韓非子』 読解を通して、人間や社会のあり方に対する儒家の主張の概要を理解する。	7	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化につい て自分の考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。
	3	●和歌・俳諧 『古今和歌集』 和歌の修辞技巧を理解し、各歌が作者のどのような意識のもとに作り上げられているかを理解する。	8	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりするなかで、自らの学習を調整しようとしている。
年間授業時数			105			

令和６年度　＜後期６学年　論理国語　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	高等学校　論理国語(第一学習社)
使用補助教材	入試頻出漢字＋現代文重要語彙 ＴＯＰ２５００

目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 **【思考・判断・表現】**「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。 **【評価の方法・材料】**授業に取り組む姿勢や小テスト、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	自他の「間あい」（鷲田清一） 評論のしるべ	4	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・言い換えや比喩を用いて、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 ・「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述し、発表する。	・粘り強く本文の構成と各段落の関係を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。
	5	「私」中心の日本語（森田良行） 評論のしるべ	6	・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 ・読書の意義と効用を理解する。	・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	・筆者が説明する「私」と「公」との関係を表や図を用いて積極的に整理しようとしている。
		実用文一　法に関わる文章を読み比べる	4	・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	・異なる形式で書かれた複数の実用的な文章を粘り強く読み、学習課題に沿ってまとめようとしている。
	6	ＡＩ時代の社会と法（小塚荘一郎） 評論のしるべ	6	・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	・ＡＩ（人工知能）の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。	・本文を粘り強く読み、テクノロジーの進化が経済活動にもたらす変化を説明しようとしている。
	7	なぜ多様性が必要か（福岡伸一） 評論のしるべ	4	・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	・生物多様性の必要性について述べた本文を粘り強く読み、内容の理解を深めようとしている。

2	9	人間という中心と、それよりも〈軽い命〉（金森修） 評論のしるべ	6	・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にするはたらきがあることを理解する。	・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。	・具体と抽象の関係を整理しながら本文を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成を捉えようとしている。
	10	身体の個別性（浜田寿美男） 評論のしるべ	6	・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較し、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。	・筆者の「自己中心的利他性の弊」について自身に引きつけて考えようとしている。
	11	コスモポリタニズムの可能性（河野哲也） 評論のしるべ	6	・読書の意義と効用を理解する。	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。	・グローバル化する社会で「コスモポリタン」という自覚をもって生きることについて考えようとしている。
	12	ジェンダー化された身体の行方（川本玲子）	6	・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	・ジェンダーをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。	・学習課題に沿って「ジェンダー化された身体」とはどのようなものか、積極的に説明しようとしている。
3	1	ヒトの進化と現代社会（長谷川眞理子） 評論のしるべ	4	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し考えようとしている。
	2	「である」ことと「する」こと（丸山真男） 評論のしるべ	8	・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・読書の意義と効用を理解する。	・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	・民主主義社会のあり方について述べた評論を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成や、要旨を捉えようとしている。
		日本の雇用形態に関わる文章と資料を読み比べる	4	・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	・非正規雇用に関する文章と資料から必要な情報を読み取り、複数の情報を関連づけて問題点をまとめる。	・複数の図表を伴う文章を粘り強く読み、解釈したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。
	3	現代日本の開化（夏目漱石） 評論のしるべ	6	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・一般の開化と日本の開化との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	・既習の評論と粘り強く読み比べ、文章の内容や筆者の姿勢における共通点と相違点を整理し、積極的に発表しようとしている。 ・本文を粘り強く読み、聴衆が講演を理解しやすいように筆者が施した工夫について理解を深めようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期６学年　科目　現代文演習　＞　年間指導計画

単位数	単位　２
使用教科書	高等学校論理国語（第一学習社）
使用補助教材	入試頻出漢字＋現代文重要語彙ＴＯＰ２５００

目標
言語活動を通して、思考力、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起し、総合的な国語力を育成する。

評価の観点と方法・材料

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	随想（問題演習）	6	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察する。	文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 一人１台端末を活用して、仲間と意見を共有し、お互いの考えに理解を示そうとしている。
	5	評論（問題演習）	8			
	6	小説（問題演習）	8			
	7	詩、短歌、俳句（問題演習）	2			
2	9	随想（問題演習）	6	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点を理解する。 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察する。	文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 一人１台端末を活用して、仲間と意見を共有し、お互いの考えに理解を示そうとしている。
	10	評論（問題演習）	8			
	11	小説（問題演習）	8			
	12	詩、短歌、俳句（問題演習）	6			
3	1	随想（問題演習）	6	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点を理解する。	登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察する。
	2	評論（問題演習）	8			
	3	小説（問題演習）	4			
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期６学年　選択発展古典　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	探求古典探究 古文編・漢文編（桐原書店）
使用補助教材	完全マスター古典文法（第一学習社） 古文単語 330（いいずな書店） 必携新明説漢文（尚文出版） 新訂総合国語便覧（第一学習社）

目標
文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

評価の観点と方法・材料
文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力等を、日常の授業態度、演習の成果と定期考査、提出物等を対象として総合的に評価する。

学期	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	随筆（問題演習） 日記（問題演習） 物語（問題演習） 漢詩（問題演習） 逸話（問題演習）	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を理解する。 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解する。 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を理解する。 ・一人１台端末の活用(意見共有での活用)	【知識及び技能】 定期考査 ワークシート 小テスト 【思考力、判断力、表現力等】 定期考査 ノート ワークシート 発表 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート 観察	８ １０ １６ ６ １０
2	物語（問題演習） 日記（問題演習） 史伝（問題演習） 思想（問題演習）	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を理解する。 本文から読みとった人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察する。 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを深める。 ・一人１台端末の活用(意見共有での活用)	【知識及び技能】 定期考査 ワークシート 小テスト 【思考力、判断力、表現力等】 定期考査 ノート ワークシート 発表 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート	１２ １４ １４ １０

3	物語（問題演習） 歌論（問題演習） 思想（問題演習）	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付けて考察する。 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを深める。	【知識及び技能】 定期考査 【思考力、判断力、表現力等】 定期考査 ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート 観察	１６ １２ １２
配　当　時　間　合　計				１４０

令和６年度　＜６学年　選択古典演習＞　年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	新探究古典Ｂ 古文編・漢文編 （桐原書店）
使用副教材	完全マスター古典文法（第一学習社） 古文単語 330（いいずな書店） 必携新明説漢文（尚文出版） 新訂総合国語便覧（第一学習社）

目標
・文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉え、古典を読む能力を養うとともに、人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

評価の観点と方法・材料
文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して古典を読む力等を、日常の授業態度、演習の成果と定期考査、提出物等を対象として総合的に評価する。

学期	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	随筆（問題演習）	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深める。	【知識及び技能】 定期考査 ワークシート	6
	日記（問題演習）	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を理解する。	小テスト	8
	逸話（問題演習）	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を理解する。 一人１台端末の活用(意見共有での活用)	【思考力、判断力、表現力等】 定期考査 ノート ワークシート 発表 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート 観察	6
2	物語（問題演習）	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。	【知識及び技能】 定期考査 ワークシート 小テスト	8
	日記（問題演習）	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を理解する。	【思考力、判断力、表現力等】	6
	史伝（問題演習）	本文から読みとった人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察する。	定期考査 ノート ワークシート	8
	思想（問題演習）	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを深める。 一人１台端末の活用(意見共有での活用)	発表 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート	6

3	物語（問題演習） 歌論（問題演習） 思想（問題演習）	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付けて考察する。 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを深める。	【知識及び技能】 定期考査 【思考力、判断力、表現力等】 定期考査 ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 ノート 振り返りシート 観察	8 6 6
配　当　時　間　合　計				７０

令和６年度　＜４学年　地理総合　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	高等学校地理総合（第一学習社） 詳解現代地図　最新版（二宮書店）
使用補助教材	最新地理図表 GEO（第一学習社）

目標
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する世界に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、レポート課題等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	A 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 (1)地図や地理情報システムと現代世界	16	・地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。 ・地図やGISの役割や有用性などについて理解し、それらを用いて、情報を収集し、読み取ってまとめる技能を身に付けている。	・現代世界の地域構成について、世界的視野からみた日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを、また、地図やGISについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的、多角的な視野から考察し、表現している。	・地図やGISと現代世界について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に追究しようとしている。
		B 国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解	20	・人々の生活文化の多様性や、地理的環境の変化によって変容すること、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	・世界の人々の生活文化について、主題を設定し、多様性や変容の過程やその要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会でみられる課題を主体的に追究しようとしている。
2	9 10 11 12	(2)地球的課題と国際協力	16	・地球的課題の各地で共通する傾向性やそれぞれの課題の関連性などについて大観し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した取組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	・地球的課題について、地域のつながりや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にその地域にみられる課題を主体的に追究しようとしている。
3	1 2	C 持続的な地域づくりと私たち (1)自然環境と防災	12	・自然災害の規模や頻度、地域に応じた備えや対応の重要性などについて理解し、各種の地理情報について、収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身につけている。	・地域性を踏まえた防災について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察して表現している。	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に現代社会でみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	3	(2)生活圏の調査と地域の展望	6	・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた政策や探究する手法などについて理解している。	・生活圏の地理的な課題について、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを他地域との比較など多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に現代社会でみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜４学年　歴史総合＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	帝国書院『明解 歴史総合』
使用補助教材	帝国書院『歴史総合図説　シンフォニア』 帝国書院『明解 歴史総合』

目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テスト、レポート課題、作業課題、発表活動等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	歴史の扉 18 世紀のアジアの繁栄 ・前近代の東アジア情勢 工業化の進展と国民国家の建設 ・産業革命の影響 ・仏革命・米独立革命の影響 結び付く世界と日本の開国 ・アジアの植民地化 ・日本の開国と近代化 帝国主義とアジア諸国の変容 ・帝国主義の波及 ・富国強兵政策の影響	4 8 8 6	交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現している。	交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動に関心を高め，課題意識を 持ち、追究しようとしている。
2	9 ・第一次世界大戦と戦後体制 ・大戦後の政財界への影響 10 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌の影響 ・日中戦争と第二次世界大戦 11 第二次世界大戦後の世界と日本 ・大戦後の国際体制 ・日本の占領政策 12 ・冷戦と国際秩序の変化	第一次世界大戦と大衆社会	8 8 12	第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立、世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の変化について理解し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。	第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立、世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策に関心を高め，課題意識を持ち、追究しようとしている。
3	1 ・冷戦と第三世界 ・高度経済成長の影響 2 世界秩序の変容と日本 ・石油危機の影響 ・アジアの経済成長と民主化 ・冷戦の終焉 3 ・グローバル化の光と影 現代的な諸課題の展望	冷戦と植民地化・第三世界の台頭	8 10	日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，国際政治の変容，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	持続可能な社会の実現を視野に入れ，現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，主題について多面的・多角的に考察，構想して探究し，現代的な諸課題について問いを表現している。	科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり，人々の生活と社会の在り方が変化したことに関心を高め，課題意識を持ち、追究しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期４学年　公共　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	清水書院「705 公共　私たちがひらく未来・社会」
使用補助教材	とうほう「フォーラム公共２０２４」 清水書院「705 公共 高等学校 公共 ワークノート」

目標
・人間と社会についての見方・考え方を働かせる。 ・現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。 ・広い視野にたち、これからの時代を切り開く主体的な人間としての思考力をはぐくむ。

評価の観点と方法・材料
先哲の思想や現代の諸課題について関心を持ち、課題を客観的に考察し、課題に対する考えや解決に向けた考えを適切に表現する力が備わっているか、また、これからの社会を主体的に生きる人間として必要な知識・思考力を身に付けているか、授業に取り組む姿勢や課題レポート、定期考査等を対象に総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	公共的な空間をつくる私たち 私たちの人生と社会 青年期の心理と課題 哲学の始原と発展 ギリシャ思想 一神教の教え 儒教と仏教	8 8 8 4	・青年期の特徴と発達課題、様々な人間の心の在り方について理解する。 ・人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。	ギリシャ哲学や宗教の学習を通して、「幸福」「愛」「徳」などの観点から、人間としての在り方生き方について思索する。	豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。
2	9 10 11 12	日本の風土と神仏への信仰 江戸時代の学問と近代化への歩み 義務論と功利主義 生命倫理 環境倫理 近代のはじまり 科学的な思考	6 8 8 6	日本の思想が我が国の風土や伝統、外来思想の影響を受けながら形成されてきたことを理解する。 ・カントの思考と功利主義の考え方を理解する。 ・深刻化する環境問題とその解決に向けた取り組みを理解する。	・国際社会に生きる日本人としての自己の在り方生き方について多面的・多角的に考察する。 ・社会の構成員としての自己を意識するとともに,「幸福」「正義」「公正」などの観点から,他者との関わりや社会のあり方について考察する。	・生命科学や医療技術の進展にともなって生じた倫理的課題から、生きることの意義について思索している。 ・「幸福」「公正」などの観点を理解し、社会のあり方について考察している。 球規模の課題を身近な地域の問題として捉え、社会の構成員として生きる自己のあり方について考察している。
3	1 2 3	社会契約説 ヘーゲルとマルクス 実存主義 他者についての思考 公正な社会と個人	4 6 4	・経験論や合理論などの科学的な思考、社会契約説、ヘーゲルやマルクス、実存主義などの近代思想を通して、自然と人間との関わりを理解する。 ・ハーバーマスやアーレント、ロールズらの政治理論を理解する。	・社会の在り方と人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察する。	・知識をもとに「公共的な空間」として形成された現代社会の諸課題、「社会的存在」である人間の在り方生き方について主体的に考察している。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期５学年　地理探究　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	地理探究（東京書籍） 詳解現代地図　最新版（二宮書店）
使用補助教材	最新地理図表 GEO（第一学習社）

目標
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する世界に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テストや課題等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	世界の地形 世界の気候 資源・エネルギーと工業 交通・通信、貿易、観光	46	地形や気候といった自然環境の形成要因を理解している。また、資源・エネルギーの重要性を把握し、地域ごとの交通・通信、貿易、観光の違いやその現代における変化、その形成要因・分布、人間生活との関係に着目しながら理解している。	地形や気候などの自然の形成過程を考察し，その特徴を踏まえながら，人間生活との関係について表現している。同様に、分布が均一ではない資源・エネルギーと工業との関係、そして近年変化が著しい交通・通信や観光の変化などを表現している。	地形や気候などの自然とと人間生活、資源・エネルギーと工業との関係、地域ごとの交通・通信等の違いについて関心と課題を、意欲的に追究しとらえようとしている。
2	9 10 11 12	人口 人口問題 都市 都市問題 民族 国家と領土 世界の諸地域 アジア 東南アジア 南アジア 西・中央アジア	54	人口はどのような場所で多く、またそれがどのような要因で変化したのかを理解する。また人口が集中する都市や過疎化が進む村落の問題を理解する。 世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。	人口分布と変化の要因を自然・社会環境からその違いを考察する。また、世界の諸地域が同じ地球上でありながら、人々の生活が違っている理由を、歴史的背景も踏まえながら考察する。 世界の諸地域での人々の生活が異なる理由を、可能であれば歴史的背景も踏まえながら考察する。	人口、都市・村落、そして世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。 世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。
3	1 2 3	世界の諸地域 アフリカ ヨーロッパ ロシアとその周辺諸国 北アメリカ、 中南アメリカ オセアニア 日本の国土像	40	世界の諸地域の自然環境や社会環境に着目して理解し、その地域で発生している諸問題を把握する。	世界の諸地域での人々の生活が異なる理由を、可能であれば歴史的背景も踏まえながら考察する。また、同じ新大陸諸国であるアメリカとブラジル、オーストラリアを比較地誌的な視点で考察する。	世界の諸地域で発生している諸課題を自分事化し、その原因を追究し、その解決を図ろうとしている。
年間授業時数			140			

令和６年度　＜５学年　世界史探究　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	詳説世界史（山川出版社）
使用補助教材	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解や国際的共生といった意識を育てる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、ノート・レポート等の提出物、確認テスト、定期考査等を対象として総合的に評価し、５段階で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・文明の誕生 ・中央アジア世界 中国の統一、動乱と東アジア文化圏の形成 ・仏教、ヒンドゥー教の成立と南アジア世界と東南アジア世界 ・イラン諸国家とギリシア人都市国家、ローマの地中海支配	46	都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質やアジア，地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解している。	古代文明とアジア，地中海周辺の原因・結果，相互の関連などに着目し主題を設定し，諸資料を比較したりして読み解き，多面的・多角的に考察している。	古代文明とアジア，地中海周辺の歴史的特質，について，多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。
2	9 10 11 12	・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の諸地域への伝播、西アジアの動向 ・西欧の封建社会とその展開、東西ヨーロッパ世界のそれぞれ異なる展開とのその文化 ・アジア諸地域の自立化と宋、モンゴルの大帝国	54	西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 地中海周辺とヨーロッパの歴史的特質を理解している。 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	西アジアと地中海周辺の歴史の原因，結果，相互の関連や中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したりして読み解き，多面的・多角的に考察し，表現している。	西アジア社会の動向とイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開、宋、モンゴルの大帝国について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。
3	1 2 3	・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出 ・アメリカ大陸の変容	40	アジア海域での交易の興隆，明と日本・朝鮮の動向，スペインとポルトガルの活動などを基に，諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。	諸地域の交易とヨーロッパの進出の原因，結果や相互の関連に着目し，主題を設定し，諸資料を比較したりして読み解き，アジア海域での交易の特徴，ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。	諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出について，課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察をしようとしている、または主体的に理解を深めようとしている。
		年間授業時数	140			

令和６年度　＜５学年　日本史探究　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	詳説日本史　(山川出版)
使用補助教材	新詳日本史　(浜島書店)

目標
・近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。現代の社会や国民生活の特色について、国際環境に関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価し、５段階で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・日本文化のあけぼの 文化の始まり 農耕社会の成立 古墳文化の展開	8	日本列島における旧石器文化・縄文文化、弥生文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。	黒曜石や稲作などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化、弥生文化の社会について考察し、表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。
	5	・律令国家の形成 飛鳥の朝廷の成立 平城京、律令国家の変容	10	隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成や密接に関連する仏教文化の特色を理解している。	文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
		・貴族政治の展開 摂関政治、国風文化		藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。
	6	・院政と武士の躍進 院政と平氏政権 ・武家政権の成立 鎌倉幕府の成立 モンゴル襲来と幕府の衰退	10	諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。	鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。
	7	・武家社会の成長 室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の	8	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成	南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジア	武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前

		台頭		立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。	の国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	後の時代とのつながりを見出そうとしている。
2	9	・幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定	12	幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。	戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。
	10	・幕藩体制の動揺 幕政の改革 幕府の衰退と近代への道	15	列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。	国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
	11	・近世から近代へ 開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足	15	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。	日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。	幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。
	12	・近代国家の成立 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立		明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		・立憲国家の成立と日清戦争 自由民権運動、憲法制定 条約改正交渉、日清戦争		諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。	国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。

		・近代国家の展開 日露戦争と国際関係 資本主義の成立と発展		日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。	議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
		第一次世界大戦と日本 第一次世界大戦と大戦景気、政党政治の展開		第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
		ワシントン体制、協調外交の展開		政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。	当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
		・恐慌と第二次世界大戦 軍部の台頭 第二次世界大戦 日中戦争から太平洋戦争		戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
3	1	・占領下の日本 占領と改革 戦後改革と経済再建	12	第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多	現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。

				政策と諸改革について理解している。	面的・多角的に考察し、表現している。	
		冷戦の開始と講和 占領政策の転換と講和		占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。	地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。	連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。
	2	・高度成長の時代 ５５年体制、国際情勢と国内政治高度成長と国民生活	9	保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。	日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。
		経済大国への道 安定成長期		冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。	日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。	高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
	3	・激動する世界と日本 冷戦終結と日本社会の動揺	6	ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。	日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。
		バブル崩壊と構造改革		冷戦終結後の国際関係、55 年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。	国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
年間授業時数			105			

令和６年度　＜後期６学年　発展地理　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	地理探究（東京書籍）
使用補助教材	新詳地理資料 COMPLETE

目標
・大学入学共通テスト、及び国公立大学二次試験での地理で高得点が採れるような学力を育成する。

評価の観点と方法・材料
受講人数が多い場合は授業内テストによって、少ない場合は授業の取り組み状況で評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	自然地理（地形）	6	・基本的な用語などの知識を理解しているか。 ・地形図を読図できるか。	・既存の知識を活用して問題を解く能力が備わっているか。	・事前に提示した地名リストを活用し、世界の自然地形名や国名・都市名などを把握しているのかを問う小テストの点数。 ・定期テストでの地理に関係した時事問題の点数。 ・授業で指名した際の受け答えなどを含む授業態度。
	5	自然地理（気候）	6	・地球上の事象を、主題図を読み取ることで把握できているか。	・既存の知識を活用して主題図を読み取ることができるか。	
	6	農業	8	・各自の PC を活用して GIS で得られた主題図を理解できているか。また、簡素な GIS を操作できるか。	・さまざまな現象を GIS 活用して「見える化」し、地理的に読み取ることができるか。	
	7	食料問題	4			
2	9	都市・村落 都市問題、過疎問題	6	・基本的な用語などの知識を理解しているか。 ・地形図を読み取ることができるか。 ・地球上の事象を、主題図を読み取ることで把握できているか。 ・各自の PC を活用して GIS で得られた主題図を理解できているか。また、簡素な GIS を操作できるか。	・既存の知識を活用して問題を解く能力が備わっているか。 ・既存の知識を活用して主題図を読み取ることができるか。 ・さまざまな現象を GIS 活用して「見える化」し、地理的に読み取ることができるか。	・定期テストでの地理に関係した時事問題の点数。 ・授業で指名した際の受け答えなどを含む授業態度。 ・記述問題の個別指導時の受け答えを通じて生徒たちの興味・関心を表する。
	10	資源エネルギー 鉱工業	6			
	11	地誌	8			
	12	総まとめ	6			
3	1	総まとめ	6	・大学入試問題を解くために必要な知識が身についているか。	・大学入試問題を解くために必要な思考力や文章力が身についているか。	・記述問題の個別指導時の受け答えを通じて生徒たちの興味・関心を表する。
	2	二次試験対策の個別指導	個別			
	3	二次試験対策の個別指導	個別			
年間授業時数			58			

令和６年度　＜６学年　選択発展世界史＞　年間指導計画

単位数	4 単位
使用教科書	山川出版社　詳説世界史Ｂ
使用補助教材	浜島書店　ニューステージ　世界史詳覧

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生や現代を歴史的に捉えられる思考を養う。

評価の観点と方法・材料
授業態度・ノート作成・発問への答えかた・定期考査によって評価を行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・ルネサンス	20	・ルネサンスを支えた精神の特徴ルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解し、多面的・多角的に考察し表現する。
		・宗教改革		・それまでの教会改革の試みと 16 世紀の宗教改革の違い、カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。
		・主権国家体制の成立		・主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。
	5	・オランダ・イギリス・フランスの台頭	20	・オランダの覇権獲得および衰退、イギリス革命、近世フランス、イギリスとフランスの覇権争いを多面的・多角的に考察し表現する。
		・北欧・東欧の動向		・ロシアの主権国家体制、プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。
		・産業革命		・イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
	6	・アメリカ合衆国の独立と発展	20	・アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
		・フランス革命とナポレオンの支配		・フランス革命変遷や外国に与えた影響、ナポレオン支配に対する反応を多面的・多角的に考察し表現する。中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。
	7	・中南米諸国の独立		・ウィーン会議が目指した国際秩序、ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。
		・ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動と列強体制の動揺とヨーロッパの再編成		・領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
		・アメリカ合衆国の発展		・19 世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。
		・19 世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄		
2	9	・第一次世界大戦とロシア革命	20	・第一次世界大戦が勃発した原因もたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。
		・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国		・第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。
	10	・アジア・アフリカ地域の民族運動	20	・第一次世界大戦が東アジア、インド・東南アジア・アフリカ、西アジアに与えた影響を理解する。
		・世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊		・世界恐慌が起こった背景やその影響、ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
	11	・第二次世界大戦	20	・第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。
	12	・新しい国際秩序の形成		・戦後国際秩序がいかなる構想のもと形成されたのかを理解する。
		・冷戦の展開		・米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。
		・第三世界の台頭とキューバ危機		・アジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。
		・冷戦体制の動揺		・1960 年代におけるアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容を多面的・多角的に考察し表現する。

3	1 2 3	・産業構造の変容 ・冷戦の終結 ・今日の世界	20	・経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化、1970～1980 年代に進んだ開発途上国の工業化の経緯を理解する。 ・ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。
年間授業時数			140	

令和６年度　＜６学年　選択世界史演習＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	山川出版社　詳説世界史Ｂ
使用補助教材	浜島書店　ニューステージ　世界史詳覧

目標
・世界の歴史を学ぶことによって、多様な文化を理解し世界観を育成する。そして国際理解・国際的共生と現代を歴史的に捉えられる思考を養う。

評価の観点と方法・材料
授業態度・ノート作成・発問への答えかた・演習問題の成果によって評価する

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・５年生で学習した大航海時代から絶対主義までの世界史について問題演習を通して復習する。	15	・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。
	5	・アジア諸帝国の繁栄		・ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。
	6	・絶対主義から１９世紀ヨーロッパ世界を問題演習を通して復習する。	14	・模擬テストを毎時間ごとに実施し、それによって評価する。
	7			
2	9	・大学入試過去問題と問題演習をとおして、受験準備を進める。 ・先史時代から１学期に実施した時代を除いて、現代までの大学入試過去問題の演習を行う。	14	・演習問題を通して、これまでの学習を総復習する。
	10	・先史時代～古代オリエント世界 ・ギリシア・ローマ世界 ・古代インド・古代中国 ・アジア諸地域の動揺 ・イスラーム世界 ・ヨーロッパ中世史		・知識及び理解の足りないところを再確認し、知識の定着を図る。 ・オスマン帝国の動揺の要因、イギリスによるインドの直接統治の特徴、東南アジアの植民地化の経緯を理解する。
	11	・帝国主義とアジアの民族運動	15	・第二次産業革命、列強の植民地化、アジア諸国の変革と民族運動を多面的・多角的に考察し表現する。
	12	・近世ヨーロッパ世界 ・近代ヨーロッパ世界 ・欧米における近代国家の形成		
3	1	・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動	6	・大学入試過去問題を通して、各テーマについて理解し、学力がついているかを見る。
	2	・二つの世界大戦 ・冷戦と第三世界の独立	6	・知識の定着を確認し、不十分なところを補う。
	3			
		年間授業時数	70	

令和６年度　＜後期６学年　科目　発展日本史＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	詳説日本史　(山川出版)
使用補助教材	新詳日本史　(浜島書店)

目標
近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。現代の社会や国民生活の特色について、国際環境に関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6	・近世から近代へ 開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足	8	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。	日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。	幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。
	7	・近代国家の成立 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立	10	明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		・立憲国家の成立と日清戦争 自由民権運動、憲法制定 条約改正交渉、日清戦争	10	諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。	国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
		・近代国家の展開 日露戦争と国際関係 資本主義の成立と発展	10	日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期	議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて	対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。

				の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。	多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	
		第一次世界大戦と日本 第一次世界大戦と大戦景気、政党政治の展開	10	第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
		ワシントン体制、協調外交の展開	10	政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。	当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
		・恐慌と第二次世界大戦 軍部の台頭 第二次世界大戦 日中戦争から太平洋戦争	10	戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
2	9 10 11 12	・占領下の日本 占領と改革 戦後改革と経済再建	8	第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。
		・冷戦の開始と講和 占領政策の転換と講	8	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に	地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社	連合国による日本占領機

		和		関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。	会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。	構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。
		・高度成長の時代 ５５年体制、国際情勢と国内政治高度成長と国民生活	10	保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。	日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。
		・経済大国への道 安定成長期	10	冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。	日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。	高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
		・激動する世界と日本 冷戦終結と日本社会の動揺	8	ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。	日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。
		バブル崩壊と構造改革	8	冷戦終結後の国際関係、55 年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。	国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。

3	1 2 3	テーマ別学習 ・政治史 ・文化史 ・社会経済史 ・外交史	20			
年間授業時数			140			

令和６年度　＜後期６学年　科目　日本史演習＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	詳説日本史　(山川出版)
使用補助教材	新詳日本史　(浜島書店)

目標
大学入学共通テストをはじめ大学入試の実際の出題例に多く触れさせることにより、通史・部門史の知識を確実なものとし、多様な入試問題に対応できる力を身につけさせる。

評価の観点と方法・材料
授業に取り組む姿勢や、確認テスト、レポート等の提出物、定期考査等を対象として総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	古代史演習 ・日本文化のあけぼの、律令国家の形成旧石器時代から奈良時代について、問題演習を通じて理解を深める。 中世史演習 ・貴族政治と国風文化、中世社会の成立と発展など、平安時代から室町時代について、問題演習を通じて整理し、理解を深める。	26	・旧石器時代から古墳時代の文化の諸相、および古代律令国家の成立に至る時期の政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 ・平安時代から室町時代にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。	・問題演習を通じて、古代史・中世史の歴史的意義等について考察している。	・積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。
2	9 10 11 12	近代史演習 ・幕藩体制の確立と展開 織豊時代から江戸時代前期について、問題演習を通じて理解を深める。 ・幕藩体制の動揺 江戸時代中・後期について、問題演習を通じて理解を深める。	26	・織豊時代から江戸時代前期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。 ・江戸中期から後期にかけての政治・外交・経済・文化の流れについて、大局的な見地から理解している。	・問題演習を通じて、近代史の歴史的意義等について考察している。	・積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。
3	1 2 3	【テーマ別演習】 ・古代から現代に至る内政・外交・経済の展開を通観させ、理解を深める。 ・古代から現代に至る文化の展開を通観させ、理解を深める。 ・わが国の古代から近現代にいたる歴史について、地理的な見方を交えて考察する。	18	・内政、外交のそれぞれのテーマに沿って、日本史の大きな流れを理解することができる。 ・経済の展開について、土地制度や貨幣制度等のテーマに沿って大きな流れを理解することができる。 ・文化の発展について、文学、学問、美術等のテーマに沿って大きな流れを理解することができる。	・問題演習を通じて、テーマ史別の歴史的意義等について考察している。	・積極的に問題演習に取り組むとともに、自分なりに復習を行い、まとめを行っている。
		年間授業時数	140			

令和６年度　＜６学年　政治・経済＞　年間指導計画

単位数	単位
使用教科書	実教出版「312 高校政治・経済」
使用補助教材	とうほう「政治・経済資料 2024」

目標
・民主主義の本質を理解し、広い視野から現代の政治・経済・国際関係について客観的に理解する能力を身につける。 ・政治・経済・国際関係に関する諸課題について主体的に考察する。 ・公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
現代の政治、経済、国際関係について関心を持ち、課題を追究するとともに、国家や国際社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察する知識を身につけ、適切に表現する能力が養われているか、定期考査等を通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・民主政治の基本原理 ・日本国憲法の基本的性格 ・日本の政治機構 ・現代日本の政治	8 8 8 4	・政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。	・民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現している。 ・政党政治や選挙などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。	・現代日本の政治について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
2	9 10 11 12	・現代の国際政治 ・経済社会の変容 ・現代経済のしくみ ・現代経済と福祉の向上	6 8 8 6	・現代の国際政治・経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収 集し，読み取る技能を身に付けている。	・国際平和に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。	・現代の国際政治・経済について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
3	1 2 3	・世界経済と日本 ・現代社会の諸課題	4 6 4		・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容，持続可能な国際社会づくりなど，課題の解決に向けて政治と経済とを関連させ多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方について説明，論述している。	・グローバル化する国際社会の諸課題について，よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期６学年　倫理　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	実教出版「倫理 702 詳述倫理」
使用補助教材	山川出版「倫理用語集」 山川出版「山川　一問一答　倫理」 実教出版「2025 実践攻略　公共，倫理　大学入学共通テスト問題集」

目標
・青年期の課題と、人間としての生き方を理解する。 ・主体としての自己の確立をめざして、人間の尊厳についての倫理的な考え方を学ぶ。 ・現代社会の倫理的な課題について、主体的な思考と公正な判断力を養う。

評価の観点と方法・材料
基本的な知識を身につけ、倫理的な課題に対する思考力や表現力が養われているかを授業や定期考査などを通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・青年期の課題と自己形成 【源流思想】 ・ギリシア思想 ・宗教 【西洋近現代思想】 ・人間の尊厳 ・科学・技術と人間 ・民主社会と自由の実現、社会と個人 ・人間への新たな問い、社会参加と幸福	4 8 8 8	・他者と共によりよく生きるための人間の心の在り方について理解している。 ・古今東西の先哲の思想を理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。	・自己の課題を捉え，その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして，より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し，表現している。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり，他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。
2	9 10 11 12	【日本思想】 ・古代日本人の思想 ・日本の仏教思想 ・近世日本の思想 ・西洋思想の受容と展開	6 6 8 8	・古今東西の先哲の思想を理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。	・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして，より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し，表現している。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり，他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。
3	1 2 3	【現代の諸課題と倫理】 ・生命の倫理 ・環境の倫理） ・家族の課題 ・地域社会の課題 ・情報社会の課題 ・文化と宗教の課題 ・国際平和と人類の福祉の課題	6 6 2	生命，自然，科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題や概念について理解し、人間としての在り方生き方に関わる知識と情報を読み取る技能を身に付けている。	・倫理的課題を見いだし，その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し，公正に判断して構想し，自分の考えを説明，論述している。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり，他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期４学年　文化科学Ⅱ　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	清水書院「705 公共　私たちがひらく未来・社会」
使用補助教材	とうほう「フォーラム公共２０２４」 清水書院「705 公共 高等学校 公共 ワークノート」

目標
・人間と社会についての見方・考え方を働かせる。 ・現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。 ・広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国会議員及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

評価の観点と方法・材料
現代の諸課題について関心を持ち、課題を客観的に考察し、課題に対する考えや解決に向けた考えを適切に表現する力が備わっているか、また、これからの社会の形成者として必要な公民としての知識を身に付けているか、授業に取り組む姿勢や課題レポート、定期考査等を対象に総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	民主政治の原理 人権の尊重と日本国憲法 民主政治の成立と課題 日本の政治機構	4 4 4 2	・日本国憲法の三つの基本原理を踏まえ、平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解している。 ・地方自治の仕組みと、地方自治が民主政治の基盤となっていることを理解している。	・現代社会において、基本的人権を拡充するものとして主張されている新しい人権の内容を理解するとともに、国際社会における人権に関する諸条約の意義を考察する。 ・国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みと課題を理解し、制度や機構の背景にある民主政治の考え方について多面的・多角的に考察する。	日本国憲法が保障している基本的人権の内容を通して、政治制度との関わりについて考察し、個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について理解を深める。 ・司法制度の仕組みと課題を理解し、よりよい司法の実現のために、国民が司法に参加する意義を考察している。
2	9 10 11 12	国際政治のしくみと役割 国際政治の現状と課題 私たちの経済活動 経済社会のしくみと役割 市場と金融	3 4 4 3	・国際社会の変遷、人権、国家主権、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解する。 ・冷戦後の国際社会の変化、冷戦後の軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取り組みについて理解する。 ・市場経済の機能、金融や財政の仕組みについて理解する。	・グローバル化が進展する国際社会の在り方や課題を多角的・多面的に考察する。 ・市場経済の機能、金融や財政とその役割と課題について多面的・多角的に考察する。	・国際社会が抱える課題とその解決方法を考察している。 ・現代の企業の仕組みと特色を理解させ、企業統治や企業の社会的責任などについて考察している。 ・日本経済の歩みを通して、公害、環境保全、雇用と労働問題、少子高齢化における社会保障の課題について、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、多面的・多角的に考察している。

3	1 2 3	経済社会のしくみと役割 財政と企業 国際経済の現状と課題 持続可能な社会	2 3 2	・財政の仕組みについて理解する。 ・国際経済についての基本的な知識を身につけさせ、グローバル化する経済が抱える課題について理解する。	・市場経済の機能、金融や財政とその役割と課題について多面的・多角的に考察する。 ・国際経済について多面的・多角的に考察する。 ・これまでの学習を基礎に、人工知能・環境・資源・少子高齢化・地域社会について、「幸福」「正義」「公正」などの観点から課題を見出し、その解決策を多面的・多角的に考察する。	・国際経済の課題解決には国際協調や自他の文化や宗教などを尊重する相互理解と寛容の態度が必要であることを理解させる。 ・持続可能な社会づくりを担う、公共の精神をもった自立した主体として、主体的に社会に参画し、共に生きる社会を築くという姿勢について考察している。
年間授業時数			35			

令和６年度　＜４学年　数学Ⅰ　＞　年間指導計画

単位数	３単位
使用教科書	数研出版 数学Ⅰ
使用補助教材	サクシード 数学Ⅰ＋A チャート式 数学Ⅰ＋A チャート式 数学Ⅱ＋B 体系数学３ 数式・関編 体系数学３ 論理・確率編 ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑴ 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ⑵ 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ⑶ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・　数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・　事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 ・　命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 ・　数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、授業への取り組み、定期考査、提出物、等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6	2次関数	30	・　二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・　二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・　二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ・　二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し，二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。	・　二次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・　二つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・　事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

2	7 9	図形と計量	25	・　鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・　三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・　鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・　正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・　正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	・　図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し，定理や公式として導くことができる。 ・　図形の構成要素間の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・　事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
	10 11	データの分析	15	・　分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 ・　コンピュータなどの情報機器を用いるなどして，データを表やグラフに整理したり，分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ・　具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。	・　データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・　目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ・　不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりすることができる。	・　事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
3	12 1 2 3	いろいろな式	35	・　三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し，それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・　多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し，簡単な場合について計算をすることができる。 ・　数を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の四則計算をすることができる。 ・　二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している。 ・　因数定理について理解し，簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。	・　式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。 ・　実数の性質や等式の性質，不等式の性質などを基に，等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し，証明することができる。 ・　日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，方程式を問題解決に活用することができる。	・　事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
年間授業時数			105			

令和６年度　＜４学年　数学Ａ　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版 改訂版 数学Ａ
使用補助教材	サクシード 数学Ⅰ＋Ａ チャート式 数学Ⅰ＋Ａ チャート式 数学Ⅱ＋Ｂ 体系数学３ 数式・関編 体系数学３ 論理・確率編 ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑴　図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ⑵　図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。 ⑶　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・　図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・　数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・　事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 ・　図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を身に付けている。 ・　数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、授業への取り組み、定期考査、提出物、等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1		場合の数と確率	30	・　集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・　具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し，順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・　確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・　独立な試行の意味を理解し，独立な試行の確率を求めることができる。 ・　条件付き確率の意味を理解し，簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。	・　事象の構造などに着目し，場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・　確率の性質や法則に着目し，確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・　確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり，期待値を意思決定に活用したりすることができる。	・　事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

2		数学と人間の活動 （整数の性質）	27	・　整数の性質における基本的な概念，原則・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。 ・　整数の性質におけて，事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法をなどの技能を身に付けている。	・　整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方ができる。	・　整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらの事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしている。
3		図形の性質	13	・　三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・　円に関する基本的な性質について理解している。 ・　空間図形に関する基本的な性質について理解している。	・　図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し，図形の新たな性質を見いだし，その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・　コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして，図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	・　事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・　問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜５学年　数学Ⅱ＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	数研出版　数学Ⅱ
使用補助教材	サクシード　数学Ⅱ＋Ｂ チャート式　数学Ⅱ＋Ｂ 体系数学５ ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	**＜複素数と方程式＞** １．複素数	16	○複素数の表記を理解し，複素数，複素数の相等の定義を理解している。 ○複素数の四則計算ができる。 ○負の数の平方根を理解し，それらを含む式の計算を，i を用いて処理することができる。	○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し，複素数を考察することができる。 ○複素数の範囲で，負の数の平方根を考察することができる。	○方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し，考察しようとする。
		２．２次方程式の解と判別式		○2 次方程式の解の公式を利用して，2 次方程式を解くことができる。 ○判別式を利用して，2 次方程式の解を判別することができる。	○2 次方程式の解について，実際に解を求めずに，判別式で解の種類を判別することができることを理解している。	○2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し，2 次方程式の解を考察しようとする。

	5	3．解と係数の関係		○解と係数の関係を使って，対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○対称式を基本対称式で表して，式の値を求めることができる。 ○2 次方程式の解を利用して，2 次式を因数分解できる。 ○和と積が与えられた2数を，2 次方程式を解くことにより求めることができる。	○やや複雑な2数を解とする2次方程式がどのようなものであるか，解と係数の関係を利用して考察することができる。 ○異なる2つの実数α，βが正の数，負の数，異符号であることを，同値な式で表現できる。 ○2 次方程式の解の符号に関する問題を，解と係数の関係を利用して考察することができる。	○2 次方程式の解に関する種々の問題を，解と係数の関係を利用して考察しようとする。 ○2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち，問題に取り組もうとする。
		4．剰余の定理と因数定理		○剰余の定理を利用して，多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○剰余の定理を利用して，多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○$P(k)=0$ である k の値の求め方を理解し，高次式を因数分解できる。	○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。	○多項式を1次式で割る計算に，組立除法を積極的に利用する。
		5．高次方程式		○因数分解や因数定理を利用することにより，高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の既知の解から，方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式の虚数解から，方程式の係数を決定することができる。	○高次方程式を，1 次・2 次方程式に帰着して考察することができる。 ○高次方程式が解 α をもつことを，式で表現することができる。 ○「方程式が虚数 α を解にもてば $\overline{\alpha}$ も解である」ことの証明に，共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。	○1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。 ○方程式が虚数 α を解にもてば $\overline{\alpha}$ も解であることに興味・関心をもつ。 ○3 次方程式の解と係数に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。
		＜図形と方程式＞ 1．直線上の点	23	○線分の外分点の公式を適用する際に，分母を正にして計算することができる。 ○数直線上において，2 点間の距離，線分の内分点，外分点の座標が求められる。	○内分点の求め方と同様の考え方で 外分点を考察することができる。	○数直線上の点について調べようとする。
		2．平面上の点		○座標平面上において，2点間の距離が求められる。 ○距離の公式を利用して，図形の性質を証明できる。 ○座標平面上において，線分の内分点，外分点の座標が求められる。 ○三角形の重心の座標の公	○図形の性質を証明する際に，座標軸を適切に設定することで，計算が簡単になるように工夫をすることができる。 ○点の座標を求めるのに利用できる適切な図形の性質を判断でき，図形的条件（点対称，線対称など）を式で表現	○数直線上の点に関する公式を利用して，平面上の問題を考察しようとする。 ○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。

				式を理解している。	することができる。	
		3．直線の方程式		○直線が x，y の 1 次方程式で表されることを理解している。 ○x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形で表せないことを理解している。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。	○1 点を通る直線の方程式から，異なる 2 点を通る直線の方程式に拡張して考察することができる。	○公式を利用して，直線の方程式を求めようとする。
		4．2 直線の関係		○2 直線の平行・垂直条件を理解していて，それを利用できる。 ○連立方程式の実数解の個数と，2 直線の共有点の個数の関係を理解している。 ○ $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して，直線の方程式を求めることができる。 ○点と直線の距離の公式を理解していて，それを利用できる。	○連立方程式の解の状況を，2 直線の位置関係から考察することができる。 ○2 直線の交点を通る直線を，方程式を用いて考察することができる。 ○直線に関して対称な点の座標について，2 直線の関係を用いて考察することができる。 ○直線の方程式を利用して，図形の性質を証明することができる。	○2 直線の平行・垂直の関係を，直線の傾きに着目して考察しようとする。 ○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち，具体的な問題に利用しようとする。 ○三角形の垂心について，直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。
	6	5．円の方程式		○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○x，y の 2 次方程式を変形して，その方程式が表す図形を調べることができる。 ○3 点を通る円の方程式を求めることができる。	○円の方程式が x，y の 2 次方程式で表されることを理解し，x，y の 2 次方程式が，常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○3 点を通る円と，この 3 点を頂点とする三角形との関係を考察することができる。	○与えられた方程式が表す図形に興味･関心をもつ。
		6．円と直線		○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円と直線の位置関係を，適切な方法で判定できる。 ○円の接線の公式を理解していて，それを利用できる。 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。	○円と直線の共有点の個数を，2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで，円と直線の位置関係を考察することができる。 ○直線が円によって切り取られてできる線分の長さを，円の中心と直線の距離を用いて考察することができる。	○円と直線の位置関係を，2 次方程式の判別式や，円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。

		7．2 つの円		○2 つの円の位置関係を調べることができる。 ○2 円の中心間の距離と半径の関係を利用して，ある円と外接・内接する円の方程式を求めることができる。 ○ $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して，円の方程式を求めることができる。	○2 つの円の位置関係を，2 円の中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ○2 つの円の交点の座標や，交点を通る円について，2 つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。	○2 つの円の交点と，その交点を通る円の方程式に興味・関心をもち，具体的な問題に利用しようとする。
		8．軌跡と方程式		○直線や円などを，条件を満たす点全体の集合として考えることができる。 ○軌跡の定義を理解し，与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。	○平面上の点の軌跡を，座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求めるには，逆についても調べる必要があることを理解している ○点が満たす条件から得られた方程式を，図形として考察することができる。	○点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。
		9．不等式の表す領域		○不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ○図で与えられた領域を不等式で表すことができる。 ○領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 ○領域を利用して，命題を証明することができる。	○変数 x，y についての不等式を満たす点（x，y）全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。 ○条件の真理集合を考えることにより，命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。	○線形計画法では，条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより，鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。 ○不等式を含む命題を，不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。 ○放物線を境界線とする領域に関心をもち，考察しようとする。
	7	**＜三角関数＞** 1．一般角と弧度法	27	○一般角を表す動径を図示したり，動径の表す角を $\alpha+360^\circ\times n$ と表したりすることができる。 ○弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算ができる。 ○扇形の弧の長さと面積の公式を理解している。	○弧の長さで角を図る方法として，弧度法を考察することができる。	○一般角を動径とともに考察することができる。 ○新しい角の測り方である弧度法に興味をもち，角度の換算に取り組もうとする。
2	9	2．三角関数		○弧度法で表された角の三角関数の値を，三角関数の定義によって求めることができる。 ○単位円周上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 ○三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な	○三角比の定義を，三角関数の定義に一般化して考察することができる。	○三角比の定義を一般化して，三角関数の定義を考察しようとする。

				値を求めたり，式変形をしたりすることができる。		
		３．三角関数の性質		○$-\theta$ や $\theta \pm \pi$ などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる。	○三角関数の性質を，単位円を用いて考察することができる。	○単位円を利用して，三角関数の性質を調べようとする。
		４．三角関数のグラフ		○三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ○$y=\sin(k\theta+\alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して，グラフや周期を考察することができる。	○単位円周上の点の動きから，三角関数のグラフを考察することができる。 ○三角関数の性質を，グラフの特徴とともに考察することができる。	○$y=\sin\theta$ と $y=\cos\theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味，関心をもつ。 ○周期関数に興味をもち，その性質を調べようとする。
		５．三角関数の応用		○三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 ○角が $\theta+\alpha$ の形をしている三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 ○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。	○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に，単位円やグラフを図示して考察することができる。 ○変数をおき換えることで，三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。	○三角関数を含む方程式・不等式の解くことに取り組む意欲がある。 ○やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。
		６．加法定理		○加法定理を利用して，種々の三角関数の値を求めることができる。 ○正接の加法定理を利用して，2 直線のなす角の鋭角を求めることができる。	○角を弧度法で表した場合にも，加法定理が適用できる。 ○正接の定義と加法定理を利用して，2 直線のなす角を考察することができる。	○加法定理を 2 点間の距離の公式を用いて証明しようとする。 ○加法定理を利用して，平面上の点を回転させたときの座標の求め方を考察しようとする。
		７．加法定理の応用		○2 倍角，半角の公式を利用して，三角関数の値を求めることができる。 ○2 倍角の公式を利用して，等式を証明することができる。 ○2 倍角の公式を利用して，やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。	○3 倍角の公式を，$3\alpha=2\alpha+\alpha$ としてとらえることによって証明することができる。 ○2 倍角の公式を利用して，やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。	○加法定理から，2 倍角の公式，半角の公式を導こうとする。 ○和と積の公式に関心を示し，その公式を用いて三角関数の値を求めたり，三角方程式の解を求めたりしようとする。
		８．三角関数の合成		○ $a\sin\theta+b\cos\theta$ を $r\sin(\theta+\alpha)$ の形に変形する方法（三角関数の合成）を理解している。 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意して，$a\sin x+b\cos x=k$ の形の方程式や不等式を解くことができる。 ○ x の関数 $y=a\sin x+b\cos x$ の式を変形して，関数の最大	○$a\sin\theta+b\cos\theta$ の変形にあたり，同じ周期をもつ 2 つの関数の合成であることを理解している。	○同じ周期をもつ 2 つの関数 $y=\sin x$ と $y=\cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。

				値・最小値を求めることができる。		
	10	**＜指数関数と対数関数＞** １．指数の拡張	19	○指数が整数，有理数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を用いた計算をすることができる。 ○累乗根の定義を理解し，累乗根の計算ができる。	○累乗根をグラフによって考察することができる。 ○指数が整数の場合だけではなく，無理数の場合まで拡張して，累乗の定義を理解している。	○指数法則が成り立つようにするには，0 乗，負の整数乗，分数乗をどのように定義すればよいかと調べようとする。 ○負の数の n 乗根に興味を示し，具体的に理解しようとする。
		２．指数関数		○指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ○底と 1 の大小に注意して，指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○$a^x > 0$ に注意して，おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。	○指数関数の増減によって，大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	○指数関数のグラフの概形を，点をプロットしてかこうとする意欲がある。
		３．対数とその性質		○指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ○対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。 ○対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算や，等式の証明の方法がわかる。	○指数法則から，対数の性質を考察することができる。	○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。
		４．対数関数		○対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ○底と 1 の大小に注意して，対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。	○対数と指数の関係から，両者のグラフが互いに直線 $y = x$ に関して対称であるという見方ができる。 ○対数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ○真数が正であることに着目し，対数の性質を適切に利用して問題を解決することができる。	○やや複雑な対数方程式，対数不等式に積極的に取り組もうとする。
		５．常用対数		○正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して，対数の値を求めることができる。 ○常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。 ○常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。	○非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。 ○底の変換公式を用いることによって，どの対数も常用対数で表現することができる。 ○桁数や小数首位が第 n 位の数を，不等式で表現することができる。	○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ○バクテリアの分裂など，現実世界の問題を，常用対数を用いて解こうとする。 ○対数で表された数が無理数であることの証明に関心をもち，考察しようとする。

	11	**＜微分法と積分法＞** １．微分係数	37	○平均変化率，微分係数の定義を理解し，それらを求めることができる。 ○微分係数の図形的意味を理解している。	○関数の極限値の性質を直感的に理解し，その性質を利用して関数の極限値を考察することができる。	○平均の速さと瞬間の速さに興味をもち，平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。 ○種々の関数の極限値を，興味・関心をもって考察しようとする。
		２．導関数		○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ○導関数の性質を利用して，種々の導関数の計算ができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。また，微分係数の値などから関数を決定することができる。	○導関数を表す種々の記号を理解していて，それらを適切に使って表現することができる。	○二項定理を利用して関数 x^n の導関数の公式の証明を，興味・関心をもって理解しようとする。
		３．接線		○接点の x 座標が与えられたとき，接線の方程式を求めることができる。 ○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。	○微分係数の図形的な意味と，直線の方程式の公式から，接線の方程式の公式を考察することができる。 ○定点 C から曲線に接線を引くとき，接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて考察することができる。	○曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式や接点の座標を求めようとする。
		４．関数の値の変化		○導関数を利用して，関数の増減を調べることができる。 ○導関数を利用して，関数の極値を求めたり，グラフをかいたりすることができる。 ○関数の極値が与えられたとき，関数を決定することができる。	○関数の増減を接線の傾きから考察することができる。 ○関数の増減や極値を調べるのに，増減表を書いて考察することができる。 ○関数の極値から関数を決定する際に，必要十分条件に注意して考察することができる。	○関数の増減や極値の問題を導関数を用いて調べ，解決しようとする。 ○4 次関数の増減や極値を調べたり，グラフをかいたりする意欲がある。
	12	５．最大値・最小値		○導関数を利用して，関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○最大・最小の応用問題では，変数のとり方，定義域に注意している。 ○導関数を利用して，最大値・最小値の応用問題を解くことができる。	○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを，明確に意識して考察することができる。	○身近にある最大値・最小値の問題を，微分法を利用して解決しようとする。
		６．関数のグラフと方程式・不等式		○不等式 $f(x) \geqq 0$ を，関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。 ○導関数を利用して，方程	○方程式の実数解の個数を，関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ○不等式を，関数のグラフ	○方程式や不等式を関数的視点で捉え，微分法を利用して解決しようとする。

				式の実数解の個数問題，不等式の証明問題を解くことができる。	と x 軸との上下関係に読み替えて，考察することができる。	
3	1	7．不定積分		○不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ○不定積分の定義や性質を理解し，それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ○与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を，不定積分を利用して求めることができる。	○微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。	○積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めようとする。
		8．定積分		○定積分の定義や性質を理解し，それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ○定積分は定数であることを理解し，それを利用して，定積分を含む関数を求めることができる。 ○上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。	○定積分が，図形の計量に関して有用であることを認識することができる。 ○定積分の計算で，分数計算を容易にするための工夫を考察することができる。 ○上端が x である定積分を，x の関数ととらえて問題を解決することができる。	○面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の１つの不定積分であることに興味・関心をもち，考察しようとする。
		9．面積		○直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分で表して求めることができる。 ○上下関係が入れ替わる 2 曲線で囲まれた面積を求めることができる。 ○絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。 ○3 次関数のグラフとその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	○面積を求める際には，グラフの上下関係，積分範囲などを，図をかいて考察することができる。 ○放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき，放物線と直線で囲まれた部分の面積を，定積分の公式を利用するなどして，工夫して求める方法を考察することができる。 ○微分や定積分の計算で，$(x+a)^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして，計算を工夫して行う方法を考察することができる。	○直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分を用いて求めようとする。 ○微分や定積分の計算で，$(x+a)^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして，計算を工夫して行う方法を考察することができる。 ○微分積分学の基本定理について，興味・関心をもち，考察しようとする。
	2	**以降** **標準＜入試演習＞**	18	これまでに学んだ学習内容について，演習を通して観点別に評価を行う。		

		標準＜入試演習＞	18			
	2	**＜関数＞** １．数列の極限		○分数関数の定義について理解し，関数を適切に変形して，そのグラフをかくことができる。 ○分数関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。 ○分数不等式を解くことができる。	○分数関数のグラフと直線の共有点の座標を，連立方程式の実数解に読み替えて考察できる。 ○分数不等式の解を，分数関数のグラフと直線の上下関係に読み替えて考察できる。	○方程式や不等式の考察に，積極的に関数のグラフを活用しようとする。
		２．無限等比数列		○無理関数の定義について理解し，関数を適切に変形して，そのグラフをかくことができる。また，値域が求められる。 ○無理関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。 ○無理不等式を解くことができる。	○無理関数 $y=\sqrt{ax}$ のグラフを放物線の一部として理解し，対称移動の考え方で $y=-\sqrt{ax}$ などのグラフを考察できる。 ○無理関数のグラフと直線の共有点の座標を，連立方程式の実数解に読み替えて考察できる。 ○無理不等式の解を，無理関数のグラフと直線の上下関係に読み替えて考察できる。	○方程式の同値変形について考察し，理解を深めようとする。 ○方程式や不等式の考察に，積極的に関数のグラフを活用しようとする。
		３．逆関数と合成関数		○逆関数の定義を理解し，種々の関数の逆関数を求められる。 ○$b=f(a)$と $a=f^{-1}(b)$が同値であることを理解している。 ○合成関数の定義を理解し，種々の関数の合成関数を求められる。	○逆関数の定義から，逆関数の定義域・値域や性質を考察できる。 ○2 つの関数を続けて作用させた関数を，合成関数という 1 つの関数として考察できる。	○逆関数，合成関数の考え方に興味，関心を示す。
		＜極限＞ １．数列の極限		○数列の収束，発散について，記号や用語を正しく理解している。 ○収束する数列の極限値の性質を理解し，それを用いて，数列の極限が求められる。 ○不定形を解消するように数列の式を変形することにより，数列の収束，発散を調べることができる。	○工夫して式変形することにより，数列の極限を求めることができる。 ○数列の極限が簡単に求められない場合に，数列の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて，極限が求められる。	○簡単な無限数列の極限を，グラフなどで直観的に考察しようとする。
		２．無限等比数列		○無限等比数列の極限が求められる。また，無限等比数列の収束・発散を利用して，さまざまな数列の極限が求められる。 ○無限等比数列の収束条件を理解し，それを利用できる。 ○漸化式で表された数列の	○無限等比数列の極限を，公比の値で場合分けして考察できる。 ○漸化式で表された数列の項の決まり方を，グラフを利用して視覚化することで，極限を考察できる。	○漸化式で表された数列の極限をグラフで視覚化する方法に，興味，関心をもつ。

				一般項を求め，その極限値が求められる。		
		３．無限級数		○無限級数の和とは，部分和の作る数列の極限であることを理解し，無限級数の収束，発散をその部分和から調べられる。 ○無限等比級数の収束，発散を，公比の値で調べられる。また，無限等比級数の収束条件を理解し，それを利用できる。 ○無限級数の和の性質について理解し，それを用いて無限級数の和が求められる。 ○無限級数の収束，発散を判定する条件を理解し，それを利用できる。	○無限等比級数の収束，発散を，既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ○繰り返しを含む図形的な問題を，無限等比級数を活用して考察することができる。 ○循環小数が無限等比級数の形に表されることを理解し，無限等比級数の考えを用いて，循環小数を分数で表すことができる。	○「項を無限に加える」ということを，数学的に定義する方法を理解しようとする。 ○繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち，無限等比級数を利用して考察しようとする。
		４．関数の極限		○関数の極限に関する用語・記号を正しく理解し，x→a や x→∞，x→－∞のときの関数の極限を求めることができる。 ○不定形を解消するように関数の式を変形することにより，関数の極限を調べることができる。 ○関数の右側極限，左側極限を調べ，関数の極限の有無について調べられる。 ○指数関数，対数関数の極限が求められる。	○関数の極限について，数列の極限における考え方との類似点と相違点を理解している。 ○関数の極限について，グラフなどで直観的に考察できる。 ○極限値をもつ関数の係数決定に関しては，等式を成り立たせるための必要条件を求めて，その十分性をチェックすることで関数の式の係数を決定することができることを理解している。	○関数の極限を，グラフなどで直観的に考察しようとする。
		５．三角関数と極限		○簡単な三角関数の極限を求めることができる。 ○sinx/x の極限が利用できるように関数の式を変形することにより，三角関数を含む関数の極限を求めることができる。	○関数の極限が簡単に求められない場合に，関数の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて，極限が求められる。 ○三角関数の極限を応用して，図形的な問題を考察することができる。	○三角関数が現れる図形的な問題を，三角関数の極限を利用して考察しようとする。
		６．関数の連続性		○定義に基づいて，関数の連続性，不連続性を判定することができる。 ○閉区間で連続な関数が最大値，最小値をもつことを理解している。	○中間値の定理が成り立つための条件を正しく理解し，解の存在の証明に活用することができる。	○連続でない関数があることに興味をもち，グラフを用いてそのことを調べようとする。
			年間授業時数	140		

令和６年度　＜５学年　数学Ｂ＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版　数学Ｂ
使用補助教材	サクシード　数学Ⅱ＋Ｂ チャート式　数学Ⅱ＋Ｂ ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	1．数列	32	○数列に関する用語，記号を適切に用いることができる。 ○数列の定義，表記について理解している。	○数列の一般項を表す式を，定義域が自然数であるｎの関数と捉え，新しい概念である数列を，既習の関数と関連付けて考察できる。 ○数の並び方からその規則性を推測して，数列の一般項を考察できる。	○数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。
		2．等差数列とその和		○等差数列の公差，一般項などを理解している。また，条件から等差数列の一般項を決定できる。 ○等差数列の和の公式を適切に利用して，等差数列の和が求められる。	○等差数列の項を書き並べて，隣接する項の関係やその和について考察できる。 ○項の正負と数列の和の増減の関係から，等差数列の和の最大，最小について考察することができる。	○等差中項の性質に興味をもち，問題解決に利用しようとする。

2	5	3．等比数列とその和		○等比数列の公比，一般項などを理解している。また，条件から等比数列の一般項を決定できる。 ○等比数列の和の公式を適切に利用して，等比数列の和が求められる。 ○等比数列の和に関する条件から，初項や公比が求められる。	○等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係やその和について考察できる。	○等比中項の性質に興味をもち，問題解決に利用しようとする。 ○複利計算に興味，関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。
	6	4．和の記号Σ		○和の記号Σの意味を理解し，数列の和が求められる。 ○数列の第 k 項を k の式で表すことで，初項から第 n 項までの和が求められる。	○Σの性質を利用して，和の計算を簡単に行うことができる。	○自然数の 2 乗の和や 3 乗の和の公式を導こうとする意欲がある。
		5．階差数列		○階差数列について理解し，それを利用して，もとの数列の一般項が求められる。 ○数列の和と第 n 項の関係を理解し，数列の一般項が求められる。	○数列の規則性の発見に，階差数列が利用できる。 ○初項から第 n 項までの和に着目して，一般項を考察できる。	○数列の規則性を，隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。
		6．いろいろな数列の和		○和の求め方の工夫をして，数列の和が求められる。	○$f(k+1)-f(k)$を用いる和の求め方を理解し，具体的な問題に活用することができる。	○群数列に興味をもち，一般項や和について考察しようとする。
	7	7．漸化式と数列		○漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。	○漸化式を適切に変形して，数列の特徴を考察することができる。 ○与えられた条件から a_n と a_{n+1} の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。	○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。 ○確率の問題に漸化式が利用できることに興味，関心をもち，問題解決に利用しようとする。
	9	8．数学的帰納法		○数学的帰納法を用いて，等式を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて，整数の性質を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて，不等式を証明できる。	○自然数 n に関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解し，活用することができる。 ○数列の一般項を推測し，それが正しいことの証明に数学的帰納法を活用することができる。 ○数学的帰納法で証明した命題について，別の方法で証明してそれらを比較するなど，多面的に考察することができる。	○数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。
		1．確率変数と確率分布	38	○確率変数や確率分布について，用語の意味を理解している。 ○簡単な試行について，確率変数の確率分布を求めることができる。		○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき，確率分布について積極的に考察しようとする。

3	10	2．確率変数の期待値と分散		○確率変数の期待値，分散，標準偏差が求められる。	○確率変数の期待値，分散，標準偏差などを用いて，確率分布の特徴を考察することができる。	○確率変数の期待値，分散，標準偏差の意味を理解し，進んで確率分布の特徴を調べようとする。 ○確率変数の期待値，分散に関する公式を，その定義や既知の公式を用いて導こうとする。
		3．確率変数の変換		○確率変数の変換公式を理解し，それを利用して，期待値，分散，標準偏差を求めることができる。		○確率変数の変換公式を，期待値，分散，標準偏差の定義式から導こうとする。
	11	4．確率変数の和と期待値		○同時分布の意味を理解し，2 つの確率変数の同時分布表を求めることができる。 ○確率変数の和の期待値などを，公式を利用して求められる。		○確率変数の同時分布，和の期待値の計算に積極的に取り組もうとする。
		5．独立な確率変数と期待値・分散		○確率変数の独立について理解し，等式を用いて表すことができる。 ○事象の独立・従属について理解し，条件付き確率や乗法定理の計算から事象の独立・従属を導くことができる。 ○独立な確率変数の積の期待値，和の分散が求められる。	○確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。	○独立・従属の観点で事象を考察することに関心をもち，乗法定理を事象の独立・従属の観点から考えようとする。
	12	6．二項分布		○反復試行の結果を，二項分布を用いて表すことができる。 ○二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。	○反復試行の結果を，二項分布を用いて考察することができる。	○二項分布に興味，関心をもち，さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。
	1	7．正規分布		○連続的な確率変数について理解し，確率変数の確率，期待値，分散が求められる。 ○標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率が求められる。 ○正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換して確率が求められる。 ○二項分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。	○正規分布の特徴を理解し，さまざまな視点から捉えられる。 ○日常の身近な問題を統計的に処理するのに正規分布を利用できる。	○連続的な確率変数である正規分布に興味をもち，正規分布について積極的に考察しようとする。

	2	8．母集団と標本		○母集団分布と大きさ１の無作為標本の確率分布が一致することを理解し，母平均，母標準偏差が求められる。	○無作為抽出の方法について，具体的に考察することができる。	○実際に行われているさまざまな調査に興味をもち，それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。
		9．標本平均とその分布		○母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。 ○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ○大数の法則について理解している。	○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。	○大数の法則に興味をもち，標本の大きさｎが大きくなるときの分布曲線の変化を，コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。
		10．推定		○推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○信頼区間の考え方を用いて，母平均や母比率の推定ができる。	○推定や信頼区間の考え方がわかる。	○母平均や母比率の推定に関心を示す。
	3	11．仮説検定		○仮説検定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○仮説検定の意味を理解し，正規分布を用いた仮説検定ができる。 ○母平均に対する仮説検定ができる。	○片側検定と両側検定の違いを理解し，適切に活用することができる。	○仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味をもち，現実の問題の解説に役立てようとする。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜５学年　数学Ｃ＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	数研出版　数学Ｃ
使用補助教材	サクシード　数学Ｃ チャート式　数学Ｃ ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよ うにする。 (2) 大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力， 図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり， 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	１．平面上のベクトル	35	○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ○ベクトルの向き，相等について理解している。		○平面上の図形の移動，力，速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけようとする。
	5	２．ベクトルの演算		○ベクトルの演算の仕組みを理解し，ベクトルについて，加法，減法，実数倍を考察することができる。 ○ベクトルの平行条件を理解し，１ つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。 ○ベクトルの分解について理解し，ベクトルを２つのベクトルの１次結合の形に表現できる。	○ベクトルの演算において成り立つ法則について，考察することができる。 ○和や差における逆ベクトルや零ベクトルの役割を理解している。	○ベクトルの演算に興味，関心をもち，数式の演算法則との類似性を考察しようとする。

	6	3．ベクトルの成分		○成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 ○成分表示されたベクトルを，2 つのベクトルの 1 次結合の形に表現できる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。	○ベクトルの平行条件を，成分表示されたベクトルにも適用し，成分を求めることができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を，座標平面上の図形の問題に活用できる。	○ベクトルと座標平面を関連させ，ベクトルが成分で表現できることに興味，関心をもつ。 ○座標平面上の図形の問題について，ベクトルを活用して解く解法を知り，ベクトルを用いない場合の解法と比較して考察しようとする。
		4．ベクトルの内積		○内積は実数であることを理解している。 ○大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。また，成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。 ○ベクトルのなす角を，内積を利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し，計算に利用できる。 ○内積の性質を理解し，計算に利用できる。	○ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる ○内積の性質を用いて，ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。	○ベクトルの内積のもつ図形的意味を探ろうとする態度がある。 ○三角形の面積が内積で表せることに興味，関心をもち，問題解決に利用しようとする。
	7	5．位置ベクトル		○点の位置を，基準となる点と 1 つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ○線分の内分点，外分点，三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。	○位置ベクトルを活用して，図形の性質が考察できる。	○線分 AB を m : n に外分する点の位置ベクトルを表す式が，m と n の大小関係に関わらず同じであることに興味をもち，確かめようとする。
2	9	6．ベクトルと図形		○3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ○線分上の点を，線分を s : (1－s)に内分する点として処理できる。	○図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 ○ベクトルの分解の一意性を理解し，計算に利用できる。 ○垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。	○位置ベクトルを用いて，平面図形についての命題を証明しようとする。
		7．ベクトル方程式		○直線のベクトル方程式について，媒介変数を用いて表すことができる。 ○通る 1 点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。	○直線上の点を位置ベクトルで考察し，直線のベクトル方程式と関連付けることができる。 ○点が線分 AB 上に存在する条件を活用して，点 P	○ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。 ○点と直線の距離の公式が，ベクトルを利用して導けることに興味をも

				○ベクトルを用いて 2 直線のなす角を求めることができる。 ○円や円の接線のベクトル方程式を理解している。	の存在範囲を考察することができる。	ち，公式を証明しようとする。
	10	1．空間の座標		○空間における図形を，座標を利用して示すことができる。 ○座標空間において，点の座標，2 点間の距離などが求められる。		○既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。
		2．空間のベクトル		○空間図形において，ベクトルの和や差を考えることができる。 ○空間のベクトルを，3 つのベクトルの 1 次結合の形に表現できる。	○空間のベクトルを，平面上のベクトルの拡張として捉えることができ，平面上のベクトルで成り立つ性質が，空間においても同様に成り立つことを理解している。	○空間のベクトルと平面上のベクトルを比較して考察しようとする。
	11	3．ベクトルの成分		○成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 ○成分表示されたベクトルを，3 つのベクトルの 1 次結合の形に表現できる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。	○空間のベクトルの成分表示を，平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。	○空間のベクトルの成分表示と平面上のベクトルの成分表示を比較して考察しようとする。
	12	4．ベクトルの内積		○立体図形におけるベクトルの内積を，適切な方法で計算できる。 ○ベクトルのなす角を，内積を利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し，計算に利用できる。	○空間のベクトルの内積を，平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。 ○座標空間の 3 点で定まる三角形の角の大きさを，ベクトルを利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して，与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。	○空間のベクトルの内積と平面上のベクトルの内積を比較して考察しようとする。 ○成分表示されたベクトルの内積の公式を，平面の場合の拡張として導こうとする。
3	1	5．位置ベクトル		○位置ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して，それらを利用できる。	○位置ベクトルの一意性を理解し，図形の性質を証明できる。	○四面体の重心に興味をもち，その性質を位置ベクトルで考察しようとする。

	2	6．ベクトルと図形		○空間において 3 点が一直線上にあるための条件を理解している。 ○ベクトルの分解の一意性を理解し，計算に利用できる。 ○ある点が 3 点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し，それを利用することができる。	○3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ○3 点で定まる平面上に点 P があることを，ベクトルで表現して利用できる。 ○線分の長さ，垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 ○内積を利用して，直線に垂線を下ろしたときの交点の座標を求めることができる。	○3 点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し，その結果を利用しようとする。
	3	7．座標空間における図形		○座標空間における線分の内分点・外分点などの座標が求められる。 ○座標軸に垂直な平面の方程式，球面の方程式について理解している。	○空間ベクトルを利用して，線分の分点の座標などを考察できる。 ○球面と平面が交わってできる図形を，連立方程式の解の集合として捉えることができる。	○球面の方程式に興味をもち，考察しようとする。 ○座標空間における平面の方程式，直線の方程式に興味をもち，考察しようとする。
		年間授業時数	35			

令和６年度　＜６学年　数学Ⅰ演習＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版　数学Ⅰ、数学Ａ
使用補助教材	数研出版　サクシード数学Ⅰ+Ａ 他　大学受験用問題集

目標
・数学Ⅰ、数学Ａの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を図る。

評価の観点と方法・材料
・共通テストや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。（関心・意欲・態度）［授業時の学習態度、提出ノートの内容］ ・１つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。（数学的な見方や考え方）［定期考査、小テスト］ ・数学Ⅰ、数学Ａの全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。（数学的な技能）［定期考査、小テスト］ ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。（知識・理解）［定期考査、小テスト］

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	＜２次関数＞ 最大・最小問題 方程式・不等式への応用 平行移動	6	・文字係数を含む２次関数について、頂点の座標を求め、グラフの平行移動について考察することや、定義域における関数の最大最小問題を解決することができる。さらに、方程式・不等式の問題についてグラフを利用して考察することができる。
	5	＜場合の数と確率＞ 順列・組合せ 確率の計算 条件付き確率	6	・公式を用いて順列・組合せの数を求めることや、樹形図などを利用して場合の数を求めることができる。確率について、基本計算や連続試行の確率、条件付き確率など典型パターンについての計算法を理解し、これらを利用して計算することができる。
	6	＜平面図形と図形の計量＞ 三角比 正弦定理、余弦定理	6	・三角比を用いて、角度や長さを計算することや円に内接する四角形に関する問題の解法について習熟する。
	7	＜整数問題＞ 約数・倍数の問題 剰余類・不定方程式	6	・整数を扱った入試問題の典型的パターンを学習し、これらを用いて問題解決することができる。
2	9	＜平面図形の性質＞ ＜データの分析＞ 箱ひげ図、散布図、平均、分散、 標準偏差、共分散、相関係数	6	・チェバの定理、メネラウスの定理や方べきの定理を理解し、これらを用いた典型問題を解決することができる。 ・データ分析の手法を理解し、統計の図式の解読を通して、統計量について考察することができる。与えられたデータから統計量を計算することや２種類のデータの相関について考察することができる。
	10	・総合問題演習（問題導入部における判断力の強化）	8	・共通テスト受験に向けた総合演習を行い、本試験における得点率80%を目指す。各大問の前半部分の解答方針が即座に立てられるかに指導の重点を置く。
	11	・総合問題演習（問題中間部における解決力の強化）	8	・総合演習を行い、本試験における得点率 80%を目指す。各大問題の中盤から後半にかけて、粘り強く解答する応用力の養成を目指す。
	12	・総合問題演習（問題全体を通した総合解決力の強化）	6	・総合演習を行い、本試験における得点率 80%を目指す。試験時間内に全問題を解き切り、更に見直しをするなど、時間配分にも配慮した解答力の養成を目指す。
3	1	・総合問題演習（私大対策演習）	6	・大学入試問題による演習　個別試験に向けた弱点補強
	2	・総合問題演習（国公立大対策演習）	6	・大学入試問題による演習　個別試験に向けた弱点補強
	3	・総合問題演習（後期日程対策演習）	6	・大学入試問題による演習　個別試験に向けた弱点補強
年間授業時数			70	

令和６年度　＜６学年　数学Ⅱ演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版　数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ
使用補助教材	数研出版　サクシード数学Ⅱ＋Ｂ　Ｃ 東京書籍　攻略！共通テスト　Pick Up　数学Ⅰ+A,Ⅱ+B+C

目標
・数学Ⅱ、Ｂ、Ｃ（ベクトル）の全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、共通テストにおける得点力向上を目指す。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】 ・数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ（ベクトル）の全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。［定期考査、小テスト］ 【思考・判断・表現】 ・１つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。 ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。［定期考査、小テスト］ 【主体的に学習に取り組む態度】・与えられた課題に対し，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・授業内での演習を通して，取り扱った問題の解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ・国公立大学２次試験やや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。［予習課題、提出ノートの内容、過去問演習等］

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5	**１章　方程式・式と証明** ○実数の性質 ○複素数 ○２次方程式と解と係数の関係，３次方程式 ○多項式の剰余 ○３次方程式の解とその個数 **２章　図形と方程式** ○２直線の平行・垂直 ○軌跡と領域 ○弦の長さと領域内の点 ○連動点の軌跡 ○領域と最大・最小 **３章　三角関数** ○三角関数のグラフ ○加法定理 ○三角関数の合成と最大・最小 ○三角関数を含む方程式・不等式 ○三角関数を含む方程式の解の個数 ○三角関数の図形への応用 ○$\sin\theta$，$\cos\theta$ の２次式の最大・最小	24	・方程式・式と証明について、基礎的な知識を身につけている。 ・図形と方程式について、基礎的な知識を身につけている。 ・三角関数について、基礎的な知識を身につけている。	・方程式・式と証明について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身についている。 ・図形と方程式について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身についている。 ・三角関数について、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身についている。	・共通テストにおける諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して，取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。

	6

	11	よる近似 ○母比率の推定 ○母比率の仮説検定 **8章　ベクトル** ○ベクトルの和・差・実数倍と内積 ○交点の位置ベクトルと面積比 ○直線のベクトル方程式 ○直線と平面の交点 ○角の二等分線・辺の垂直二等分線 ○ベクトル方程式が表す図形とその面積 ○空間における交点の位置ベクトル ○空間座標と空間ベクトル ○空間図形とベクトル ○平行六面体とベクトル		・ベクトルについて、基礎的な知識を身につけている。	・ベクトルについて、応用的な問題に対応し、共通テストにおける応用的な問題にも対応できる力が身についている。	
	12	・共通テストに向けた総合問題演習	6	・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80％を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。	・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80％を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。	・共通テストにおいて、目標点を取るために、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。
3	1~3	・大学入試対策演習	18	・共通テスト受験に向けた直前演習 ・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強		
年間授業時数			70			

令和６年度　＜６学年　数学Ⅱ応用　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版　数学Ⅰ、数学Ａ　数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ
使用補助教材	数研出版　サクシード数学Ⅰ＋Ａ　Ⅱ＋Ｂ　Ｃ 数研出版　メジアン数学演習ⅠⅡ・ＡＢＣ　受験編

目標
・数学Ⅰ、Ａ、Ⅱ、Ｂ、Ｃ（ベクトル）の全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通して、大学入試における得点力向上を目指す。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】・数学Ⅰ、数学Ａ、数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ（ベクトル）の全単元について諸定理、諸公式などを確認し、問題解決の場面において、これらを的確に使うことができる。［定期考査、小テスト］ 【思考・判断・表現】・１つの解法だけではなく、多方面から問題を考察し、効率の良い解決法を探求するとともに、相互の関連性を理解し、理解の度合いを深めていく。 ・記述試験対策として、論理的な答案作成能力を高めていくと共に、問題文に提示された諸条件を図式化するなど多角的に問題を考察することができる。［定期考査、小テスト］ 【主体的に学習に取り組む態度】・与えられた課題に対し，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 ・授業内での演習を通して，取り扱った問題の解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ・国公立大学２次試験やや各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問で解決する。 ［予習課題、提出ノートの内容、過去問演習等］

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	＜数学Ⅰ・Ａ・Ⅱ・Ｂ・Ｃの復習＞ ・関数と方程式・不等式 ・式と証明、論理 ・整数の性質 ・図形の性質 ・図形と方程式 ・ベクトル	24	・いろいろな式の計算、式の証明を処理することができる。 ・図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身につけている。 ・各関数の基本性質を理解するとともに、最大最小問題の解決力を高める。 ・位置ベクトルを利用して図形の位置関係（平行、垂直）や内分比や外分比を求めることができる。ベクトル方程式を理解し、問題解決の場面でこれを利用できる。	・グラフを活用して方程式・不等式の問題を考察することができる。 ・円の方程式や円周上の点における接線の方程式などを利用すること、点と直線の公式を理解し、円と直線の位置関係の考察などに応用し、解決できる。 ・整数問題を多角的に考察し、解決することができる。	・大学入試における諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して，取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。
2	9 10 11	＜数学Ⅰ・Ａ・Ⅱ・Ｂ・Ｃの復習＞ ・場合の数・確率 ・三角・指数・対数関数 ・数列 ・データの分析 ・統計的な推測 ・微分法の応用 ・積分法の応用	22	・和の法則や積の法則、順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身に付けている。 ・数列の諸公式や漸化式の基本パターンについて理解し利用できる。 ・データを用いて事象を表現し、処理する仕方や傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。	・数列の確率の問題への応用など、一つの分野のみならず、他分野との融合問題について、問題を解決する手段を考察することができる。 ・確率分布や標本分布の特徴を，確率変数の平均，分散，標準偏差などを用いて考察することができる。	・大学入試における諸問題に対し、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・授業内での演習を通して，取り扱った問題の問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。
	12	・総合問題演習（問題全体を通した総合解決力の強化）	6	・国公立大学２次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。 ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80％を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。	・国公立大学２次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。 ・共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率 80％を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。	・国公立大学２次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。
3	1~3	・大学入試対策演習	18	・大学入試問題による演習、個別試験に向けた弱点補強		
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜６学年　数学Ⅲ＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	数研出版　数学Ⅱ
使用補助教材	サクシード　数学Ⅲ チャート式　数学Ⅲ ※いずれも、数研出版

目標
微分法及び積分法について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力・判断力・表現力】数列や関数の値の変化に着目し，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	＜微分法＞ １．微分係数と導関数	24	○微分係数の定義と，その図形的意味を理解している。 ○微分可能性と連続性の関係を理解し，連続ではあるが微分可能でないことを示せる。 ○導関数の定義を理解し，定義に基づいて微分できる。	○微分係数の２通りの表し方を理解し，その図形的意味を考察できる。 ○導関数を，微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。	○微分係数の図形的意味を考察しようとする。 ○微分可能性と連続性の関係について，興味，関心をもつ。
		２．導関数の計算		○導関数の性質，積の導関数，商の導関数，合成関数の微分法，逆関数の微分法を利用して，種々の導関数を求めることができる。	○導関数の性質，積の導関数，商の導関数，合成関数の微分法，逆関数の微分法を定義に基づいて証明できる。	○さまざまな導関数の性質や公式に興味をもち，定義に基づいて証明しようとする。 ○$(x^{\alpha})' = \alpha x^{\alpha-1}$ において，α の範囲を自然数，整数，有理数と拡張していく考え方に興味をもち，考察しようとする。

		３．いろいろな関数の導関数		○三角関数，対数関数，指数関数の導関数を理解し，三角関数，対数関数，指数関数を含む種々の関数の導関数を求めることができる。 ○αが実数のとき，$(x^{\alpha})' = \alpha x^{\alpha-1}$ が成立することを理解している。 ○対数微分法を利用して，複雑な関数を微分できる。	○三角関数，対数関数，指数関数を含む関数を合成関数とみて，合成関数の微分法を利用することができる。 ○自然対数の底ｅを考える必然性を理解している。	○関数の極限としての値ｅ（自然対数の底）について興味をもち，考察しようとする。 ○αが実数のとき$(x^{\alpha})' = \alpha x^{\alpha-1}$ が成り立つことの証明に対数微分法が利用できることに興味をもち，考察しようとする。
		４．第ｎ次導関数		○第ｎ次導関数の定義とその表現方法を理解し，種々の関数の第ｎ次関数が求められる。	○第２次導関数，第３次導関数を求めることで，一般の第ｎ次導関数を予想し，求めることができる。	
		５．関数のいろいろな表し方と導関数		○方程式Ｆ(x，ｙ)＝0 を関数とみて，合成関数の導関数を利用して微分できる。 ○曲線の媒介変数表示を理解し，媒介変数で表された関数の導関数が求められる。	○方程式Ｆ(x，ｙ)＝0 を陰関数とみる考え方を理解している。 ○1 つの曲線がいろいろな式で表されることを理解し，その導関数について考察することができる。	○陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について，その簡便さを理解し，積極的に利用しようとする。
	5	**＜微分法の応用＞** １．接線と法線	26	○微分係数の意味を理解しており，接線の方程式が求められる。 ○公式を利用して，法線の方程式が求められる。 ○Ｆ(x,ｙ)＝0 で表された曲線の接線の方程式を，陰関数の微分法を利用して求められる。	○接線に直交する条件と，直線の方程式の公式から，法線の方程式の公式を考えることができる。 ○曲線外の定点Ｃから曲線に接線を引くとき，接点Ａにおける接線が点Ｃを通ると読み替えて，接線の方程式を求めることができる。 ○共通な接線をもつ条件を理解し，問題の解決に利用できる。	○方程式の重解と微分の関係についての証明に関心をもち，考察しようとする。
		２．平均値の定理		○平均値の定理と，その図形的意味を理解し，具体的にｃの値を求めることができる。	○平均値の定理を利用して，不等式を証明できる。	○平均値の定理に興味をもち，図形的意味を考察しようとする。 ○平均値の定理の証明に興味をもち，考察しようとする。

		３．関数の値の変化		○導関数の符号と関数の増減の関係を理解し，導関数を利用して関数の増減や極値が調べられる。 ○f(x)が x＝a で微分不可能な場合にも，増減表からf(a)が極値になるかどうかを判定できる。 ○関数の極値に関する条件から，関数を決定することができる。	○平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解している。 ○f ´ (a)＝0 は，f(a)が極値であるための必要条件ではあるが，十分条件ではないことを理解している。 ○関数の極値に関する条件から関数を決定する際に，必要十分条件に注意している。	○関数の増減や極値の問題を，導関数を用いて調べ，解決しようとする。
		４．関数の最大と最小		○導関数を利用して増減表をかくことができ，関数の最大値・最小値が求められる。	○最大・最小の応用問題で，変数のとり方，定義域に注意している。	○身近にある最大値・最小値の問題を，導関数を用いて調べ，解決しようとする。
		５．関数のグラフ		○曲線の凹凸の定義を理解し，第 2 次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。また変曲点が求められる。 ○導関数，第 2 次導関数を利用して，増減，凹凸，変曲点，漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができる。 ○第 2 次導関数を利用し，増減表をかかなくても極値が求められる。	○関数の定義されていないところや，x→±∞のときの状態を調べて，関数のグラフをかくことができる	○関数のグラフのさまざまな形に興味をもち，これまで学んだことを利用して調べようとする。
	6	６．方程式，不等式への応用		○導関数を利用して，不等式の証明問題，方程式の実数解の個数問題を解くことができる。	○不等式を，関数の値に関する条件式に読み替えて考察できる。 ○方程式の実数解の個数を，関数のグラフと x 軸に平行な直線との共有点の個数に読み替えて考察できる。	○方程式や不等式を関数的視点で捉え，微分法を利用して解決しようとする。
		７．速度と加速度		○ベクトルの成分を微分することによって，速度ベクトル，加速度ベクトルが求められることを理解し，実際に求めることができる。○等速円運動，角速度の定義を理解し，等速円運動をしている点の速度，加速度の関係が調べられる。	○導関数の意味から，点の位置を表す関数の導関数が点の速度，第 2 次導関数が点の加速度を表すことを理解できる。○速度，加速度を調べることで，等速円運動やサイクロイド運動の特徴を考察できる。	○直線上を運動する点の速度，加速度を基にして，平面上を運動する点の速度，加速度を考察しようとする。

		８．近似式		○微分係数の意味を考えることで，関数の近似式を考察できる。 ○関数の１次の近似式を作ることができる。	○関数の近似式を活用して，数の近似値を求めることができる。	○積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めようとする。
		＜積分法＞ １．不定積分とその基本性質	24	○不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ○不定積分の定義や基本性質を理解し，それを利用して，種々の関数の不定積分が求められる。	○不定積分の基本性質が利用できるよう，式を適切に変形することができる。	○積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めようとする。
		２．置換積分法		○置換積分法を理解し，それを利用して複雑な関数の不定積分が求められる。	○合成関数の微分の逆演算として，置換積分法を理解している。	○簡単に不定積分の計算ができないとき，変数の置換をどのようにすればよいかを考え，置換積分を利用しようとする。
	7	３．部分積分法		○部分積分法を理解し，それを利用して複雑な関数の不定積分が求められる。	○積の微分の逆演算として，部分積分法を理解している。	○簡単に不定積分の計算ができないとき，被積分関数の特徴を見て部分積分を利用しようとする。
		４．いろいろな関数の不定積分		○分数式を部分分数に分解する方法を理解している。	○被積分関数を適切に変形することで，不定積分を求めることができる。	○三角関数の積を和や積に変形する公式に興味をもち，自ら証明しようとする。
		５．定積分とその基本性質		○定積分の定義や性質を理解し，それを利用する種々の関数の定積分の計算方法を理解している。	○絶対値を含む関数の定積分を，積分区間を分けて求めることができる。	
		６．定積分の置換積分法		○定積分の置換積分法では，積分区間の変換に注意して定積分を計算できる。 ○偶関数，奇関数の定積分の性質を理解し，それを利用して定積分を計算できる。	○√(a2－x2)の定積分を，円の面積と関連付けて考察できる。円の面積の公式は，定積分を利用して初めて数学的にきちんと証明されたことになることを理解している。	○簡単には定積分が求められない関数について，置換積分を用いて計算しようとする。
		７．定積分の部分積分法		○定積分の部分積分法を理解し，それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。	○sinnx の定積分に部分積分法を用いて漸化式を導き，考察することができる。 ○exsinx, excosx の定積分をそれぞれ I，J とおいて求める方法を知り，考察することができる。	○簡単には定積分が求められない関数について，部分積分を用いて計算しようとする。

		８．定積分の種々の問題		○上端，下端に変数 x を含む定積分を，x で微分することができる。 ○上端，下端がともに定数である定積分を含む関数を，定積分を定数とおくことで求められる。 ○数列の和を長方形の面積の和として捉え，その極限を，適当な関数の定積分で表して求められる。 ○関数の大小とその関数の定積分の大小との関係を理解している。	○上端が x である定積分を，x の関数とみることができる。 ○曲線で囲まれた部分の面積を，微小な長方形の面積の和の極限として捉えられる。 ○不等式に現れる式の図形的意味を長方形の面積と結び付けて捉え考えることで，定積分を利用した不等式の証明について考察できる。	○曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形の和で近似する積分の基本的な考え方に興味，関心をもつ。 ○不定積分が求められない関数があることや，微分積分学の基本定理に興味をもち，調べようとする。
2	9	＜積分法の応用＞ １．面積	26	○直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分で表して求められる。 ○F(x,y)＝0 で表される曲線で囲まれた図形の面積を求められる。 ○媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を，置換積分を利用して求めることができる。	○√(a2－x2)の定積分を，円の面積と捉えて計算することができる。 ○面積を求めるとき，図形の対称性に着目して，効率的に計算できる。	○グラフの上下関係，積分範囲などを図にかいて考察して，種々の曲線や直線で囲まれた部分の面積を求めようとする。
		２．体積		○立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し，体積を求めることができる。 ○回転体の体積を求める方法を理解し，回転体の体積が求められる。 ○媒介変数表示された曲線を回転させてできる立体の体積を，置換積分の考えで求めることができる。	○球を円の回転体と捉え，球の体積を円 x2＋y2＝1 で囲まれた部分を x 軸の周りに 1 回転させた立体の体積として求めることができる。	○体積 V(x)が断面積 S(x)の 1 つの不定積分であることに興味，関心をもち，考察しようとする。 ○回転体の体積を，定積分を用いて求めようとする。 ○一般の回転体の体積に興味を示し，具体的に理解しようとする。
		３．曲線の長さ		○定積分を用いて，曲線の長さを求めることができる。	○面積や体積と同様な考え方で，曲線の長さが定積分で求められることを理解している。	○曲線の方程式が媒介変数表示や， y＝f(x)の形で与えられているとき，曲線の長さを，定積分を用いて求めようとする。
		４．速度と道のり		○数直線上を運動する点の位置の変化量や道のりを，定積分を用いて求めることができる。	○座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき，点が動く道のりは，その点が描く曲線の長	○数直線上を運動する点の座標，位置の変化量，道のりの違いを理解し，定積分を用いて求めようとす

				○座標平面上の点が動く道のりを，定積分を用いて求めることができる。	さに等しいことを理解している。	る。
2 3	10 11 12 1 2 3	総合問題演習	40	○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。	○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。	○国公立大学２次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。
年間授業時数			140			

令和６年度　＜６学年　数学Ｃ＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版　数学Ｃ
使用補助教材	サクシード　数学Ｃ チャート式　数学Ｃ ※いずれも、数研出版

目標
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよ うにする。 (2) 図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり， 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ ・各単元の学習内容における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・各単元の内容において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりして、数学的な見方や考え方を身に付けている。 ・各単元の学習内容において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 ・各単元の学習内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	〈複素数平面〉 １．複素数平面	15	○複素数平面の定義を理解し，複素数を表す点を複素数平面上に記すことができる。 ○複素数の実数倍，加法，減法の，複素数平面における図形的意味を理解している。 ○複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解している。	**○共役な複素数の図形的意味とその性質を理解し，証明することができる。**	**○複素数平面を考えることにより，複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。**
		２．複素数の極形式と乗法，除法		○極形式の定義を理解し，複素数を極形式で表すことができる。 ○極形式を利用して，複素数の積，商を求めることができる。 ○複素数の積，商の絶対値，偏角の性質を理解し，求めることができる。	○極形式を利用することで，複素数の乗法，除法の図形的意味が明らかになることを理解する。 ○複素数の乗法，除法の図形的意味を理解し，活用することができる。	○極形式の有用性を理解し，乗法と除法の図形的意味を理解しようとする。

	5	3．ド・モアブルの定理		○ド・モアブルの定理を利用して，複素数のｎ乗を求めることができる。 ○複素数の ｎ 乗根の定義と図形的意味を理解し，極形式を利用してｎ乗根を求めることができる。	○複素数の ｎ 乗根がちょうど ｎ 個存在することを，極形式を用いて考察することができる。 ○1 のｎ乗根の求め方をもとに，一般の複素数のｎ乗根を求めることができる。 ○複素数 ｚ について等式 $z^n=1$ が成り立つことを利用して，複素数の複雑な式の値が求められる。	○○ド・モアブルの定理の有用性を理解し，活用しようとする。 ○z^n-1 の因数分解の形に興味をもち，考察しようとする。
		4．複素数と図形		○線分の内分点・外分点や，複素数の方程式で表される図形を求めることができる。 ○一般の点を中心とする点の回転について成り立つ複素数の関係式を理解し，回転した点を表す複素数を求めることができる。 ○複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。	○点ｚと連動して動く点ｗが描く図形について，その式の意味も含めて考察したり，説明したりできる。 ○複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して，三角形の形状などについて考察できる。	○図形の問題を，複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。
	6	〈式と曲線〉 1．放物線	20	○放物線が，焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から，焦点，準線が求められる。また，条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点がｙ軸上にある放物線の方程式を理解している。	○放物線が，焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ○放物線の方程式から，焦点，準線が求められる。また，条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点がｙ軸上にある放物線の方程式を理解している。	○2 次曲線を解析幾何学的な方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。
		2．楕円		○楕円が，2 つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○楕円の方程式から，焦点などが求められる。また，条件から楕円の方程式を求めることができる。 ○焦点がｙ軸上にある楕円の方程式を理解している。	○軌跡の考え方を利用して，楕円の方程式を導くことができる。 ○楕円の焦点がｘ軸上にあるか，ｙ軸上にあるか，その方程式から考察ができる。	○条件を満たす軌跡について，条件を変えたときに軌跡がどのように変わるか検討しようとする。
		3．双曲線		○双曲線が，2 つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ○双曲線の方程式から，頂点，焦点，漸近線が求め	○軌跡の考えを利用して，双曲線の方程式を導くことができる。 ○双曲線の焦点がｘ軸上にあるか，ｙ軸上にあるか，その方程式から考察が	○2 次曲線が円錐と平面との交線であることに興味，関心をもち，考察しようとする。

				られる。また，条件から双曲線の方程式を求めることができる。 ○焦点がｙ軸上にある双曲線の方程式を理解している。	できる。 ○2 次曲線を，円錐を平面で切った切り口の曲線として捉えられる。	
	7	４．２次曲線の平行移動		○曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は，曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。 ○x，y の 2 次方程式を変形して，その方程式が表す図形を求めることができる。	○複雑な方程式で表された 2 次曲線を，平行移動を利用して考察することができる。	○直角双曲線 $xy=1$ に関心をもち，考察しようとする。
2	9	５．２次曲線と面積		○2 次曲線と直線の交点や弦の中点を 2 次方程式の実数解を利用して求められる。 ○2 次曲線の接線の方程式を，2 次方程式の解（重解）を利用して求められる。 ○2 次曲線の接線の方程式の一般形について理解し，接点が与えられたときに接線を求めることができる。	○2 次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え，共有点の個数について考察することができる。 ○放物線の接線や焦点の性質について，式を使って考察することができる。	○2 次曲線と直線の位置関係について，2 次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。 ○2 次曲線の焦点の性質に関心をもち，考察しようとする。
		６．２次曲線の性質		○楕円や双曲線の方程式を，離心率ｅをもとに求められる。	○放物線，楕円，双曲線を離心率ｅと１との大小関係で統一的に取り扱うことができる。	○2 次曲線と直線の位置関係について，2 次曲線と直線の共有点の個数で調べようとする。 ○2 次曲線の焦点の性質に関心をもち，考察しようとする。
		７．曲線の媒介変数表示		○曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ○放物線の頂点の軌跡を，媒介変数を利用して求められる。 ○2 次曲線や円を，媒介変数を用いて表すことができる。 ○媒介変数表示の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求められる。	○媒介変数表示の曲線の平行移動を一般的に取り扱うことができる。 ○x，y についての方程式では表しにくい曲線を，媒介変数表示を用いて考察することができる。	○曲線の方程式の媒介変数表示に興味，関心をもち，媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。 ○サイクロイドなど媒介変数表示でないと表しにくい曲線を進んで考察しようとする。
		８．極座標と方程式		○極座標で表された点の位置を表示できる。 ○点の座標について，直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○円や直線を極方程式で表すことができる。 ○曲線の方程式について，	○曲線を極座標を用いて表すと簡潔に表せ，その性質の考察が容易になることがあることに気づく。 ○2 次曲線の極座標表示を，離心率ｅを用いて統一的に考察することが	○平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味，関心をもつ。 ○2 次曲線を極方程式で表すと，離心率を用いて簡潔に表されることに興味，関心をもち，考察し

				直交座標と極座標を相互に変換できる。 ○2 次曲線を，離心率 e を用いて極方程式で表すことができる。	できる。	ようとする。
		9．コンピュータといろいろな曲線		○いろいろな曲線をコンピュータで描画し，その性質を考察できる。		○媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き，それらを考察することに興味，関心をもつ。
3	10 11 12 1 2 3	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C の復習，総合問題演習	35	○国公立大学２次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、解法で扱われる数学的知識や公式を用いることができる。 ○共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、試験時間内に全問題を解き切ることができる。	○国公立大学2次試験受験に向けた総合演習を通じて、本試験における高い得点率を目指し、各大問の解答方針を立てることができる。 ○共通テスト受験に向けた総合演習を通じて、本試験における得点率80%を目指し、時間内に解き切り、更に見直しを行えるよう解答方針を検討し、時間短縮を図ることができる。	○国公立大学2次試験や各自の志望校の出題傾向を調べ、頻出事項の復習を自発的に行い、不明な点は授業や授業担当者への質問を行い、解決しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜　４学年　化学基礎　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版「化学基礎」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ新化学図表 第一学習社「セミナー化学基礎

目標
・年間を通して、生徒実験や演示実験を多く取り入れ、生徒が化学への興味を持ちながら学習を継続し、学力をつけることを目標とする。また、問題演習などを通して、主体的に学習する姿勢を身につける。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察しようとする力があるか。 ＜評価の方法と材料＞定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テスト、授業および実験への参加姿勢などを加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・物質の探求		・物質の種類と性質、分離法を理解できる。	・実験の結果を分析・考察することができる。	・身近な出来事に疑問をもち，化学の探究の進め方に興味をもつ。
	5	・物質の構成粒子 ・イオンとイオン結合		・イオン結合でできた物質の性質を理解できる。		
	6	・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・金属と金属結合		・各結合でできた物質や性質を理解できる。	・各結合でできた物質や性質を説明できる。	・各結合でできた物質に関心をもつ。
	7	・物質量と化学反応式	25	・原子量・分子量・式量を理解できる。	・モル質量の概念を使い，粒子の数・質量と物質量に関する計算ができる。	・物質量の概念について興味をもち，粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。
2	9	・物質量と化学反応式 ・化学反応式と量的関係		・化学変化における量的関係を理解できる。	・モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質量の計算ができる。	・物質量の概念について興味をもち，質量や体積など、それぞれの関係について説明できる。
	10	・硫酸銅(Ⅱ)の水和水				
	11	・酸と塩基 ・滴定曲線		・酸・塩基の性質・反応を理解し、中和における酸塩基の量的関係を理解できる。	・水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、pHを求めることができる。	・酸とは何か，塩基とは何かに関心をもつ。
	12	・中和滴定				
		・酸化還元反応 ・酸化数 ・半反応式 ・酸化還元滴定	25	・酸化と還元の定義、酸化数を理解できる。 ・酸化剤・還元剤を反応式で表すことができる	・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。	・酸素を受け取ることが酸化，酸素を失うことが還元であることに気づく。
3	1	・イオン化傾向		・電池の原理を理解している。	・電池の基本的なしくみについて，イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。	・電池や金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。
	2	・電池 ・電気分解		・電気分解の各極での反応を理解できる。		
	3	・ファラデーの法則	20	・電気量と生成物の関係を理解できる。		・身近にある電池の構造や反応のしくみに興味を示す。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜　後期４学年　生物基礎　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	１０４　数研　生基　７０７ 生物基礎
使用補助教材	○ニューグローバル生物基礎＋生物（東京書籍） ○フォトサイエンス生物図録（数研出版） ○Navi&トレーニング生物基礎（啓林館）

目標
○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。

評価の観点と方法・材料
【観点】　生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 【方法・材料】定期考査、小テストや各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	○生物の特徴 ・多様性と共通性 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現	26	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。
2	9 10 11 12	○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき	28	○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。	○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。	○体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。

3	1 2 3	○生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	16	○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全、さらにはそれらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。	○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全に関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。	○生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全に関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜５学年　物理基礎＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版「707 物理基礎」
使用補助教材	数研出版「リードα 物理基礎」

目標
・実験や対話的な学び合いを通じて、日常生活の中の物理現象を正しく理解し、そこに潜む法則性を検証、理解する。 ・ICT 機器などを活用した実験を通じて物理の面白さを体感し、論理的思考力を養い、考える力を身につける。 ・難関国公立大学に対応できる応用力を身に着ける

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞物理現象に対する正しい概念を身に着け、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝え、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。 ＜評価の方法と材料＞定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テストや提出物等を加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	運動の表し方【実験】v-t グラフの作成　摩擦力 加速度 落体の運動　【実験】重力加速度の測定 運動の３法則 運動の法則　【実験】運動の法則の測定 運動方程式の使い方	4 8 8 5	速度、加速度の概念を理解し、等加速度運動のグラフから様々な物理量を求めることができる。 力を受ける物体に対して運動方程式を立て、物理量を計算できる。 運動方程式を導き、簡単な使い方をマスターする。	物体の運動を、時間の関数グラフで表現できる。 ICT 機器を活用して身近な加速度運動を測定し、グラフで表現できる。 つりあいの力と作用反作用の力との違いを区別できる。 力と加速度の関係性を見出すことができる。	物体の運動に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2	9 10 11 12	仕事とエネルギー 仕事と仕事率 エネルギーの保存則 エネルギーと仕事の関係 【実験】力学的エネルギー保存則の検証 熱とエネルギー 熱力学の第一法則 波の性質 波と媒質の運動 波の伝わり方	5 8 8 6	仕事量、仕事率を計算できる。 力学的エネルギー保存や仕事とエネルギーの関係式を用いて、様々な物理量を計算できる。 熱力学第一法則を理解できる。 波の基本的性質を理解し、波動現象に関する物理量を求めることができる。	身近な仕事の実験から仕事の原理を理解できる。 エネルギー保存則が成り立つ現象を解析し、物理式を用いて表現できる。 熱力学第一法則を用いて身近な熱機関の仕組みを説明することができる。 ウェーブマシン、身近な波動現象を観察し、その仕組みを説明するこができる。	様々なエネルギーに疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 波動現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
3	1 2 3	音 振動と共振・共鳴 【実験】音の観測実験 物質と電気抵抗 電流と電気抵抗 電気とエネルギー 交流と電磁波 エネルギーとその利用	8 6 4	管楽器、弦楽器の固有振動数の計算ができる。 オームの法則、交流発電機、変圧器のしくみ、電磁波の性質を理解し、説明することができる。 身の回りでエネルギーが様々な形態で変換していることを理解できる。	管・弦楽器の倍音の関係が理解できる。 様々な回路における電流や電圧の大きさを、物理式で推測し、実験によって検証することができる。 実験によって電磁誘導の仕組みを説明することができる。	楽器の音がでるしくみを探究できる。 電磁気的現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期５学年　必修選択　地学基礎　＞　年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	啓林館「703 高等学校 地学基礎」
使用補助教材	啓林館「センサー 地学基礎」 浜島書店「ニューステージ地学図表」

目標
・実験や対話的な学び合いを通じて、日常生活の中の地学現象を、多様な 時間・空間スケールで理解し、その法則性を見出す力を身につける。 ・ICT 機器などを活用した実験を通じて、地学現象の観測、データ処理、 表現手法などを身につける。 ・大学入学共通テストに対応できる応用力を身につける。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞地学現象に対する正しい概念を身に着け、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝えたり、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。 ＜評価の方法と材料＞定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、小テストや提出物等を加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○地球 ・地球の概観 【実験】地球の大きさの測定 ・地球の内部構造 【実験】アイソスタシー	4	○地球の姿がどのように明らかになったのかを理解できる。 ○地球の内部構造について知り、その推定方法について理解できる。	○ICT 機器を用いて、地球の大きさを推定できる。 ○地球内部構造のモデルを作成し、その仕組みについて具体的な数値を用いて表現することができる。○プレートテクトニクスによって地球で起こる地殻変 動を推測することができる。 ○緊急地震速報の仕組みを活用して、地震波から、その自信の特徴について推測することができる。 ○様々な火成岩を観察し、その構造の違いから火成岩を分類して表でまとめることができる。	○地球や地球内部で起こる現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	5	○活動する地球 ・プレートテクトニクス と地球の活動	8	○プレートテクトニクスの完成の背景を理解することができる。 ○プレートテクトニクスの観点から、日本に地震が多く発生する理由を理解できる。		
	6	・地震 【実験】液状化実験 ・	8			
	7	火山活動と火成岩の形成 【実験】石膏を用いた噴火実験	5	○プレートテクトニクスの観点から、日本に火山が存在する理由を理解できる。		
2	9	○大気の構造 ・大気圏 ・水と気象	5	○気温の鉛直分布から大気の層構造について理解できる。	○身の回りの雲を観察し、大気の状態について推測することができる。○地球温暖化と気候変動の関係性について、世界で起こっている自然災害の事例を調べ、パワーポイント等を活用して表現することができる。 ○身近な天気図から日本周辺の気象現象について簡単な予報をすることができる。 ○観測した気象データを活用して、大気の状態についてグラフで表現すること	○地球表面で起こる現象に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	10	○太陽放射と大気・海水の運動 ・地球のエネルギー収支 ・大気の大循環 ・海水の循環	8	○温室効果について理解し、地球温暖化が起こっている理由について説明できる。 ○大気や海洋の大循環を知り、地球のエネルギー輸送について説明できる。		
	11	○日本の天気 ・日本の位置 ・冬から春の天気 ・夏から秋の天気 【実験】身近な気象観測	8	○日本周辺の大気の運動について理解し、日本の天気の移り変わりを、科学的な視点から説明できる。 ○宇宙、銀河、太陽系など		

	12	○地球の誕生 ・宇宙の誕生 ・太陽系の誕生	6	の階層構造を知り、その歴史について理解できる。 ○惑星としての地球の特徴について、太陽系の他の 星と比較して理解できる。	ができる。 ○地球の生命が誕生した理由について、宇宙空間と地球との位置づけから説明することができる。	
3	1 2 3	○地球と生命の進化 ・先カンブリア時代 ・顕生代 ○自然との共生 ・地球環境と人類 ・地震災害・火山災害 ・気象災害 ・災害と社会 ・人間生活と地球環境の変化	8 6 4	○地球の生命と地球環境との関係について理解し、生命誕生と進化の必然性を説明できる。 ○日本で起こっている自然災害を知り、その原因や防災対策について理解できる。 日本人の自然災害との向き合い方・共生を知り、これからの地球環境との向き合い方を考えることができる。	○現在の地球環境の移り変わりから、今後の地球環境や生命進化について推測することができる。○身近な自然環境や災害に ついて、地学的な見方・考え方や SDGs の観点を踏まえて、パワーポイント等を用いて表現することができる。 ○災害時の図上シミュレーションから、人間生活と自然との共生について、自らの考えを表現することができる。	○地球の歴史やその推定方法について疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 ○地球環境と人間生活の関りについて疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期５学年　化学＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版 706「化学」
使用補助教材	第一学習社「新課程版 セミナー化学」 浜島書店「ニューステージ新化学図表」

目標
(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 化学的な事物・現象を科学的に探究する力を養う。 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ 「知識・技能」の評価…知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができているか。 「思考・判断・表現」の評価…習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。 「主体的に学習に取り組む態度」…知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につけ、その過程において，自ら学習を調整しようとしているか。 ＜評価の方法と材料＞ 出席状況、定期考査、宿題テスト、実力テスト、提出物、宿題、その他の課題、長期休業中の課題学習など。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	物質の状態変化 .粒子の熱運動 .三態の変化とエネルギー 化学反応とエネルギー . 化学反応と熱 .ヘスの法則 . 化学反応と光 電池と電気分解 . 電池 . 電気分解	25	・気体分子の熱運動と運動エネルギー，温度の関係について理解し、状態変化に関するエネルギーの名称を理解する。 ・構成粒子間の力の大小と状態について理解する。 化学反応に伴う熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 ・発熱反応，吸熱反応とエンタルピー変化の正負の関係を理解する。 ・電池のしくみを理解する	・気体分子の熱運動と運動エネルギー，温度の関係について説明できる ・比熱や融解熱，蒸発熱など必要な熱量を計算することができる。 ・反応エンタルピーの種類を判断し，エンタルピー変化を付した反応式を書いたり，反応エンタルピーを求めたりすることができる。 ・電池の両極での反応式を用いて，物質量などの量的な計算ができる。	・粒子の熱運動に興味をもち、表現することができる。 ・物質の状態変化について興味をもち表現することができる。 ・化学変化とエネルギーの出入りについて熱・光・電気などへ変換される現象について興味を持つ。 ・電池の構造や両極で起こる反応，現象に興味をもつ。
2	9 10 11 12	無機物質 元素の分類と周期表 非金属元素 ・1・18・17・16・15・14族 金属元素(典型元素) ・1・2・13族 金属元素(遷移元素) ・Fe・Cu・Ag・Au・Zn・Cr Mn・W・Pt・Hg	25	・元素の分類（典型元素・遷移元素，金属・非金属）について理解する。 ・水素および貴ガス、ハロゲン元素,酸素や窒素、炭素とケイ素の性質を理解する。 ・アルカリ金属・アルカリ土類金属、など典型金属元素の単体や化合物の性質を理解する。 ・遷移元素の単体や化合物の性質を理解する。	・周期表に基づいて，元素の分類や周期性を説明できる。 ・水素、ハロゲン元素,酸素や窒素、炭素とケイ素などの反応について反応式を用いながら説明できる。 ・工業的製法について反応式を用いて説明できる。 ・水溶液の色と遷移元素の関係を判断したり、錯イオンについて考えることができる。	・水素、ハロゲン元素,酸素や窒素、炭素とケイ素などの単体を集める方法や発生方法、またそららの化合物の性質や利用方法に興味をもつ。 ・気体の製法と性質についてまとめる。 ・典型金属元素や遷移元素の特徴について興味をもつ。

3	1 2 3	有機化合物 ・有機化合物の分類と分析方法 ・脂肪族炭化水素 ・アルコールと関連化合物 ・芳香族化合物 ・芳香族炭化水素 ・フェノール類と芳香族カルボン酸 ・芳香族アミンとアゾ化合物 有機化合物の分離	20	・有機化合物の特徴について理解する。 ・有機化合物の分類について，炭素骨格での分類や官能基による分類を理解する。 ・有機化合物の表し方について，分子式や構造式，示性式について理解する。 ・異性体について理解する。 ・有機化合物の官能基による反応性の違いを理解する。 ・芳香族の官能基や名称,反応性について理解する。	・有機化合物を炭素骨格や官能基の違いに基づいて分類することができる。 ・有機化合物を，分子式や構造式，示性式で表すことができる。 ・炭化水素の反応について説明ができる ・有機化合物の性質や反応性などに基づいて，その構造式や名称を書くことができる。 ・勇気化合物の反応を体系的に示すことができる。	・元素分析を中心とし、官能基による有機化合物の性質の違いを用いた分析について興味をもつ。 ・有機化合物の特徴や構造異性体、光学異性体、シス-トランス異性体などの分類について興味をもつ。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜６学年　物理＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	数研出版「707 総合物理 1」 数研出版「708 総合物理 2」
使用補助教材	数研出版「リードα物理」 ラーンズ「共通テスト対策　実力完成直前演習　2025 共通テスト物理」

目標
・理系進学者に対して、体系的に物理の学習の完成をめざす。 ・広範囲に及ぶ物理現象を解析、理解し、物理学の魅力を伝える。 ・受験に対応できる学力を養成することを目標とする。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞物理現象に対する正しい概念を身に着け、自然現象を物理的に考察することができるかどうか。自然現象に対して数式などを用いた正しい方法で表現して第三者に伝え、未知の事柄を推測・考察できる能力が備わっているか。 ＜評価の方法と材料＞定期考査の他に、実験レポートや課題プリントの提出、単元小テストを加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	剛体にはたらく力のつり合い 運動量の保存 等速円運動 単振動 万有引力 気体のエネルギーと状態変化 波の性質 ・音 ・光	4 8 16 8 14	力学分野の剛体、運動量を理解し力のモーメントのつりあい、運動量の保存の式をたてられる。 等速円運動、単振動、万有引力を体系的に説明できる。 熱力学第一法則から状態変化を理解できる。 波の性質が理解でき、基本的な性質が理解できる。	重心を見出すことができる。 衝突現象では、衝突後の運動が解析されることを理解する。 等速円運動、単振動の運動方程式をたてられる。 気体分子の運動を分子運動論から力学的に説明できる。 光の回折・干渉の各現象について説明ができる。	実験に主体的に参加し、物理現象を探究的に考えることができる。 物体の運動に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2	9 10 11 12	電場 電流 磁場 電磁誘導 交流回路 電子と光 原子と原子核 共通テスト演習	18 18 10 10	電場と電位について理解できる。 コンデンサー、直流回路について説明ができる。 電流がつくる磁場、電磁誘導が理解できる。 交流回路の概念が理解できる。 光・粒子の二重性が理解できる。	電磁気の法則を理解し、電気的現象を総合的に考えることができる。 光電効果、X 線、コンプトン効果について説明できる。 ボーア模型の方程式を立て、エネルギー準位が求められる。	物体の運動に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。 共通テストレベルの問題を解答することができる
3	1 2 3	過去問題や予想問題を解き、理解した学習内容を活用して大学入試テストのレベルの問題を解答することができる	36	力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解する。	物理法則を計算問題への応用ができる。各分野を超えた複合問題にも対応できる。	受験問題においても興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
		年間授業時数	140			

令和６年度　＜６学年　物理演習＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版「707　総合物理１」 数研出版「708　総合物理２」
使用補助教材	数研出版「2024 物理重要問題集 物理基礎・物理」

目標
・理系進学者に対して系統的な物理の学習をめざす。 ・広範囲に及ぶ物理現象を解析し、物理学の見方・考え方を深め、難関大学受験に対応できる学力を養成することを目標とする。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞物理の内容を踏まえ、学習内容を理解し、理解した内容を活用して大学入試問題を解答する能力が備わっているか。 ＜評価の方法と材料＞定期考査の他に、毎回の小テストの結果、演習への参加姿勢などを加味した総合評価とする。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	等加速度運動 力とつりあい 運動の法則 運動量の保存 円運動・万有引力 単振動・単振り子 温度と熱量 気体分子の運動と状態変化 波の性質 ・音波 ・光波	8 6 4 6	力学の概念を理解し、式で表わせ、基本的な公式を理解し、様々な物理量を求めることができる。 気体分子の運動に関する熱力学の概念を理解している。波動の基本概念を理解し、特に音波、光波について説明ができる。	物体が受ける力を図示でき、つりあいの式や運動方程式をたてることで、複雑な運動における様々な物理量を求めることができる。 気体分子の状態変化への理解ができていてグラフからの読みとりもできる。	物体の運動、気体分子の運動、波の性質に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
2	9 10 11 12	静電気と電場 コンデンサー 直流回路 電流と磁場 電磁誘導 交流回路 電子と光 原子と原子核	8 8 6 6	電磁気学の概念を理解し、基本的な公式がわかり、様々な物理量を求めることができる。 原子分野に関する概念を理解している。２０世紀の物理の発展について説明できる。	電場と電位、コンデンサー、直流回路、電流と磁場の典型的な問題を理解し、物理量を求めることができる。 粒子の波動性、光の粒子性を理解し、物理公式を使い計算できる。	電場と電位、コンデンサー、磁場、回路に疑問・興味・関心をもって主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
3	1 2 3	力学、電磁気、波動、原子分野の復習と応用	18	物理の全範囲を理解し、広い分野で総合的な理解ができている。	力学、電磁気、波動、原子分野の物理概念を理解し、計算問題への応用ができる。	各分野を超えた複合問題などに対応できる。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜後期６学年　理科発展化学　＞　年間指導計画

単位数	4 単位
使用教科書	数研出版　「化学」
使用補助教材	第一学習社 「新課程版 セミナー化学」 浜島書店 「ニューステージ新化学図表」

目標
（1）化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付けるようにする。 （2）化学的な事物・現象を科学的に探究する力を養う。 （3）化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】知識の習得や知識を概念的に理解しているか，実験操作の基本的技術の習得状況。 ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等 【思・判・表】課題を解決するにあたり、既学習事項を活用して解決する、思考力・判断力・表現力などが身についているか。 ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等 【主体的】興味関心をもとに、知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において，粘り強く学習に取り組む姿勢，自ら学習を調整する姿勢等を表現することができる。 ・定期考査・小テスト・レポート・ワークシート提出物・問題演習への取組等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 ・理論化学 7	物質の状態 物質の三態 気体の性質 ：固体の構造 溶液の性質 コロイド溶液 気液平衡 溶解平衡 反応速度 化学反応における 様々な平衡反応	55	気体分子の熱運動と運動エネルギー，温度の関係および、状態変化に伴うエネルギー変化を理解する。 単位格子や配位数の意味について理解する。 気液平衡、蒸気圧および蒸気圧曲線と沸騰の関係について理解する。 反応速度、反応定数の定義を理解する。	拡散を熱運動に関連づけて説明できる。 状態図をもとに三態変化、エネルギー変化を説明できる 単位格子に関して，格子の長さや密度、アボガドロ定数などの関係を説明できる。 化学反応に関わる条件に基づき，条件を変えることでどのように変化するのかを判断することができる。	粒子の熱運動に興味をもつ。 物質の状態変化について興味をもつ。 身近な状態変化をあげる。 大気圧や蒸気圧，状態図について興味をもつ。 反応速度・電離平衡およびそれに関わるさまざまな現象について興味をもつ。
2	9 10 11 12	天然高分子化合物 アミノ酸・ポリペプチド 糖 合成高分子化合物 プラスチック　ゴム ・共通テストおよび大学入試基礎問題演習	55	高分子化合物の定義や分類，構造、その重合方法や特徴について理解する。 単糖をもとに二糖類や多糖類の構造，名称，反応性について理解する。 アミノ酸の示性式や特徴，検出方法，反応性について理解する。	化学式や名称，構造，性質に基づいて糖類やアミノ酸を分類することができる。 還元糖をヘミアセタール構造と関連させて説明することができる。 双性イオンと等電点の考え方を理解する。	糖類・アミノ酸類の特徴やその構造，反応性，利用例について興味をもつ。 合成樹脂の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。
3	1 2 3	・合成樹脂と人間生活 ・共通テスト問題演習 ・大学入試問題演習	30	身近な合成高分子化合物について理解する。 熱可塑性樹脂および熱硬化性樹脂の名称や単量体，利用例，性質を理解する。	脂脂の合成において構造式や反応式に基づいて，量的計算を行うことができたり、イオン交換樹脂の原理の理解をもとに，量的計算を行うことができる。	合成樹脂の特徴やその重合方法，構造，利用例について興味をもつ。 大学の入試問題の構成について興味を持つ。
年間授業時数			140			

令和６年度　＜後期６学年　化学基礎演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	数研出版化基 708「化学基礎」
使用補助教材	浜島書店「ニューステージ 新化学図表」 第一学習社「セミナー化学基礎＋化学」 浜島書店「つかむ　化学基礎」 Learn-s「共通テスト直前演習化学基礎」

目標
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てる。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な物の見方や考え方を養い、大学入学共通テストに対応できる問題解答力を涵養する。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞ 学習内容を理解し、理解した内容を数式などを用いた正しい表現で、第三者に伝える力が備わっているか。また、既習事項を総合して、未知の事柄を推測・考察しようとする力があるか。 自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする ＜評価の方法と材料＞定期考査や実験レポート、課題プリントの提出、小テスト、授業および実験への参加姿勢などを加味した総合評価とする。

学期	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	・物質の構成 ・物質の構成粒子 ・粒子の結合	・原子と元素の違いや分離操作、各種結合についてその原理を確認し、分子間の引力が物質の性質に及ぼす影響を理解する。	【知識・技能】 小テスト 定期考査 【思・判・表】 レポート 定期考査 【主体的】 ワークシート 演習問題への取組	4
	・物質量と化学反応式	・原子や分子などを取り扱う数値の定義を正しく理解し、種々の化学計算に利用できるようにする。 ・溶液について濃度や溶解度の基礎を確認し、各種化学計算に活用できるようにする。 ・化学反応式を組み立て、その係数から量的関係を把握する。		8
	・酸と塩基の反応	・酸と塩基の定義、中和反応を理解させ、中和反応を数値的に取り扱うことができるようにする。 ・中和滴定の方法と滴定曲線について理解させ、中和点を判断するための指示薬を酸と塩基の強弱の組みあわせから選ぶことができるようにする。		8
2	・酸化還元反応	・酸化・還元について、その定義を正しく理解させる。 ・酸化剤や還元剤となる物質の酸化数の変化に着目して、それらの半反応式を組み立てられるようにし、量的関係を理解する。 ・酸化還元の原理から電池や電気分解の構造や反応の様子を理解させ、各極で起こる反応を判断できるようにする。		5

２・３	・化学基礎の各種演習 ・共通テスト対策演習 ・中堅・難関私大過去問解答	・化学基礎の範囲の内容について、再度重要な点を確認しながら、多くの問題に触れて理解を深めさせる。 ・中堅・難関私大の過去問題を解答させることで、受験に対応できる問題解答力を向上させる。		４５
配　当　時　間　合　計				７０

令和６年度　＜　後期６学年　生物基礎演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	１０４ 数研 生基 ７０７ 生物基礎
使用補助教材	○リードα生物基礎（数研出版） ○フォトサイエンス生物図録（数研出版） ○チェック＆演習　生物基礎（数研出版） ○共通テスト対策　実力完成直前演習（ラーンズ）

目標
○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テスト（および個別試験）での問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
【観点】　生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 【方法・材料】定期考査、小テストや各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	○生物の特徴 ・多様性と共通性 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現 ○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき ○生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	26	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。
2	9 10 11 12	○生物の特徴 ・多様性と共通性 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 ○遺伝子とそのはたらき ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報の発現	28	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保	○生物の多様性と共通性、物質代謝とエネルギー代謝、酵素、光合成と呼吸、遺伝子、遺伝情報、体内環境とその維持のしくみ、各種調節や情報伝達、生物の多様性と生態系、植

		○体内環境の維持 ・体内での情報伝達 ・体内での各種調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき ○生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全		性と生態系、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	全など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系のバランスと保全など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。
3	1 2 3	●生物基礎全範囲についての、演習の実践	16	○全範囲について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○全範囲について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○全範囲に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜　後期６学年　生物　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	１０４　数研　生物　７０４ 生物
使用補助教材	○新編アクセス　総合生物【生物基礎＋生物】（浜島書店） ○スクエア最新図説生物（第一学習社） ○チェック＆演習　生物（数研出版） ○共通テスト対策　実力完成直前演習（ラーンズ） ○アクセスノート生物（実教出版）

目標
○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テストおよび個別試験での問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
【観点】　生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 【方法・材料】定期考査、小テストや各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	○生物の進化 ・生命の起源 ・生物の変遷 ・進化のしくみ ・系統と進化 ・系統と分類 ○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・タンパク質 ・代謝とエネルギー ○遺伝情報の発現と発生 ・ＤＮＡの構造と複製 ・遺伝情報の発現と調節 ・発生と遺伝子発現 ・バイオテクノロジー	52	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。
2	9 10 11 12	○動物の反応と行動 ・刺激の受容 ・体内での情報統合 ・刺激への反応 ・動物の行動 ○植物の反応と行動 ・植物ホルモン ・植物の環境応答 ・配偶子形成と受精 ○生物群集と生態系 ・個体群 ・物質生産と物質循環	56	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する観察実験技能に関する知識・概念を理解・習得する。	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析や考察をすることができる。その内容について説明をすることができる。また、数的データについて計算処理をすることができる。	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができ

						る。
3	1 2 3	●生物および生物基礎全範囲についての、演習の実践	32	○各単元内容について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識･概念についての演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○各単元内容について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○各単元内容に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。
年間授業時数			140			

令和６年度　＜　後期６学年　生物演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	１０４　数研　生物　７０４ 生物
使用補助教材	○新編アクセス　総合生物【生物基礎＋生物】（浜島書店） ○スクエア最新図説生物（第一学習社） ○チェック＆演習　生物（数研出版） ○共通テスト対策　実力完成直前演習（ラーンズ） ○アクセスノート生物（実教出版）

目標
○生物や生物現象について理解を深め、実験観察等に関する知識・技能を身につける。 ○科学的・生物学的な論理について学び、探究力・思考力を身につける。 ○生物や生物現象について、自ら探究し主体的に学習する態度を養う。 ○大学共通テストおよび個別試験での問題解答力を身につける。

評価の観点と方法・材料
【観点】　生物現象における知識・技能の理解・習得、既習事項や実験データからの考察・説明、授業や課題に対する取組など。 【方法・材料】小テストや各種課題（演習プリント等、授業で実施したり課題として指示したもの）の提出の有無や内容、授業や課題への取組姿勢など。これらを基にして総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	○生物の進化 ・生命の起源 ・生物の変遷 ・進化のしくみ ・系統と進化 ・系統と分類 ○生命現象と物質 ・生体物質と細胞 ・タンパク質 ・代謝とエネルギー ○遺伝情報の発現と発生 ・ＤＮＡの構造と複製 ・遺伝情報の発現と調節 ・発生と遺伝子発現 ・バイオテクノロジー	26	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする基本的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○生物進化、化学進化、遺伝子変化、系統分類、系統と分類、各種生体物質、細胞、タンパク質全般、各種代謝とエネルギー、酵素、遺伝子、遺伝情報、個体発生、発生調節、バイオテクノロジーなど。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り組むことができる。
2	9 10 11 12	○動物の反応と行動 ・刺激の受容 ・体内での情報統合 ・刺激への反応 ・動物の行動 ○植物の反応と行動 ・植物ホルモン ・植物の環境応答 ・配偶子形成と受精 ○生物群集と生態系 ・個体群 ・物質生産と物質循環	28	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての発展的な演習問題に対応する問題解答力を身に	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。それらについて、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする発展的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○刺激の受容と反応、興奮の伝導・伝達とそのしくみ、動物の行動、植物ホルモン、各種環境応答、配偶子形成と受精、個体群、生態系内の物質生産と物質循環など。さらには、それらに関する各種生物および生物現象について疑問・興味・関心をもち、主体的に問題演習など各種課題に取り

				つける。		組むことができる。
3	1 2 3	●生物および生物基礎全範囲についての、演習の実践	16	○各単元内容について、さらには関連する観察実験技能も含めた各種知識・概念についての実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○各単元内容について、関連する知識・情報・実験観察データなどを活用して、分析・考察・数的処理などを必要とする実践的な演習問題に対応する問題解答力を身につける。	○各単元内容に関する演習・課題について、主体的に取り組むことができる。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜４学年　選択音楽Ⅰ　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	教育芸術社　MOUSA１
使用補助教材	アルトリコーダー

目標
(1)　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 (2)　音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。 (3)　主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽文化に親しむことができる。

評価の観点と方法・材料		
【知識・技能】小テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題、音楽理論	【思考・判断・表現】実技テスト、レポート課題、実技課題等	【主体的に学習に取り組む態度】提出物、学習態度、リフレクション等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5	合唱曲とパートの役割 ・混声４部合唱 ・パートの役割		・歌唱に必要な楽典の知識（音・拍子）や音楽用語を理解している。 ・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・曲に合った表現で歌唱している。 ・音楽の特徴と曲想の関わりや、曲に対する評価とその根拠について考え、作品の良さや美しさを捉えている。	・学習に対して課題意識をもち、パート練習や全体練習などの学習に主体的に取り組もうとしている。
		合唱の響きと表現④ ・歌詞の内容と曲想の関わり ・旋律の重なり方		・演奏に必要な楽典の知識（音程・調性）や用語を理解している。 ・まとまりのある表現で歌唱するため技能を習得している。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・学習に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。
	6	独唱曲⑤ ・イタリア歌曲 ・カンツォーネ作品の歌唱		・自己のイメージをもって表現を工夫するために必要な発生や発音の技能を習得している。	・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、音楽表現を工夫している。	・学習に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。
	7	作品と音楽史・鑑賞 ・バロック・古典派作品の鑑賞		・音楽の特徴について、音楽における働きや作品の背景と関わらせて理解している。 ・曲に対して、根拠を示しながら評価することができる。	・音楽の特徴や感じ取ったこととの関わりについて考えている。 ・バロック及び古典派作品のの特徴を捉えている。	・作品やその背景に関心をもって主体的に学習に取り組んでいる。
2	9 10	器楽アンサンブル ・小打楽器 作品と音楽理論 ・拍とリズム		・演奏に必要な楽典の知識や音楽用語を理解している。 ・自己のイメージをもって表現を工夫するため技能を習得している。	・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、音楽表現を工夫している。	・自己やグループの学習状況に対して課題意識をもち、表現活動に主体的に取り組もうとしている。
	11 12	作品と音楽史・鑑賞 ・ロマン派作品の鑑賞		・音楽の特徴の働きや作品の背景を理解している。 ・曲や演奏に対して、根拠を示しながら評価することができる。	・音楽の特徴や感じ取ったことの関わりについて考えている。 ・ロマン派作品の特徴について考えている。	・音楽のよさや美しさを感じ取り、聴き取り方や感じ方を深める活動に主体的に取り組んでいる。
3	1	表現・理論のまとめ ・音楽理論の復習 ・サウンドロゴ作成		・創作に必要な楽典の知識や音楽用語を理解している。 ・表現を工夫するため技能を習得している。	・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、音楽表現を工夫している。	・創作の学習に課題意識をもち、主体的に取り組もうとしている。
	2	歌唱まとめ ・独唱曲・重唱作品		・演奏に必要な楽典の知識や音楽用語を理解している。 ・表現を工夫するため技能を習得している。	・楽曲にふさわしい表現を考えて判断し、工夫して表現に結び付けている。	・歌唱の学習に課題意識をもち、主体的に取り組もうとしている。
	3	作品と音楽史・鑑賞 ・近・現代作品の鑑賞		・音楽の特徴について、音楽における働きや作品の背景と関わらせて理解している。	・近・現代作品の特徴を捉えている。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えている。	・音楽のよさや美しさを感じ取り、聴き取り方や感じ方を深める活動に主体的に取り組んでいる。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜４学年　美術Ⅰ　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	高校の美術１（日文）
使用補助教材	

目標
・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。 美術に対する感性を育てるとともに、技術、技能を伸ばし、豊かな情操を養う。

評価の観点と方法・材料

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・オリテーション ・地面風景画 ・校舎のある風景 ・鑑賞 美術館での作品鑑賞 （夏休み中）	2 4 12 4	・形や色彩、光などの性質やそれらがもたらす効果、造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	・遠近感の表現方法を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や糸と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・高校美術１の内容と目標について理解している。 ・校内の風景に関心を持ち、主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の見方や感じ方を深める鑑賞の造形活動に取り組もうとしている。
2	9 10 11 12	・チョーク彫刻 ・木彫カトラリー 鑑賞 模写、鑑賞レポート	2 24 2	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。	・使う人の願いや、心情、生活環境などから心豊かな発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。	・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
3	1 2 3 ・鑑賞	・陶芸 手びねり 板づくり 紐づくり 4	16 4	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的に表している。	・使う人の願いや、心情、生活環境などから生活を心豊かに演出する陶芸作品の発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。	・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜６学年　美術演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	高校の美術１（日文）
使用補助教材	

目標
・美術を愛好する心情と、自由な表現や鑑賞のための能力の育成を目指す。美術に対する感性を育てるとともに、技術、技能を伸ばし、豊かな情操を養う。

評価の観点と方法・材料

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7 ・鑑賞	・オリテーション （西洋美術史　全８巻） ・個人作品制作	4 4 10 4	・造形の要素の働きを理科している。 ・造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。 ・表現形式の特徴を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や糸と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・主体的に絵画や・彫刻の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
2	9 10 11 12 ・鑑賞	・個人作品制作	2 24 2	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・制作方法を踏まえ、意図に応じて、材料や道具を生かしている。 ・手順や技法などを吟味し、創造的表している。	・使う人の願いや、心情、生活環境などから心豊かな発想をしている。 ・使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練っている。	・主体的に工芸の表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・主体的に作品や工芸の伝統と文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
3	1 2 3	・表現活動とは	4	・造形の要素の働きを理解している。		・将来も主体的に創造活動に取り組もうとしている。
		年間授業時数	54			

令和６年度　＜４学年　芸術・書道　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	教育図書　「書Ⅰ」
使用補助教材	教育図書「書道資料集」

目標
書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

評価の観点と方法・材料
観点：ア知識・技能　イ判断・表現　　ウ主体的に取り組む態度
方法・材料：観察、書道ノート（学習の成果、自己評価、記録、ワークシート、調べ学習、振り返り）創作作品

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・書道の学習目標 ・用具・用材の知識 漢字の書 ・書体の変遷 ・執筆法、基本線質と用筆法 ・楷書古典の鑑賞と表現 ・創作（イメージ書） ・展示の為の名票作成	22	・書写との相違とともに書道学習の目標を理解し、用具、用材の知識を理解している ・書体の変遷について関心を高め、理解している ・基本線の用筆・運筆法を身につけている ・線筆、字形や構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している ・楷書古典に基づく 線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている	・楷書古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・楷書古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体構成について理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している	・楷書の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・学習過程の中で自らの改善点に気付き、調整しようとしている
2	9 10 11 12	・文化祭展示作品の鑑賞 ・行書の基本線質 ・行書古典の鑑賞と表現 仮名の書 ・仮名の成立と種類 ・用具、用材の取扱い ・基本線質、単体と連綿　連綿法とリズム ・古筆鑑賞と変体仮名の効用 ・創作（自選俳句）	28	・行書の特徴を理解し、その表現法を身に付けている ・行書古典に基づく表現の多様性を理解している ・仮名の歴史と種類、用具、用材の取り扱いについて理解している ・運筆のリズムや連綿の技法を理解し、身に付けている ・古筆の流動美、余白美、立体美、変体仮名の効用について理解し、その表現法を身に付けている	・行書古典の価値とその影響について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・行書の用筆・運筆、筆脈の流れについて理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している ・仮名古筆の価値とその意義について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている ・仮名の運筆のリズムや連綿法、変態仮名の使用法を理解し、その知識や技能を表現に生かすことを構想し、工夫している	・行書の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・仮名の基本的な知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた取り組みに対し、粘り強く取り組んでいる ・学習過程の中で自らの改善点に気付き、調整しようとしている
3	1 2 3	漢字仮名交じりの書 ・現代書の鑑賞と創作法 ・言葉の決定 ・作品のねらいと構成、書風の決定 ・試書→批評→改善→互評会→完成 学習の振り返り	20	・名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している ・目的や用途に即した効果的な表現の技能を身に付けている ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技法を身に付けている	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいて構想し、工夫している ・これまでの学習を生かした表現について構想し工夫している	・主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている ・互評会で得た改善点について、より良い表現の実現に向け、粘り強く取り組んでいる
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜４学年　体育　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）

目標
体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞　知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度 ＜評価の方法と材料＞　出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・オリエンテーション ・体つくり運動 ・体育理論 （スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展） ・ハンドボール ・バレーボール ・水泳	24	（体つくり運動），体を動かす楽しさや心地よさを味わい，運動を継続する意義，体の構造，運動の原則などを理解するとともに，健康の保持増進や体力の向上を目指し，目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。 （陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，各種目特有の技能を身に付けることができる。 （水泳）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，効率的に泳ぐことができる。 （球技）勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動	（体つくり運動）自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （陸上競技、水泳、）自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えている。 （球技）攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝えている。	（体つくり運動）体つくり運動に自主的に取り組むとともに，互いに助け合い教え合おうとすること，一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること，話合いに貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保している。 （陸上競技、水泳）自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保している。 （球技）球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，作戦などについての話合いに貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレ
2	9 10 11 12	・水泳 ・陸上競技 （短距離走、リレー） ・体育理論 （スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展） ・バスケットボール ・サッカー	28			

3	1 ・バドミントン 2 3	・陸上競技（長距離）	18	観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 （球技：ゴール型）安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 （球技：ネット型）役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を行うことができる。 （体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。		イなどを大切にしようとすること，互いに助け合い教え合おうとすることなどや，健康・安全を確保している。 （体育理論）スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，自主的に取り組んでいる。
		年間授業時数	70			

令和６年度　＜４学年　保健　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	図説現代高等保健（大修館）

目標
保健の見方・考え方を働かせ，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞　知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度 ＜評価の方法と材料＞　定期考査、出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7 	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養、睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	12	・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを言ったり書き出したりしている。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを言ったり書き出したりしている。	・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。 ・生活習慣病やがんなどの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	・現代社会と健康、安全な社会生活について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 ・生活習慣病、運動、食事、休養、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	9 10 11 12	・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症、エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	14	精神疾患の予防と回復には運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに感染症の発生や流行には，時代や地域によって違いがみられることを言ったり、書き出したりしている。	・精神疾患の予防と回復について，習得した知識を基に、心身の健康を保ち不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。	・精神疾患の予防と回復や感染症について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
3	1 2 3	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	9	・安全な社会づくりには環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であることを言ったり書き出したりしている。 ・応急手当は正しい手順や方法があることを理解し心肺蘇生法などの応急手当の技能を身に付けている。	・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避方法を考え、それらを表現している。	・現代社会と健康、安全な社会生活について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。
年間授業時数			35			

令和６年度　＜５学年　体育　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップスポーツ（大修館）

目標
体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞　知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度 ＜評価の方法と材料＞　出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・オリエンテーション ・体つくり運動 ・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方） ・サッカー ・バドミントン ・ハンドボール ・水泳	24	（体つくり運動）体を動かす楽しさや心地よさを味わい，体つくり運動の行い方，体力の構成要素，実生活への取り入れ方などを理解するとともに，自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て，実生活に役立てることができる。 （水泳）記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解するとともに，自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。 （陸上競技）記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，各種目特有の技	（体つくり運動）生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （水泳）生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 （球技）生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 （体育理論）運動やスポーツの	（体つくり運動）体つくり運動に主体的に取り組むとともに，互いに助け合い高め合おうとすること，一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保している。 （水泳）水泳に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保している。 （球技）主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に
2	9 10 11 12	・水泳 ・陸上競技 （短距離走、リレー） ・バレーボール ・ソフトボール ・テニス ・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）	28			

3	1 2 3	・テニス ・卓球 ・バスケットボール	18	能を身に付けることができる。 （球技）勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい，技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解するとともに，作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 （球技：ゴール型）状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 （球技：ネット型）状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 （球技：ベースボール型）状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 （体育理論）運動やスポーツの効果的な学習の仕方について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	効果的な学習の仕方について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝えている。	貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保している。 （体育理論）運動やスポーツの効果的な学習の仕方について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，主体的に取り組んでいる。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜５学年　保健　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	図説現代高等保健（大修館）

目標
保健の見方・考え方を働かせ，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を養う。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞　知識技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度を総合的に評価する。 ＜評価の方法と材料＞　出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康	12	・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを言ったり書き出したりしている	・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。生涯を通じる健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。思春期と健康，結婚生活と健康、加齢と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2	9 10 11 12	・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康に関わる対策 ・ごみ処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生に関わる活動	14	・労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたこと、労働災害を防止するには，過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であること、環境や食品について、理解したことを言ったり書いたりしている。	・労働災害と健康について、健康管理や安全管理に関わる取組を整理し、個人生活や社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している。労働災害と健康について、習得した知識を基に労働災害の防止に向けて，個人の取組と社会的対策を整理しているとともに、筋道を立てて説明している。	・労働災害と健康、働く人の健康の保持増進、環境、食品の安全性について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
3	1 2 3	・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参画	9	・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。健康を支える環境づくりについて課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
		年間授業時数	35			

令和６年度　＜６学年　体育　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用補助教材	ステップアップ高校スポーツ（大修館）

目標
運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる。

評価の観点と方法・材料
＜評価の観点＞　技能、態度、知識、思考・判断
＜評価の方法と材料＞　出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	・体つくり運動 ・体育理論 ・水泳 ・種目選択（下記から３種目選択）バスケ・テニス・ニュースポ・バレー・サッカー・ハンド・ソフト バドミントン	36	・運動や健康・安全についての知識を身につけ、理解している。 ・運動の特性と合理的な運動の仕方を理解し、知識として身に付け生涯の豊かなスポーツライフの実践につなげることができる。	・既習の知識や技能を活用し、運動を継続していくために必要な課題を改善し、生涯スポーツの実践につなげることができる。	・主体的に活動する態度を身に付けることがきる。 ・ルールやマナーを大切にし、公正・協力への意志を持てる。 ・生涯にわたり、豊かなスポーツライフを継続するために、技能をさらに向上させ、新たな技術を習得し、攻防や動きの様相を高め、記録や技に挑戦することができる。
2	9 10 11 12	・陸上競技 ・種目選択（下記から３種目選択）卓球・バドミントン・バスケ・サッカー・ソフト・ニュースポ・フットサル・バレー	39	・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい，技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解するとともに，作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。	・主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。
3	1 2 3	・種目選択（下記から３種目選択） テニス・バスケ・ニュースポーツ バドミントン・サッカー・ソフト 卓球・バレー	30	・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい，技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解するとともに，作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。	・主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。
年間授業時数						

令和６年度　＜４学年　情報Ⅰ　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	日本文教出版　情報Ⅰ
使用補助教材	情報 最新トピック集 2024 高校版・Ｐスタディ・ 進研 WINSTEP 情報Ⅰ

目標
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

評価の観点と方法・材料
【評価の観点】 （知識・技能）効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。 （思考・判断・表現）事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 （主体的に学習に取り組む態度）情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。 【評価の方法・材料】授業に取り組む姿勢や小テスト・課題、提出物、定期考査等を評価材料とし総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	第１章第１節 なぜ情報について学ぶのか (1)情報について学ぶ意義 (2)問題を発見，解決していくために		・情報について学ぶ意義を理解している。	・問題解決に役立つ情報や情報技術の利用例を考えることができる。	・社会における問題解決と情報について学ぶ意義を関連づけて考えようとしている。
		第２節 「情報Ⅰ」で学ぶこと） (1)情報社会の問題解決 (2)コミュニケーションと情報デザイン (3)コンピュータとプログラミング (4)情報通信ネットワークとデータの活用		・「情報Ⅰ」で学ぶ内容を理解している。 ・「情報社会の問題解決」の考え方が，「コミュニケーションと情報デザイン」,「コンピュータとプログラミング」,「情報通信ネットワークとデータの活用」の学習に生かされることを理解している。	・社会の状況を踏まえて，各学習テーマに対応した問題の例を考えることができる。	・「情報Ⅰ」で学ぶ学習内容と社会における問題解決を関連づけて捉えようとしている。
		第３節 学習の前に確認 (1)情報の技術 (2)情報セキュリティと情報モラル		・コンピュータの基本的な扱い，情報セキュリティ，情報モラルに関する既習事項について理解している。 ・基礎的なセキュリティ対策ができる技能を身につけている。	・教科書のチェックリストを利用して，既習事項に対する到達度を自己評価できる。 ・現在の自分の知識や技能のうち不足しているところを補う方法を考えることができる。	・既習事項の到達度を踏まえて，すべての項目において自信が持てるようになろうとしている。
		第２章第１節 情報の特性 (1)情報とは (2)情報の特性		・メディアの３つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。 ・メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理	・情報の特性を観点に分けて考えることができる。 ・具体的な特性を理由とともに説明できる。	・情報の特性が果たす意義や，留意点に気づき，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。

				解している。		
		第２節 メディアの特性 (1)メディアの特性 (2)メディアの受け取り方とメディア・リテラシー		・メディアの３つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。 ・メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。	・目的や状況に応じて，適切なメディアを選択することができる。 ・理由とともにメディアの捉え方を説明することができる。	・メディアの特性が果たす意義や，留意点に気づき，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。
		第３節 問題解決の考え方 (1)問題解決とは (2)問題の明確化 (3)問題解決の流れと評価・改善		・問題解決の流れについて理解している。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。	・目的や状況に応じて，情報を適切に活用して問題を発見し，解決のためのアイデアについて考えることができる。	・情報社会における問題の発見・解決に，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また，自己調整しながら，解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。
	5	(4)よい問題解決とは 第４節 法の重要性と意義―著作権 法の重要性と意義―著作権 (1)知的財産権 (2)産業財産権 (3)著作権 (4)著作物 (5)著作者が持つ権利 (6)著作隣接権 (7)著作物の保護と活用		・知的財産権，産業財産権，著作権について理解している。 ・著作物と著作権について理解している。 ・著作権者の権利を守りながら著作物を利用するための方法について理解している。 ・個人情報について理解している。	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義，情報社会において個人の果たす役割や責任，情報モラルなどについて，それらの背景を科学的に捉え，考えることができる。 ・情報に関する法規や制度及びマナーの意義，情報社会において個人の果たす役割や責任，情報モラルなどについて，それらの背景を科学的に捉え，考えることができる。 ・目的や状況に応じて，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。	・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。
		第５節 法の重要性と意義―個人情報 (1)個人情報保護法		・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。 ・個人情報の保護に関する法律について理解している。	・情報に関する法規や制度の重要性，情報社会における個人の責任及び情報モラルについて，それらの背景を科学的に捉え，考えることができる。 ・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。	・情報社会における問題の発見・解決に，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また，自己調整しながら，解決する過程や解決案を自ら評価し改善しようとしている。 ・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。
		第６節 情報社会と情報セキュリティ サイバー犯罪について考え		・サイバー犯罪の分類について理解している。 ・情報セキュリティの確保の重要性について理解している。 ・情報通信技術を悪用したさまざまな犯罪について理解して	・情報に関する法規や制度及びマナーの意義，情報社会において個人の果たす役割や責任，情報モラルなどについて，それらの背景を科学的に捉え，考えることができる。	・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。

		る		いる。		
		第７節 情報技術の発展による生活の変化 (1)ソーシャルメディアとわたしたち (2)ソーシャルメディアの望ましい利用		・ソーシャルメディアがわたしたちの生活に与える影響について理解している。 ・ソーシャルメディアの利用にあたってわたしたちが果たすべき役割について理解している。 ・情報技術の発展による社会の変化について理解している。 ・情報社会が抱える問題と，それらの問題を解決していくことの重要性について理解している。	・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。 ・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。	・情報社会の問題解決を通して，望ましい情報社会の構築に寄与しようとしている。
		第８節 情報技術の発展による社会の変化 (1)Society 5.0 の到来 (2)情報社会の未来と問題解決		・情報技術の発展による社会の変化について理解している。 ・情報社会が抱える問題と，それらの問題を解決していくことの重要性について理解している。	・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えることができる。	・情報社会の問題解決を通して，望ましい情報社会の構築に寄与しようとしている。
		第８節 情報技術の発展による社会の変化 （１）Society 5.0 の到来 （２）情報社会の未来と問題解決		・コミュニケーションの手段の発達について理解している。 ・メディアの発達により生じる課題の原因を理解している。 ・メディア・リテラシーの必要性について理解している。	・メディアが発達したことにより，便利になったことと課題について考えることができる。	・情報社会の問題解決を通して，望ましい情報社会の構築に寄与しようとしている。 ・メディアの種類を振り返り，自らの学習を調整しょうとしている。
	6	第１節 メディアとコミュニケーション １　コミュニケーションとメディアの活用 （１）メディアとコミュニケーションの変遷 （２）メディアの活用で生じる課題 （３）メディアを活用して問題を解決するために ２　コミュニケーション手段の特性 （１）コミュニケーションの形態 （２）インターネット上でのコミュニケーションの特性 （３）伝達可能な表現 （４）適切なメディアの使い分け		・コミュニケーションの形態について理解している。 ・インターネットの特性について理解している。 ・メディアによって伝えることができる表現の種類が異なることを理解している。 ・パケット通信技術について理解している。 ・ブロードバンド，携帯電話網の無線通信技術の発展について理解している。 ・インターネットが普及したことにより情報格差が生まれた	・インターネットの特性を踏まえ，情報発信時に誹謗中傷や人権に配慮できているかを判断できる。 ・情報の信憑性を判断し，内容が正しいか見極めることができる。 ・目的に応じたメディアの選択ができる。 ・通信が高速化したことにより，どのようなことができるようになったか考えることがで	・メディアが発達したことにより，生じた課題について主体的に考えようとしている。 ・普段使っているコミュニケーションの手段について，その特性を積極的に考えようとしている。 ・実際に起こった事例を積極的に調べ，考えを深めようとしている。

		3　インターネットの発展 （1）情報社会を支える技術の発展 （2）ARPANET の開発 （3）インターネットの登場 （4）ブロードバンドの普及 （5）インターネットと情報格差 4　情報機器のパーソナル化とソーシャルメディア （1）情報機器のパーソナル化 （2）ソーシャルメディア		ことについて理解している。 ・ソーシャルメディアのしくみについて理解している。 ・公開範囲の設定を限定公開に変更する方法について理解している。 ・無料でサービスを利用できる理由について理解している。 ・アナログとデジタルの違いについて理解している。 ・２進法・10 進法・16 進法の相互変換について理解している。	きる。 ・情報格差の問題点について考えることができる。 ・自分の発信する情報がどこまで影響があるかを考え，適切に発信することができる。	・5G が普及することで実現されるサービスの調査に粘り強く取り組み，考えを深めようとしている。 ・情報格差の問題点，解消するアイデアについて考えようとしている。 ・スマートフォンなどの利用について考え，理解を深めようとしている。 ・ソーシャルメディアの公開設定を確認し，理解しようとしている。
	7	第２節 情報のデジタル化 1　コンピュータとデジタルデータ （1）アナログとデジタル （2）コンピュータとデジタル （3）コンピュータで用いられる数の表現 2　文字のデジタル表現 （1）文字コード （2）さまざまな文字コード体系と Unicode （3）文字の表示と印刷 3　データの圧縮 （1）データ圧縮と圧縮率 （2）可逆圧縮の利用 （3）可逆圧縮のしくみ 4　音のデジタル化 （1）音のデジタル化 （2）サンプリング周波数と量子化ビット数 （3）音声データのファイル形式 5　画像のデジタル化 （1）画像のデジタル化 （2）解像度と色の表現 （3）ビットマップ画像のデータ量 （4）画像処理ソフトウェア		・文字コードのエンコーディングについて理解している。 ・ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いを理解している。 ・ランレングス圧縮とハフマンの符号化の圧縮について理解している。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮について理解している。 ・音のデジタル化のＡ／Ｄ変換について理解している。 ・画像のデジタル化のＡ／Ｄ変換について理解している。 ・動画のデジタル化のしくみを理解している。	・アナログとデジタルのそれぞれの利点と欠点について考えることができる。 ・ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いについて考えることができる。 ・自分でつくったデータを圧縮し，他者がつくった圧縮データを展開することができる。 ・サンプリング周波数や量子化ビット数が変化すると，音がどうなるか説明することができる。 ・解像度を変えると，何がどのように変わったか説明することができる。	・身近なアナログとデジタルのデータを扱っているものを積極的に探し，理解を深めようとしている。 ・文字のエンコーディングやデコーディングについて，興味を持って課題に取り組もうとしている。 ・圧縮と展開の活動に積極的に取り組み，理解しようとしている。 ・自分のコンピュータやスマートフォンに入っている音を積極的に探し理解を深めようとしている。 ・ディスプレイがどのようなしくみで画像を表示しているか，積極的に調べようとしている。

		（５）画像データのファイル形式 ６　動画のデジタル化 （１）動画のしくみ （２）動画のデジタル化と圧縮 （３）動画の圧縮技術と動画データのファイル形式 ７　情報のデジタル化とデータ量 （１）音のデータ量 （２）画像のデータ量 （３）動画のデータ量 第３節 情報デザイン １　情報デザインとは （１）情報デザインとは （２）情報デザインで使われる手法 ２　情報デザインのプロセスと問題の発見 （１）情報デザインの作業手順 （２）デザイン対象の発見 ３　デザインの要件と設計・試作 （１）解決策の立案 （２）試作 ４　評価と改善・運用 （１）評価 （２）改善・運用		・音，画像，動画のデータ量を求める計算について理解している。 ・情報デザインの意味について理解している。 ・情報デザインの作業手順について理解している。 ・問題発見の重要性を理解している。 ・デザインの要件に必要な事項を理解している。 ・試作を作成するためのソフトウェア操作の技能を身につけている。 ・評価の手法の種類や得られる情報について理解している。	・フレーム内圧縮とフレーム間圧縮のデータ量の違いを説明することができる。 ・フレームレートが増えると見え方がどう変わるか説明できる。 ・これまで学んだデジタル化や圧縮のしくみを説明できる。 ・音，画像，動画のデータの特性に応じた適切な計算式を判断できる。 ・アートと情報デザインの違いを考えることができる。 ・情報デザインの考えをもとに伝えたい情報を表現することができる。 ・身近な問題を考え，表現することができる。 ・情報デザインにより解決できそうな問題を選ぶことができる。 ・メディアにあった表現を考えることができる。 ・要件に基づいてラフ・試作品を表現できる。 ・適切な評価の手法を選択できる。 ・評価の結果から，試作品の改善点を考えることができる。 ・改善点を実際のデザインとして表現できる。	・撮影した写真を連続して表示し，その内容から動画のしくみを理解しようとしている。 ・データを求める計算に積極的に取り組み，理解を深めようとしている。 ・情報デザインの力で問題解決に取り組もうとしている。 ・グループの話し合いに積極的に関与しようとしている。 ・問題を自分事として考えようとしている。 ・要件の定義を話し合う活動に積極的に関与しようとしている。 ・ラフをつくるときに，積極的にアイディアを出し，他者の意見を尊重しながら問題を解決しようとしている。 ・評価，改善の取り組みの重要性を理解し，より良いものをつくろうとしている。 ・実際の運用に積極的に関わろうとしている。

2	9	第１節 コンピュータのしくみ １　コンピュータの基本的な構成 （１）コンピュータの構成要素 （２）コンピュータ内部の動作のしくみ （３）コンピュータと周辺機器の接続		・コンピュータの構成要素やデータの制御・データの流れを理解している。	・コンピュータを構成する各装置とデータの流れと制御の流れを表現し，説明することができる。 ・ハードウェアの３つの要素がどのような働きをするか説明できる。	・スマートフォンの内部をインターネットで調べる活動や，インタフェースを確認する活動に積極的に取り組もうとしている。
		２　ソフトウェアと OS （１）ソフトウェアの種類 （２）OS のおもな役割，機能		・ソフトウェアの種類と，OS の役割について理解している。	・OS の役割について，イラストを描き，説明することができる。 ・GUI と CUI の操作を通して，それぞれのメリットとデメリットを説明できる。	・OS の種類を探す活動に積極的に取り組もうとしている。
		３　CPU とメモリ （１）CPU の構成と動作のしくみ （２）メインメモリ （３）CPU のビット数とメインメモリのアドレス （４）処理の高速化の工夫		・CPU のしくみとその役割について理解している。 ・メインメモリの役割について理解している。	・コンピュータやスマートフォンの製品ページを見て，ハードウェアの比較ができる。 ・より良い性能の製品を選ぶことができる。	・コンピュータのスペックを調べる課題に積極的に取り組もうとしている。
		４ CPU による演算のしくみ （１）CPU と論理回路 （２）加算の回路		・各論理回路のしくみについて理解している。 ・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成する技能を身につけている。	・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成できる。	・自ら真理値表を考え作成しようとしている。
		５　２進法による計算 （１）データ（数）の扱い （２）浮動小数点数 （３）計算の誤差		・２進法の表現方法について理解している。 ・２の補数の考え方について理解している。 ・浮動小数点数の考え方について理解している。	・２の補数を表現できる。 ・浮動小数点数を表現できる。 ・どのような場合に誤差が生じるか考えることができる。	・理解を深めるために，２進法のさまざまな計算に積極的に取り組もうとしている。
	10	第２節 アルゴリズムとプログラム １　アルゴリズム （１）アルゴリズム （２）アルゴリズムの効率性 ２　アルゴリズムの基本と表現方法 （１）アルゴリズムの基本構造 （２）アルゴリズムの表現方法 ３　プログラムの構成要素 ①		・アルゴリズムの意味やプログラムとの関係を理解している。 ・アルゴリズムの効率性の意味を理解している。 ・アルゴリズムの基本構造について理解している。 ・アルゴリズムを表現する図や表について理解している。 ・プログラムの構成要素である変数，データ型，演算の意味や	・簡単な事例について，コンピュータに処理させる手順を文章化できる。 ・ある処理について，複数のアルゴリズムを考え，効率の高いものを判断できる。 ・基本構造を組み合わせて，アルゴリズムを構造化することができる。 ・アルゴリズムを図や表で表現し，アルゴリズムを可視化できる。 ・演算例をもとにして，プログ	・身のまわりにあるコンピュータで処理できるような事例を自ら考え，理解を深めようとしている。 ・処理対象を自分で考え，アルゴリズムを構造化，可視化しようとしている。

		（1）プログラムとは （2）プログラムの構成要素 ・変数・データ型・演算 4　プログラムの構成要素② ・関数・ライブラリ・API 5　データの扱い （1）プログラムとデータ （2）データ構造 （3）配列 6　アプリケーションの開発① 例題		種類を理解している。 ・プログラムの構成要素である関数，ライブラリ，API について理解している。 ・プログラムとデータの関係について理解している。 ・データ構造，配列について理解している。 ・プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。	ラミングの構成要素について考え，正しい結果を出力することができる。 ・関数，ライブラリ，API の具体例から効果的な利用法を考えることができる。 ・プログラムの中のデータ（配列）を表現したり，自分でアレンジしたりすることができる。 ・プログラムをフローチャートで表現することができる。	・対象を自分で考え，既存のプログラムを改良することで，プログラミングの理解を深めようとしている。 ・学んだ知識をもとにして，具体的な事例を自分で探し，問題を解決しようとしている。 ・身近な問題の解決にプログラムを積極的に活用しようとしている。 ・プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。
	11	8　アプリケーションの開発② 例題２ ・データの入れ替え法 第３節 モデル化とシミュレーション 1　モデルとは （1）モデルとモデル化 （2）モデルの分類 （3）図的モデル （4）数式モデル 2　モデル化とシミュレーション （1）モデル化とシミュレーション （2）モデル化の手順 （3）シミュレーションの手順 3　コンピュータを利用したシミュレーション① （1）売り上げのシミュレーション （2）モデル化 （3）シミュレーション		・乱数について理解している。 ・データの入れ替え方法について理解している。 ・データの並べ替え方法について理解している。 ・ユーザ定義関数について理解している。 ・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法について理解している。 ・モデル化とシミュレーションの手順について理解している。 ・モデル化とシミュレーションの手順について理解し，モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。	・プログラムの中身を理解し，目的に応じて自分でアレンジすることができる。 ・プログラムの中身を理解し，目的に応じて自分でアレンジすることができる。 ・問題解決の場面に応じて，適切なモデルを選択し表現することができる。 ・目的に応じたモデルを表現することができる。 ・プログラムによるシミュレーションのメリットとデメリットについて説明することができる。 ・プログラムを用いて，目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い，その過程	・プログラムの結果をもとに試行錯誤しながら改善しようとしている。 ・プログラムの過程・結果を粘り強く評価，改善し，理解を深めようとしている。 ・身近な問題を解決するためのモデル化に，積極的に取り組もうとしている。 ・問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。 ・シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。

				の手順について理解し，モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。	を評価し改善することができる。	
		4　コンピュータを利用したシミュレーション② （1）待ち行列 （2）モデル化 （3）シミュレーション		・シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。	・プログラムを用いて，目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行い，その過程を評価し改善することができる。	・シミュレーションの結果をもとに試行錯誤しながら粘り強く評価し改善しようとしている。
		章末実習 感染モデルのシミュレーション			・身のまわりの事象をモデルとして表現することができる。 ・モデルをプログラムで表現し，シミュレーションを行うことができる。	・シミュレーションの結果をもとに，モデルを修正する改善を繰り返し，より良い検証結果を得ようとしている。
		第1節 情報通信ネットワークのしくみ		・機器同士を情報通信ネットワークで接続するしくみを理解している。		
	12	1　コンピュータネットワーク （1）情報通信ネットワークとは （2）コンピュータネットワークの分類 （3）コンピュータネットワークの構成要素		・情報通信ネットワークを構成する要素とその役割を理解している。 ・無線 LAN と有線 LAN の接続形態について理解している。	・目的や状況に応じて，情報通信ネットワークにおける構成要素を選択することができる。 ・有線 LAN と無線 LAN を状況によって使い分け，小規模なネットワークを設計することができる。	・情報通信ネットワークに興味を持ち，主体的に活用しようとしている。
		2　ネットワークの接続 （1）コンピュータネットワークの接続形態		・情報通信におけるプロトコルの重要性やしくみについて理解している。	・コンピュータネットワークでどのように情報がやり取りされているか説明することができる。	・情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用しようとしている。
		3　プロトコループロトコルと IP （1）プロトコル （2）TCP/IP における通信の流れ （3）IP の役割 （4）IP アドレス		・パケット通信のしくみについて理解している。 ・IP の役割と IP アドレスについて理解している。 ・TCP と UDP，HTTP の役割について理解している。 ・ドメイン名と DNS，電子メールのプロトコルについて理解している。	・URL やメールアドレスを見ただけで，どのような組織なのか判断できる。	・情報の科学的な見方・考え方を働かせて，情報通信ネットワークのしくみを理解しようとしている。
		4　プロトコルーデータ転送のしくみ （1）TCP と UDP の役割 （2）HTTP の役割 （3）ドメイン名と DNS （4）電子メールのプロトコル			・HTTP を用いた Web ブラウザと Web サーバのやり取りを説明できる。 ・電子メールでメッセージをやり取りするしくみを説明できる。	・情報通信ネットワークを使うときに，目的や方法に応じて使用されているプロトコルやドメイン名を理解しながら活用しようとしている。
		5　情報セキュリティの確保と対策 （1）情報セキュリティに求		・情報セキュリティに求められる 3 つの要素について理解している。 ・認証技術，OS やアプリのアップデートの必要性を理解し，適切に使用・実行する技能を身	・認証技術のしくみを知り，適切な使用を判断できる。 ・ファイアウォールにおけるパケットフィルタリングの機能	・パソコンやスマートフォンの

		められる３つの要素 （２）認証技術 （３）ファイアウォール （４）OS やアプリケーションソフトウェアの更新 （５）ウイルス対策ソフトウェア		につけている。	について説明できる。	OS やアプリを最新の状態に保ち，安全に使用しようとしている。
3	1	６　暗号化のしくみ （１）情報の暗号化 （２）共通鍵暗号方式 （３）公開鍵暗号方式 ７　暗号化と認証技術 （１）電子署名 （２）無線 LAN のセキュリティ技術 （３）SSL/TLS 第２節 情報システムとデータベース １　情報システム （１）情報システムとは （２）さまざまな情報システム ２　情報システムにおけるデータベース （１）情報システムとデータベース （２）情報システムにおけるデータの流れ （３）データの分析と活用 ３　データベース管理システムとデータモデル （１）データベース管理システムとは （２）データモデル （３）さまざまなデータベース管理システム		・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について理解している。 ・デジタル署名やデジタル証明書，通信されるデータを暗号化するプロトコルのしくみとその必要性について理解している。 ・身のまわりにある情報システムについて理解している。 ・データベースについて理解している。 ・情報システムとデータベースの関係について理解している。 ・データがどのように活用されているか理解している。 ・DBMS の役割とその必要性について理解している。 ・NoSQL について理解している。 ・データ分析の手順について理	・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いや，それぞれのしくみを説明することができる。 ・公衆無線 LAN や Web ブラウザの危険を予測でき，安全・安心に利用する，場合によっては利用しない選択ができる。 ・情報システムを構成する技術が各種分野でも利用されていることが考えられる。 ・未来の情報システムについて具体的にイメージできる。 ・各情報システムから得られる情報について調査し，どのような分野に応用されるか考えることができる。 ・調査内容を発表できる。 ・データモデルの違いを考え，データモデルの種類に応じて設計できる。 ・DBMS の種類について長所・短所を整理することができる。 ・非構造化データが実際に利用されている例を説明することができる。 ・データ収集方法によるメリッ	・情報セキュリティの科学的な理解に努め，情報通信ネットワークを適切に活用しようとしている。 ・情報セキュリティに配慮して，情報社会に主体的に参画しようとしている。 ・現状，活用している情報システムを知ることで，普段気づいていない情報システムについても主体的に調べようとしている。 ・未来の情報システムを想像しようとしている。 ・POS システムなどの情報システムで収集されるデータにはどのようなものがあるかを，主体的に調べようとしている。 ・情報システムで DBMS が利用されている活用例を主体的に調べ，理解を深めようとしている。

				解している。	ト，デメリットを判断し，適切	
	2	第３節 データの活用 １　データの収集と整理 （１）データの活用 （２）データ分析の流れ （３）データの収集 （４）データの整理		・データの収集についてさまざまな方法があることを理解している。	な方法で実習のためのデータ収集ができる。 ・データ分析に必要なオープンデータをインターネットから取得し，データ分析が行いやすいようデータの整理ができる。 ・身のまわりのデータを分類することができる。	・データの収集や整理に粘り強く取り組み，試行錯誤を通じて改善しようとしている。
		２　数値データの分析 （１）数値データ （２）時系列で分析する （３）度数分布で分析する （４）割合で分析する （５）２つのデータの関係性を分析する		・量的データ，質的データの違いについて理解している。 ・数値データの分析手法について理解している。 ・テキストデータの処理方法について理解している。	・表計算ソフトウェアを利用して数値データの分析・表現することができる。 ・適切な処理結果を得るため，どのようにデータクレンジングすればよいか考えることができる。	・数値データの分析は身のまわりのどのような場面で活用されているか，観察しようとしている。 ・因果関係や相関関係のあるデータに注目し，そのような関係性がなぜ導き出されるのか考えようとしている。
		３　テキストデータの分析 （１）テキストデータ （２）テキストマイニングによる分析 （３）自由記述の分類と集計		・Web サービスを利用しないテキストデータを分析する方法について理解している。 ・オープンデータを取得し，データ分析しやすいよう加工する技能を身につけている。	・テキストマイニングの結果からデータの特徴を抽出できる。 ・データ分析の結果から読み取れる情報を判断できる。 ・解決策を発表し合い，お互いの意見を盛り込んだ内容に改善できる。	・実際のテキストデータから特徴を抽出しようと試行錯誤し，改善しようとしている。
	3	章末実習 地域の問題を解決する				・地域の問題にはどのようなものがあるか現状を分析しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜　６学年　選択　表現メディアの編集と表現　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	実教出版株式会社 「表現メディアの編集と表現」
使用補助教材	―

目標
・コンピュータによる表現メディアの編集と表現に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
授業は演習を中心に行い映像作品を複数作成する。 作品制作を中心に授業を行うため、情報分野における興味・関心意欲・態度、成果物などをもとに評価を行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4 5 6 7	・オリエンテーション ・表現メディアの種類と特性 ・「文字」「図形」 ・表現メディアの種類と特性 ・「静止画」「音」「動画」 ・コンピュータグラフィックスの編集	26	・様々な表現メディアの種類や特性及びディジタル化に関する基礎的な知識が理解できたか。 ・Web での様々な表現メディアの種類や特性及びディジタル化に関する基礎的な知識が理解できたか。 ・写真やイラストレーションなどを取り扱いそれぞれの特性を理解できる。 ・スキャナやタブレットなどのディジタル機器を活用して、素材を取り込める技能を身につける。 ・静止画の仕組みを理解し、色相・彩度・明度・カラーモード、色調や露出の補正などを理解し、適切に静止画を編集できる。
2	9 10 11 12	・映像の編集 ・映像による表現 ・コンピュータにおける音・音楽の編集 ・コンピュータにおける音・音楽の表現	28	・これまでの知識と技術を用いて、適切にハードウェアとソフトウェアを活用し、映像を編集することができる。 ・タイムライン上でのカット編集や、トランジションの編集、エフェクトの概念などを理解し、適用できるようにする。 ・企画の立案からシナリオ及び絵コンテの作成、撮影、映像の編集などを行うことができる。 ・コンピュータで扱う音源を扱えるようになる。 ・アプリケーションソフトを活用して、音の取り込み、編集が行えるようになる。 ・ナレーションや効果音、音楽などを取り扱い、映像に対して適切な効果音や演出効果を施すことができる。
3	1 2 3	・Web コンテンツによる情報表現 ・コンテンツにおける情報の視覚化 ・制作プロセスと企画	16	・インターネットにおける Web コンテンツを理解し、情報をどのように表現するかを理解する。 ・Web コンテンツを表現するための技能を習得し、作品を視覚化することができる。 ・映像作品を制作する場合の制作の流れを理解し、知的財産権を保護することができる知識と技能を習得させる
年間授業時数			70	

令和６年度　＜後期５学年　家庭基礎　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	Agenda　家庭基礎
使用補助教材	LIFE おとなガイドデジタル＋

目標
生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

評価の観点と方法・材料
基本的な知識を身につけ、課題に対する思考力や表現力が養われているかを定期考査やレポート、ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動、グループでの話し合い、発表等などを通して評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	生活設計	2		・個人の生き方や性のあり方など多様性の尊重について理解している	・自らのこれまでの生き方を探ったうえで、主体的な生活設計の検討ができる。
		1章　自分・家族　多様化した社会に生きる	4	・青年期の意味と自立への課題について理解し今後の人生選択に関係する基礎的・基本的な知識を身につけている。		
		1これからをどう生きるか			・家族法の内容と今後の課題について理解したうえで、多様な生き方を尊重し、男女が協力して社会を築くという考え方を身につけている。	・自立の意味を理解しており、青年期の課題としてとらえ、現在の自分の課題をみいだすことができる。
		2青年期の自立	4			
	5	3社会の変化と家族	4	・多様な生き方・パートナーシップの保障、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた家事・職業のあり方などについて理解し、ライフスタイルをめぐる問題やワークルールなどについての基礎的・基本的な知識を身につけている。		
		4家族・人生・生き方と法律			・理想の生き方やパートナーシップのあり方について、現在の社会的な問題や多様性の尊重なども理解したうえで、将来の生活を想定した生活設計にいかすことができる。	
		5多様な課題を抱える家				
	6	族・家庭	4			
		7多様な生き方を保証する				
	7	社会へ	4			・家庭科の学習で学んできたことを活かし、課題解決のための過程を組み立てることができるまたそれを発表することができる。
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	4			
2	9	8章　消費・環境　消費社会を生きる	2	・自らの消費行動のなかでの問題点や家計管理のポイントを、社会や環境との関わりも含めみつけることができる。	・家計の管理、家庭経済と国民経済の関わりについて基礎的・基本的な知識を身につけている。	・問題解決のために、情報の選択・発信や購入の選択など自ら主体的に判断し意思決定する力を身につけている。
		1お金の管理とライフデザイン	4			
	10	2暮らしと経済のかかわり	4			
		3意思決定と契約		・契約の原理と消費者信用の内容を理解しており、支払い方法の適切な判断ができる。	・消費生活の問題と課題を見出し、その解決をめざして考えを深めている。	
			4			
		4購入方法の多様化				・消費をめぐるトラブルに直面した場合の解決方法や手段を身につけている。
		5消費者問題		・大量消費社会の諸課題について理解し、持続可能な社会の実現をめざして考えを深めている。	・自らの生活や消費行動のなかでの問題点や課題を、環境との関わりでみつけることができる。	・自らの生活や消費行動の環境への影響に関心をもち、持続可能な社会の実現に向けて主体的で責任ある行動をとろうとする。
	11	6消費者保護	4			
		7持続可能な社会をめざし				
	12	3章　高齢者−高齢者と生きる	4	・高齢者の心身・生活の特徴や高齢社会の現状，福祉制度などを理解し，それらについての基礎的・基本的知識が身についている。		
		2共生社会の実現に向けて	4			
3	1	5章　食生活　楽しく安全に食べる	4	・食品の表示に関する基本的な知識を身につけている。	・自らの食生活について、栄養，環境、食品の選択、経済性などの視点から，問題点・課題と解決の方向性をみいだすことができる。	・食生活や食物・食品に関心をもち、自らの食生活について、健康を維持するだけでなく、精神的な豊かさを向上させる意味もあわせ持つことを理解し、そのための知識や技術の習得、改善のための考察や行動に意欲的に取り組もうとする。
			2	・安全性，環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている。		
	2	7豊かな食生活の背景には	4		・安全性、環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている。	
		8食事をつくる				
			4	・自らの食生活について，栄養、環境、食品の選択、経済性などの視点から、問題点・課題と解決の方向性をみいだすことができる。		・調理実習において，調理のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、献立を考え、食品を選び、調理をするなどの行動ができる。
	3		4			
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期４学年　英語コミュニケーションⅠ　＞　年間指導計画

単位数	３単位
使用教科書	ELEMENT1(啓林館)
使用補助教材	・ELEMENT ワークブック アドバンスト ・英単語 Stock4500 定着ノート Vol.1~3 ・Focus on Listening　Standard ・英語総合問題集 SPRINT3 ・SKYWARD 3rd Edition OCEAN ・Cutting Edge Green ・New Treasure 3 ・文法問題集３

目標
・積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・英検２級程度の英語を読んだり（WPM 110 程度)、聞いたりして内容を理解することができるようにする。 ・生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。 （紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする） ・さらに、ALT・JET による毎時間の授業や各学期に行うインタビューテスト、レシテーション、スキット、劇などの英語発表、それに向けての練習を通じて、実践的コミュニケーション力を育む。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
〈言語についての知識・理解〉	〈読む力（音読）〉	〈聞く力〉	□粘り強く学習に取り組む態度
□語彙・表現	□Reading（教科書の音読）	□Listening	⇒評価場面
⇒評価場面	⇒評価場面	⇒評価場面	・単語テスト（Stockテスト）
・単語テスト	・授業中の観察・パフォーマンステスト	・Listening Test	・定期考査
（Stock4500テスト）	〈話す力〉(IN/SP)	・定期考査	・提出物
・定期考査	□Speech, Retelling	〈読む力〉	・Debate
□文型・文法	⇒評価場面・ペアワーク	□Reading	・Speech
⇒評価場面	・speech・Debate.	⇒評価場面	□自ら学習を調整しようとする態度
・基本文テスト	〈書く力〉	・単元ごとに確認Q&A　T/F・定期考査	⇒評価場面
・定期考査	□Writing		・レポート
□文化（自国文化・国際理解）	⇒評価場面・スピーチ原稿・Rewriting		・定期考査
・Debate	・定期考査，課題		・提出物
・Speech			

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	New Treasure3 Lesson6 Conveying Messages Through Art ELEMENT 1　Lesson1 Intercultural Relationships	10	［知識］ 関係代名詞の様々な用法 whose, what, 非制限用法 ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取ったり，自己紹介のメールを書く技能を身に付けている	ピカソの人物像やゲルニカが制作された背景を読み取り、補足情報を含めて、物事を詳しく説明する文を書く。	５W1H に沿って、ものごとの歴史的な背景を時系列に沿って説明させる。
	5	New Treasure Lesson7 Understanding Differences	10	［知識］ 前置詞と関係代名詞、関係副詞と省略、非制限用法 ［技能］	異文化間のコミュニケーションや言語の違いを理解し、経験したことについての説明やメールを読み取る	情報をまとめ、伝えたい情報とそれをサポートする具体例を区別し、要約文を完成させる。

		ELEMENT1 Lesson2 Love beyond Species		文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
		New Treasure3 Lesson8	10	［知識］	豊かで持続可能な暮らしを続けるために必要な思考について考えさせ、驚きや感想を伝える英文を正確に書く。	賛成尾・反対の立場を明らかにし、具体的な理由を添えて、主張する
	6	Making Good Choices ELEMENT1 Lesson3 Contributing to Our Planet		接続詞、名詞を導く接続詞詞、形式主語構文 ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
		New Treasure3 Lesson9 Japan and Its International Relations	10	［知識］ 分詞の使い方、分詞構文 さまざまな分詞構文	日本と世界の国々との国際関係について読み、歴史や背景を理解し、自分の考えを伝える英文を書く。	全体の流れと出来事のつながりを意識しながら、どのような順番で何が起こったかを整理し、再構築ができる。
	7	ELEMEMT1 Lesson4 Messages for World Peace		［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
2	8	New Treasure3 Lesson10	10	［知識］	生物の習性や能力について読み、それらを人間社会で活用する方法について考える。	原因と結果の因果関係を明らかにしながら、説得力のある説明をすることができる。
	9	The Power of Nature ELEMENT1 Lesson5 Respecting Each Other		比較級・最上級を用いた様々な表現 ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
		New Treasure3 Lesson11	10	［知識］	建造物や芸術作品が作られた背景や手法について理解し、身の回りにある黄金比について考える。	複数の情報を比べて、共通点や相違点を整理しながら、その特徴を分かりやすく伝えることができる。
	10	Amazing Design and Architecture ELEMENT1 Lesson6 Language and Culture		仮定法過去完了・仮定法未来 ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
		New Treasure3 Lesson12	10	［知識］	海外の古典文学や、過去や未来について伝え合う英文を読み取り、主張や気持ちをより明確に伝えるための様々な表現を活用することができる。	複数の情報から一貫的なことを導くために、それらの情報を比べて、共通点や相違点をまとめ、人の心に響く言葉を伝えることができる。
	11	Appreciating Foreign Literature		様々な強調・強調構文 否定表現・準否定 ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		
		ELEMENT 1 Lesson7 Technology and	7	［知識］ 形式主語、that 節	生活を快適にしているセレンディピティについて知り、どのように起こるのか身近な発明品を通して考える。	自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労について考えることができる。
	12	Discoveries Cutting Edge Green Chapter1 Chapter2	2 2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。		

3	1	ELEMENT 1 Lesson8 Standing Up for Human Rights	7	［知識］ 仮定法過去完了(復習) ［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	南アフリカでアパルトヘイト撤廃後の人種間の緊張を、スポーツを通して国民が団結をしていくことで、スポーツが持つ力について考える。	正義と責任，自他の敬愛と協力を重んずることで団結することを知り、自分の経験したことを相手に伝えることができる。
		Cutting Edge Green Chapter3	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter4	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter5	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
	2	Cutting Edge Green Chapter6	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter7	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter8	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter9	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
	3	Cutting Edge Green Chapter10	2	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
		Cutting Edge Green Chapter11	1	［技能］ 文法 理解をもとに,文章の内容を読み取る。	題材について自分の考えをまとめ、互いの考えを共有できる。	題材を読み取り、要約文を書くことができる。
年間授業時数			105			

令和６年度　＜４学年　論理表現Ⅰ　＞　年間指導計画

単位数	単位
使用教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅰ Advanced
使用補助教材	SKYWARD 総合英語 解体英熟語　改訂版第２版（ブック型） リンケージ英語構文 100

目標

評価の観点と方法・材料

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	＊ NT3 Lesson 8(関係副詞 ＊ NT3 Lesson 9(名詞節 ＊ NT3 Lesson 10(SVOC 特殊な C 分詞 分詞構文)＊ NT3 Lesson 11(仮定法過去 仮定法過去完了 【中間考査】 NT3 Lesson 12 (比較表現 強調構文 特殊な否定) SKYWARD 1,2 /3,4 (文の種類 1)(2)) (文型 1)(2)) ＊Vision Quest Lesson1	6 6 8 4	［知識］ 関係副詞 名詞節 の 形・意味・用法を理解している。 ［技能］ 文法 理解をもとに， 自己 表現をする 技能を身につけている。 ［知識］ SVOC 分詞 分詞構文 仮定法 の形・意味・用法を理解している。 ［技能］ 文法 理解をもとに， 自己表現をする 技能を身につけている。 ［知識］ SVOC 分詞 分詞構文 仮定法 の形・意味・用法を理解している。 ［技能］ 文法 理解をもとに， 自己表現をする 技能を身につけている。	WPM １２０ 程度のスピードで英文を読んで、また聞いて概要・要点を捉えることができる 。 文法理解をもとに、適切な表現を使い １００ 語前後の文を書くことができる。 PM １２０ 程度のスピードで英文を読んで、また聞いて概要・要点を捉えることができる 。 文法理解をもとに、適切な表現を使い １００ 語前後の文を書くことができる。 PM １２０ 程度のスピードで英文を読んで、また聞いて概要・要点を捉えることができる 。 文法理解をもとに、適切な表現を使い １００ 語前後の文を書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 自身の学習について考え、学習の 改善を図ることができる。 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 自身の学習について考え、学習の 改善を図ることができる。 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 自身の学習について考え、学習の 改善を図ることができる。

2	9 10 11 12	*SKYWARD,6 7,8(文型　時制 1,2 ＊Vision Quest Lesson2 Breakfast Makes Perfect(Presentation) Lesson3　Cool Japan Writing *SKYWARD L9,10,時制(4) Vision Quest Lesson4 Save Our Planet Discussion 【中間考査】 *SKYWARD11,12,13,14 助動詞(1)(2) 受動態 1 *Vision Quest Lesson5 Volunteer Work Lesson6 Another Life I Might Have Had(Speech) 【期末考査】 *SKYWARD Further1,23 (動名詞と不定詞 分詞 1)) *Vision Quest Lesson10 Music Without a Pianist(Debate)	6 8 8 4	［知識］ 各文型や時制 の形・意味・用法を理解している。 ［技能］ 文法 理解をもとに,自己表現をする 技能を身につけている。 ［知識］ 受動態 不定詞 動名詞 の形・意味・用法を理解している。 ［技能］ 文法 理解をもとに,自己表現をする 技能を身につけている。 ［知識］動名詞 不定詞 分詞 を理解している。 ［技能］文法 理解をもとに,自己表現をする 技能を身につけている。	文法理解をもとに、あなたの理想の食事メニューについて、相手に伝わるように工夫しながら伝えている。 文法理解をもとに、自分の考えるCool Japan についての紹介文を書いている。 文法理解をもとに、人類最大の発明品だと考えるものについて、相手にわかりやすく伝えることができる。 文法理解をもとに、「AI は人類の発展のために重要である」という論題に対し、自分の意見を相手に伝わりやすいように主張 Debate を行うことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 表現活動を通して、自分に不足している知識や技能を振り返ることができる。 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 表現活動を通して、自分に不足している知識や技能をみにつけようとしている。 学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。
3	1 2 3

		【学年末考査】 *SKYWARD 33,34 35,36 37,Further5 (接続詞 1 2 3) 疑問詞 1) (疑問詞 2) 時制の一致と話法 1 * Vision Quest Project ⑤ E Book Readers		［知識］分詞 比較 関係詞の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法 理解をもとに,自己表現をする 技能を身につけている。	パラグラフの構成を理解し、自分の伝えたい日本文化について、文章を書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜５学年　英語コミュニケーションⅡ　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	Crown English Communication Ⅱ
使用補助教材	・Crown English Communication Ⅱ ワークブック・アドバンスト ・ ALL EARS 改訂版 PRE-ADVANCED ・英語速読 10 分テスト Rapid Reading Level3 ・速読英単語　必修編 ・必携英単語　LEAP ・FINAL DRAFT

目標
・積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・英検２級～準１級程度の英語を読んだり（WPM 130 程度)、聞いたりして内容を理解することができるようにする。 ・生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。(紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする)

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・単語テスト（LEAP テスト） ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・基本文テスト ・定期考査 □文化（自国文化・国際理解） ・Debate ・Speech	【読む力（音読)】 □Reading （教科書の音読） ⇒評価場面 ・授業中の観察 ・パフォーマンステスト 【話す力】 □Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ ペアワーク ・Speech ・ Debate 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・スピーチ原稿 ・Rewriting ・定期考査，課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test (All Ears) ・授業内テスト 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・単元ごとに確認 Q&A T/F ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・単語テスト（Leap テスト） ・定期考査 ・提出物 ・Debate ・Speech □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・レポート ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Lesson 1 Lost in Translation 不定詞の意味上の主語 不定詞の受け身 動名詞の受け身	14	［知識］文章を読み取るために必要となる不定詞の意味上の主語、不定詞の受け身、動名詞の受け身に関する事項を理解している。 ［技能］翻訳できないことばについてのレクチャーを読み取る技能を身に付けている。	翻訳できないことばについて理解を深めるために、翻訳できないことばに関するレクチャーを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点､詳細を捉えている。	翻訳できないことばについて理解を深めるために、翻訳できないことばに関するレクチャーを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。

	5	Lesson 2 One Book Can Empower a Child さまざまな分詞構文 強調構文 【中間考査】	14	［知識］文章を読み取るために必要となる動名詞の意味上の主語、不定詞の完了形に関する事項を理解している。 ［技能］アジアの国々の子どもたちへ絵本を届ける活動についての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている。	ボランティア活動について理解を深めるために、アジアの国々の子どもたちへ絵本を届ける活動についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	ボランティア活動について理解を深めるために、アジアの国々の子どもたちへ絵本を届ける活動に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	6	Lesson 3 Accessible Japan 関係副詞の非制限用法 不定詞＋前置詞	14	［[知識］文章を読み取るために必要となるさまざまな分詞構文、強調構文に関する事項を理解している。 ［技能］障がい者のために活動するジョシュ・グリズデイルさんについてのエッセイを読み取る技能を身に付けている。	観光バリアフリーについて理解を深めるために、障がい者のために活動するジョシュ・グリズデイルさんについてのエッセイを読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握している。	観光バリアフリーについて理解を深めるために、障がい者のために活動するジョシュ・グリズデイルさんについてのエッセイを読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
	7	Lesson 4 Crossing the Border –Médecins Sans Frontières—前置詞＋関係代名詞 無生物主語の他動詞構文 【期末考査】	14	［知識］文章を読み取るために必要となる関係副詞の非制限用法、不定詞＋前置詞に関する事項を理解している。 ［技能］貫戸朋子医師の「国境なき医師団」での体験についての講演を読み取る技能を身に付けている。	貫戸医師の活動と決断について理解を深めるために、貫戸朋子医師の「国境なき医師団」での体験についての講演を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	貫戸医師の活動と決断について理解を深めるために、貫戸朋子医師の「国境なき医師団」での体験についての講演を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
2	9	Lesson 5 Mental Toughness 前置詞＋関係代名詞 無生物主語の他動詞構文	14	［知識］文章を読み取るために必要となる前置詞＋関係代名詞、無生物主語の他動詞構文に関する事項を理解している。 ［技能］スポーツにおけるメンタル・タフネスについての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている。	メンタル・タフネスについて理解を深めるために、スポーツにおけるメンタル・タフネスについての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握している。	メンタル・タフネスについて理解を深めるために、スポーツにおけるメンタル・タフネスについての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
	10	Lesson 6 Walking in Gaudí’s Footsteps 助動詞＋have＋過去分詞 S is C（C＝whether 節） 【中間考査】	14	［知識］独立不定詞/完了形の不定詞・動名詞/関係代名詞と前置詞の表現の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法 理解をもとに、文章の内容を読み取る、技能を身につけている。	人間の意思決定に影響を及ぼす要因について伝え合ったり書いたりするために、「無料」表示が人々の行動に与える影響について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	人間の意思決定に影響を及ぼす要因について伝え合ったり書いたりするために、「無料」表示が人々の行動に与える影響について書かれた文章の情報を読み取ろうとしている。また話そう、書こうとしている。

	11	Lesson 7 Why Biomimicry? if 節のない仮定法 未来に関する仮定法 仮定法現在	13	［知識］文章を読み取るために必要となる If 節のない仮定法、未来に関する仮定法、仮定法現在に関する事項を理解している。 ［技能］自然の模倣から新しいデザインを生み出すバイオミミクリーについての論説文を読み取る技能を身に付けている。	バイオミミクリーについて理解を深めるために、バイオミミクリーについての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	バイオミミクリーについて理解を深めるために、バイオミミクリーについての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	12	【期末考査】 Lesson8 Invisible No Longer be to 不定詞 結果を表す不定詞	13	［知識］文章を読み取るために必要となる be to 不定詞、結果を表す不定詞に関する事項を理解している。 ［技能］コートジボワールのカカオ農園の女性たちの活動についてのレクチャーを読み取る技能を身に付けている。	ジェンダーギャップやフェアトレードについて理解を深めるために、コートジボワールのカカオ農園の女性たちの活動についてのレクチャーを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	ジェンダーギャップやフェアトレードについて理解を深めるために、コートジボワールのカカオ農園の女性たちの活動についてのレクチャーを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
3	1	Lesson 9 Nudges 未来進行形 未来完了形 受け身の進行形	10	［知識］文章を読み取るために必要となる未来進行形、未来完了形、受け身の進行形に関する事項を理解している。 ［技能］人々のよりよい選択を手助けするナッジという仕組みについての論説文を読み取る技能を身に付けている。	ナッジについて理解を深めるために、ナッジについての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	ナッジについて理解を深めるために、ナッジについての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	2	Lesson 10 Are We Alone? 独立分詞構文 倒置	10	［知識］文章を読み取るために必要となる独立分詞構文、倒置に関する事項を理解している。 ［技能］リチャード・ドーキンス博士による地球外生命体の探索についての論説文を読み取る技能を身に付けている。	宇宙探査について理解を深めるために、リチャード・ドーキンス博士による地球外生命体の探索についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	宇宙探査について理解を深めるために、リチャード・ドーキンス博士による地球外生命体の探索についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	3	【学年末考査】 Reading Miracle on the Hudson ５年のまとめ	10	［知識］文章を読み取るために必要となる語句、表現を理解している。 ［技能］航空トラブルについての物語を読み取る技能を身に付けている。	英語で書かれた物語について理解を深めるために、航空トラブルについての物語を読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。	英語で書かれた物語について理解を深めるために、航空トラブルについての物語を読んで、必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。
年間授業時数			140			

令和５年度　＜５学年　論理・表現Ⅱ　＞　年間指導計画

単位数	2 単位
使用教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace
使用補助教材	・POWER STAGE 英文法・語法問題 New Edition ・POWER STAGE 英文法・語法問題トレーニング・ブック〈スタンダード〉New Edition ・WIDE ANGLE 5 訂版　BOOK5 ・解体英熟語 ・SKYWARD 総合英語 ・INSPIRE English Skills 48Units ・SKYWARD English Skills 48Units WORKBOOK ・リンケージ英語構文 100 ・スラスラ話すための瞬間英作文

目標
・積極的に参加したくなる授業づくりの中で、「読む」「書く」「聞く」「話す」等に関する様々な言語活動を実践する。 ・生徒が情報や考えを理解したり伝えたり実践するように具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。（紹介や対話文を聞いて、また、説明や物語を読んで情報や考えを理解し、概要や要点をとらえる。聞いたり読んだこと・学んだことについて音読し、話し合ったりする。また書いたりする） ・表現活動を通して、生徒が主体的に適切な文法を使用したり調べたりし、知識を身に付けることができる。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・熟語テスト（解体英熟語） ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・基本文テスト（リンケージ） ・定期考査 □文化（自国文化・国際理解） ・Speech ・Debate	【話す力】 □Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Speech　・Discussion 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・スピーチ原稿 ・Writing 試験 ・定期考査，課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・熟語テスト（解体英熟語） ・定期考査 ・提出物 ・Speech　・Debate ・Discussion □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・レポート ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Lesson 1 What is your future goal?	5	［知識］There 構文や無生物主語の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い行きたい国やおすすめの本について書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、行きたい国やおすすめの本について相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。

	5	Lesson 2 What school events do you have?	5	［知識］時制や事柄を表す名詞の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い気になるニュースやスポーツに対する自分の意見について書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、気になるニュースやスポーツに対する自分の意見について相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	6	Lesson 3 Who is the best athlete?	5	［知識］分詞/関係詞/不定詞や助動詞の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い地元の料理の紹介や悩みを抱えている人への励ましの手紙を書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、地元の料理の紹介や悩みを抱えている人への励ましの手紙を相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	7	Lesson 4 Is social media safe?	5	［知識］比較、程度の差や変化を表す構文の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、自分を幸せにするもの・ことについて理由や具体例とともに書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、自分を幸せにするもの・ことについて相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
2	9	Lesson 5 How does overusing energy affect us?	5	［知識］時、譲歩を表す構文の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、自分自身のことついて時系列で述べるパラグラフを書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、自分自身のことついて時系列で述べるパラグラフを、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	10	Lesson 6 What are some culture differences?	5	［知識］目的を表す構文の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、環境問題とその解決策について原因や結果、解決策がもたらす結果について書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、環境問題とその解決策の因果関係について、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	11	Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English?	5	［知識］プレゼンテーションの書き方を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、空きスペースの有効な活用法について、具体例や視覚資料を示しながら、聴衆に伝わるようにプレゼンテーションをすることができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、空きスペースの有効な活用法について、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	12	Lesson 8 Is Japan open enough?	5	［知識］ディベートの方法や論の組み立て方を理解している。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、生徒は全員部活に入るべきかについて、	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、

				［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	具体例や理由を挙げながら、討論することができる。	生徒は全員部活に入るべきかについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
3	1	Lesson 9 What if you were rich?	5	［知識］ディスカッションの方法や論の組み立て方を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、動物園の是非やエコツアーについて、具体例や理由を挙げながら、討論することができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、動物園の是非やエコツアーについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	2	Lesson 10 How might AI affect our lives?	3	［知識］描写文、説明文の書き方の違いを理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、未来の世代に遺したいものを、その理由や遺すための方法について３つ以上のパラグラフで書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、未来の世代に遺したいものについて、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
	3	Lesson 11 What is a healthy life?	2	［知識］描写文、説明文、議論型文の書き方の違いを理解している。 ［技能］文法理解をもとに、自己表現をする技能を身につけている。	文法理解をもとに、適切な表現を使い、教育についての意見を、読み手が納得するよう論拠を明確に示し、３つ以上のパラグラフで書くことができる。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。文法理解をもとに、教育についての意見を、相手にわかりやすい表現で伝えようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期６学年　必修　英語コミュニケーションⅢ　＞　年間指導計画

単位数	４単位
使用教科書	Crown English Communication Ⅲ
使用補助教材	Cutting Edge　オレンジ（エミル出版） 大学入学共通テスト リスニング分野別 10min.（エミル出版） 共通テスト英語 Reach 40 （美誠社） 2025 入試用　パワーマックス　英語リーディング・リスニング（Z会）

目標
英語を読む、聞く、話す、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項等を、長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国公立二次試験の英文に対応できる能力を身に付けさせていく。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・単語テスト ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・定期考査	【話す力（やり取り）】 ⇒評価場面 ・授業中の観察 【話す力（発表）】 ⇒評価場面 ・Speech 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・定期考査，授業内課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・授業内テスト 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・単元ごとに確認 ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・単語テスト ・定期考査 ・提出物 □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Lesson 1 How Language Shapes the Way We Think	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］言語が思考にもたらす影響についての講演を読み取る技能を身に付けている。	言語と思考の関係について理解を深めるために、言語が思考にもたらす影響に関する講演を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	言語と思考の関係について理解を深めるために、言語が思考にもたらす影響に関する講演を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。
	5	Lesson 2 Weak Robots Lesson 3 Fake News Is Everywhere: Beware! 【中間考査】	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］手助けを必要とする「〈弱い〉ロボット」についての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている。 ［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現に関する事項を理解している。 ［技能］フェイクニュース	人間とロボットの関係について理解を深めるために、手助けを必要とする「〈弱い〉ロボット」についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 フェイクニュースについて理解を深めるために、フェイクニュースの危険性と対処法についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の	人間とロボットの関係について理解を深めるために、手助けを必要とする「〈弱い〉ロボット」についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 フェイクニュースについて理解を深めるために、フェイクニュースの危険性と対処法についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の

				の危険性と対処法についての論説文を読み取る技能を身に付けている。	展開や書き手の意図を把握している。	展開や書き手の意図を把握しようとしている。
	6	Lesson 4 Beyond What Nature Intends Lesson 5 How to Beat Procrastination	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］最先端義足の開発者 Hugh Herr 氏の活動についての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている ［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］「先延ばし癖」の克服方法についてのブログ記事を読み取る技能を身に付けている。	最先端義足の開発について理解を深めるために、最先端義足の開発者 Hugh Herr 氏の活動についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 「先延ばし癖」について理解を深めるために、「先延ばし癖」の克服方法についてのブログ記事を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握している。	最先端義足の開発について理解を深めるために、最先端義足の開発者 Hugh Herr 氏の活動についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 「先延ばし癖」について理解を深めるために、「先延ばし癖」の克服方法についてのブログ記事を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
	7	Lesson 6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash 【期末考査】	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］家電・電子ゴミ問題や企業戦略と消費者運動についての論説文を読み取る技能を身に付けている。	家電・電子ゴミ問題について理解を深めるために、家電・電子ゴミ問題や企業戦略と消費者運動についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握している。	家電・電子ゴミ問題について理解を深めるために、家電・電子ゴミ問題や企業戦略と消費者運動についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握しようとしている。
2	9	Lesson 7 Only a Camera Lens between Us	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動についての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている。	世界の紛争や平和について理解を深めるために、武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	世界の紛争や平和について理解を深めるために、武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	10	Lesson 8 Super Clone Cultural Properties 【中間考査】	14	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］スーパークローン文化財についてのインタビューを読み取る技能を身に付けている。	スーパークローン文化財について理解を深めるために、スーパークローン文化財についてのインタビューを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	スーパークローン文化財について理解を深めるために、スーパークローン文化財についてのインタビューを読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	11	Lesson 9 Culture in the Animal Kingdom Lesson 10	13	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］動物の文化についての論説文を読み取る技能を身に付けている。 ［知識］文章を読み取るため	動物の文化について理解を深めるために、動物の文化についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 経済的不平等について理解を	動物の文化について理解を深めるために、動物の文化についての論説文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。 経済的不平等について理解を

		Does Money Make You Mean?		に必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］裕福さと思いやりの関係、経済的不平等についての雑誌記事を読み取る技能を身に付けている。	深めるために、裕福さと思いやりの関係、経済的不平等についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。	深めるために、裕福さと思いやりの関係、経済的不平等についての雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えようとしている。
	12	【期末考査】 Supplementary Reading 1. The Silent Miaow 2. Mute in an English-only World	13	［知識］文章を読み取るために必要となる語句、表現を理解している。 ［技能］子ネコの企てについての物語を読み取る技能を身に付けている。 ［知識］文章を読み取るために必要となる語句、表現を理解している。 ［技能］移民先での言語使用についての物語を読み取る技能を身に付けている。	英語で書かれた物語について理解を深めるために、子ネコの企てについての物語を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。 英語で書かれた物語について理解を深めるために、移民先での言語使用についての物語を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握している。	英語で書かれた物語について理解を深めるために、子ネコの企てについての物語を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握しようとしている。 英語で書かれた物語について理解を深めるために、移民先での言語使用についての物語を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図、登場人物の心情を把握しようとしている。
3	1	Cutting Edge Chapter1 Chapter2	10	Chapter1,2 共に ［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	絶滅種と DNA について書かれた文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。 ジョギングについて書かれた文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、絶滅種と DNA について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。文法理解をもとに、ジョギングについて書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	2	Chapter3 Chapter4	10	Chapter3,4 共に ［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	物語形式の文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。 言語の変化について書かれた文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、物語を理解し、設問に答えようとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、言語の変化について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。

	3	Chapter5 Chapter6	10	Chapter5,6 共に ［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	視覚について書かれた文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。 温暖化について書かれた文章の情報を読み取っている。 またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、視覚について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。 ペアで協力して活動に取り組むことができる。文法理解をもとに、温暖化について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
年間授業時数			140			

令和６年度　＜後期６学年　論理・表現Ⅲ　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	CROWN Logic and ExpressionⅢ
使用補助教材	・解体英熟語 ・The Reflex 643 (桐原書店) ・入試必携英作文 Write to the Point (数研出版)

目標
日常生活に関する表現を習得すると同時に、アウトプット活動を通して、writing 力、speaking 力、presentation 力を養う。 文法事項を体系的に習得するとともに、文法・作文に関する大学入試傾向をふまえて演習する。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・熟語テスト（解体英熟語） ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・小テスト ・定期考査	【話す力】 □Speech, Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Speech　・Discussion 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・スピーチ原稿 ・Writing 試験 ・定期考査，課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・熟語テスト（解体英熟語） ・定期考査 ・提出物 ・Speech　・Debate ・Discussion □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・レポート ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Lesson 1 Global Language	8	［知識］文法面では「時制」「助動詞」「受動態」、機能表現面では「賛成・反対」を表す表現を理解している。 ［技能］「英語以外の外国語を学習すること」という問題をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。	「早期外国語教育」についてどう思うかを、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した電子メールの原稿を書き、それを発表している。	「早期外国語教育」についてどう思うかを主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した電子メールの原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。
	5	Lesson 2 Millennial's Consumption Trends	8	［知識］文法面では「不定詞」「動名詞」「分態」、機能表現面では「例証」を表す表現を理解している。 ［技能］「サブスクリプション経済」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。	「サブスクリプション経済」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に応答したりしている。	「サブスクリプション経済」をどう思うかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に応答し

						たりしようとしている。
	6 7	Lesson 3 Space Odyssey	10	［知識］文法面では「仮定法」「接続詞」、機能表現面では「時間的順序」を表す表現を理解している。 ［技能］ ・「宇宙開発の必要性」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。 ・「宇宙旅行に行ってみたいかどうか」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。	・「宇宙開発の必要性」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に応答したりしている。 ・「宇宙旅行に行ってみたいかどうか」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。	・「宇宙開発の必要性」をどう考えるかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に応答したりしようとしている。 ・「宇宙旅行に行ってみたいかどうか」について主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。
2	9	Lesson 4 Art or Graffiti?	8	［知識］文法面では「比較」「関係詞」、機能表現面では「確信」「提案・勧誘」「伝聞」を表す表現を理解している。 ［技能］「クローン文化財」をどう考えるかについて、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、自分の考えを詳しく伝え合う技能を身に付けている。	「クローン文化財」をどう考えるかについて、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に応答したりしている。	「クローン文化財」をどう考えるかについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に応答したりしようとしている。
	10	Lesson 5 Media and Information Literacy	8	［知識］文法面では「疑問詞」、機能表現面では「忠告・義務」「必要」「譲歩」を表す表現を理解している。 ［技能］「血液型と性格」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。	血液型と性格」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。	「血液型と性格」について主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。
	11 12	Lesson 6 Are You a Great Creative Thinker?	10	［知識］「否定」「比較・対照」を表す表現を理解している。 ［技能］ ・「レストランの売り上げ向上方法」や「若手起業家」についての考えを、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、詳しく伝え、質疑応答に応じる技能を身に付けている。 ・「レストランの売り上げ向上方法」	・「レストランの売り上げ向上方法」や「若手起業家」について、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に応答したりしている。 ・「レストランの売り上げ向上方法」や「若手起業家」	「レストランの売り上げ向上方法」や「若手起業家」かについて、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に応答したりしよう

				や「若手起業家」についての自分の意見を書き、それを発表する技能を身に付けている。	について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。	としている。
3	1	Lesson 7 Green　Wisdom	8	［知識］文法面では「名詞」「冠詞」、機能表現面では「統計資料を説明する表現」を理解している。 ［技能］「持続可能な観光」の取り組みについて自分の考えを書き、それについて発表する技能を身に付けている。	「持続可能な観光」の取り組みについて、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。	「持続可能な観光」の取り組みについて主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。
	2 3	Lesson 8 What Is Happiness?	10	［知識］文法面では「特殊構文」、機能表現面では「因果関係」を表す表現を理解している。 ［技能］ ・「SDGｓ」についての考えを、やり取りの表現の機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して、詳しく伝え合い、質疑応答に応じる技能を身に付けている。 ・「クリス・ムーンのメッセージ」について自分の考えを書き、それについて発表する技能を身に付けている。	・「SDGｓ」について、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝えたり、相手からの質問に応答したりしている。 ・「クリス・ムーンのメッセージ」について、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を書き、それを発表している。	・「SDGｓ」について、主体的に考え、他者の様々な意見も参考にしながら、自分の意見を基本的な語彙や文法を活用して主体的に表現して詳しく伝えようとしたり、相手からの質問に応答したりしようとしている。 ・「クリス・ムーンのメッセージ」について、主体的に考え、論理展開に留意し、基本的な語彙や文法を活用して、読み手を意識した原稿を主体的に書き、それを発表しようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜後期６学年　英語コミュニケーション演習　＞　年間指導計画

単位数	２単位
使用教科書	CROWN English Communication Ⅲ
使用補助教材	・入試長文読解演習 Aim High vol.3 ・CNN 1 Workbook Comprehensive Trainer 2024

目標
英文を読む、聞く、書く場合に必要とされる語彙、文型、文法事項を長文読解を通じて理解し、音読等のトレーニングを行い定着させるとともに、私大や国公立二次試験の英文に対応できる力を身に付ける。 アウトプット活動を通して、writing 力、speaking 力を養う。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・定期考査 □文化（自国文化・国際理解） ・Writing	【話す力】 □Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Discussion 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・Writing 試験 ・定期考査，課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物 ・writing, presentation □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Unit1 研究報告／教育	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］研究者と研究報告の関係性についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	研究者と研究報告についての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 研究者と研究報告についての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。
	5	Unit2 ワクチン／医療	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］ワクチンと伝染病についての雑誌記事を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	ワクチンと伝染病について理解を深めるために、ワクチンが開発される経緯に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 ワクチンと伝染病について理解を深めるために、ワクチンが開発される経緯に関する雑誌記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。
	6	Unit3 記憶／心理学	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］記憶と日常生活についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けてい	記憶と日常生活について理解を深めるために、記憶が人々にもたらす影響に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなど	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 記憶と日常生活について、情報や考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしてい

				る。	を論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	る。
	7	Unit4 宇宙観光業／宇宙	4	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］商業宇宙飛行の影響と懸念点についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	商業宇宙飛行の影響と懸念点についての考えを深めるために、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 商業宇宙飛行の影響と懸念点についての考えを深めるために、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。
2	9	Unit5 犬と猫／動物愛護	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］犬と猫がいかに人間と密接な関係を築いたかについての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	犬と猫がいかに人間と密接な関係を築いたかについて理解を深めるために、犬と猫の歴史的な扱われ方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 犬と猫がいかに人間と密接な関係を築いたかについての考えを深めるために、研究がどう影響するかについて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。
	10	Unit6 歴史的建造物／文化	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］古代の史跡保護についての記事を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	古代の遺跡保護について理解を深めるために、半政府的組織イングリッシュ・ヘリテッジがどう活動をしてきたかに関する記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 古代の遺跡保護について理解を深めるために、半政府的組織イングリッシュ・ヘリテッジがどう活動をしてきたかに関する記事を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。
	11	Unit7 AI／テクノロジー	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］テクノロジーの進歩についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	テクノロジーの進歩と人間の職業の関係について理解を深めるために、人工知能技術による仕事の自動化に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 テクノロジーの進歩と人間の職業の関係についてについて、情報や考えを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしている。
	12	Unit8 農業情報／農業	4	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］農作物と食料不安の関係性についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	農作物と食料不安の関係性についての考えを深めるために、データ分析を用いた研究結果について、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 農作物と食料不安の関係性についての考えを深めるために、データ分析を用いた研究結果について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えようとしている。

3	1	Unit9 ランダム戦略／経済学	6	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］ランダム戦略の考えについての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	ランダム戦略の考えについて理解を深めるために、スポーツやビジネスの世界での応用の仕方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 ランダム戦略の考えについて理解を深めるために、スポーツやビジネスの世界での応用の仕方に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。
	2 3	Unit10 今を生きる／哲学	8	［知識］文章を読み取るために必要となる文法事項や語法・表現を理解している。 ［技能］人生と時間軸の捉え方についての文章を読み取る・聞き取る技能を身に付けている。	人生と時間軸の捉え方について理解を深めるために、生死に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。また、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 人生と時間軸の捉え方について理解を深めるために、生死に関する文章を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把えようとしている。
年間授業時数			70			

令和６年度　＜５学年　文化科学Ⅲ　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	
使用補助教材	・Cutting Edge 2022 Green（エミル出版） ・POWER STAGE 英文法・語法問題 New Edition（桐原書店） ・CNN Workbook（朝日出版社） ・Rapid Reading Level3（美誠社）

目標
・人文系、社会系、自然科学系などさまざまな英文を読む機会を持つことで、教科書とは違った英文に慣れるとともに、異文化理解の一端とする。

評価の観点と方法・材料			
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度
【言語についての知識・理解】 □語彙・表現 ⇒評価場面 ・定期考査 □文型・文法 ⇒評価場面 ・定期考査 □文化（自国文化・国際理解） ・Writing	【話す力】 □Retelling ⇒評価場面 ・ペアワーク ・Discussion 【書く力】 □Writing ⇒評価場面 ・Writing 試験 ・定期考査，課題	【聞く力】 □Listening ⇒評価場面 ・Listening Test ・定期考査 【読む力】 □Reading ⇒評価場面 ・定期考査	□粘り強く学習に取り組む態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物 ・Discussion □自ら学習を調整しようとする態度 ⇒評価場面 ・定期考査 ・提出物

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	Unit1 Chapter1	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	食事と CO2 について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、食事と CO2 について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter2	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	必要水分量について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、必要水分量について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	5	Chapter3	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	英語の変遷について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、英語の変遷について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。

	6	Chapter4 【中間考査】	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	トランスヒューマンについて書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、トランスヒューマンについて書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Unit2 Chapter5	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	絶滅危惧種の選定について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、絶滅危惧種の選定について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter6	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	「嘘も方便」という文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、「嘘も方便」という文章を理解し、設問に答えようとしている。
	7	Chapter7	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	火の制御とその効果について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、火の制御とその効果について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter8 【期末考査】	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	老人ホームへの贈り物について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、老人ホームへの贈り物について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
2	9	Unit3 Chapter9	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	生活賃金について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、生活賃金について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter10	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	アフリカのブランド商品について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、アフリカのブランド商品について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	10	Chapter11	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、	サンゴ礁について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、サンゴ礁について書かれた文章を

				英文を和訳する技能を身につけている。		理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter12	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	緑色の血液について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、緑色の血液について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	11	Unit4 Chapter13	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	文明の隆盛について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、文明の隆盛について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
		Chapter14	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	豪華客船の沈没について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、豪華客船の沈没について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	12	Chapter15	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	教育と報酬について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、教育と報酬について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
3	1	Unit5 Chapter16	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	自動運転車について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、自動運転車について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	2	Chapter17	2	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	睡眠の常識について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、睡眠の常識について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
	3	Chapter18	1	［知識］本文で使用されている文法の形・意味・用法を理解している。 ［技能］文法理解をもとに、英文を和訳する技能を身につけている。	幸福感について書かれた文章の情報を読み取っている。またその情報をもとに話して、書いている。	ペアで協力して活動に取り組むことができる。 文法理解をもとに、幸福感について書かれた文章を理解し、設問に答えようとしている。
年間授業時数			35			

令和６年度　＜４学年　総合的な探究の時間（人間と社会）＞　年間指導計画

単位数	1単位
使用教科書	「人間と社会」（東京都教育委員会）
使用補助教材	—

目標
探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑴　探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解するようにする。 ⑵　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。 ⑶　探究に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
⑴　探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解している。 ⑵　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している。 ⑶　探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとしている。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 ボランティア活動事前指導 6 SS論文情報収集 7 ボランティア活動（夏期）	SS（セカンドステージ）論文課題設定 宿泊防災訓練	1 6 2 4	・　自己の生活や周辺の事象には，それぞれの実態に応じた課題があることを，具体例に基づいて理解している。 ・　ボランティア活動などの体験活動の仕方を身に付けている	・　自分たちのゴールの見通しをもち，課題をつくり，仮説を立て，検証方法を考え，計画を立案している。 ・　多様な他者と協力して，ボランティア活動などの体験活動に取り組んでいる。	・自分の意思で課題に向き合い，自他のよさを認めながら，協働的に課題を解決しようとする。 勤労生産や奉仕活動に積極的に取り組んでいる。
2	9 10 11 ポスターセッション準備 12 SS論文中間発表会	ボランティア活動事後指導 SS論文分析	2 8 2 1	・　勤労の意義と尊さ，社会的・職業的な自立について理解している。 ・　統計調査やアンケート調査，観察や実験などを，対象に応じた適切さで，正確に実施している。	・　勤労生産や奉仕に関して集団や社会に必要なことを見い出し，自分のできることを判断し実践している。 ・　仮説の検証に向けて，最適な方法を選択しながら，原因を特定している。	・　見通しをもったり振り返ったりしながら，人間としての在り方生き方に関する自覚を深め，勤労観や職業観を醸成し，社会に貢献しようとしている。 ・　中間発表を通して，多様な意見や他者の考えを受け入れて協力しようとしている。
3	1 2 SS論文発表会 3 SS論文まとめ	SS論文作成	6 1 2	・　探究活動を通して課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	・　探究活動によって得られた調査結果を，データの質や伝えたい内容や方法を踏まえて表現している。	・　自己の在り方生き方を考え，社会の形成者としての自覚をもって，持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。
年間授業時数			35			

令和６年度　＜５学年　総合的な探究の時間＞　年間指導計画

単位数	1単位
使用教科書	
使用補助教材	『課題研究メソッド』－

目標
探究の見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，自己の在り方生き方を考えながら，よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ⑴　探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解するようにする。 ⑵　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。 ⑶　探究に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
⑴　探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解している。 ⑵　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している。 ⑶　探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとしている。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	TS（サードステージ）論文オリエンテーション	2	・　自己の生活や周辺の事象には，それぞれの実態に応じた課題があることを，具体例に基づいて理解している。 ・　勤労の意義と尊さ，社会的・職業的な自立について理解している。	・　これまでの探究成果と課題を把握し，仮説の検証方法を考案し，計画を修正している。 ・　将来の学び方、働き方、について考えるために、多様な他者の在り方を知り、自己の在り方に活かそうとしている。	・自分の意思で課題に向き合い，自他のよさを認めながら，協働的に課題を解決しようとする。 勤労生産や奉仕活動に積極的に取り組んでいる。
	5	進路講演会	1			
		大学研究	2			
	6	TS 論文検証と分析	4			
	7	海外修学旅行先台湾の学習 オープンキャンパス参加	2			
2	9	海外修学旅行先台湾の学習	2	・世界各地には，それぞれの文化や伝統があり，それを大切にして生活していることについて理解している。 ・　統計調査やアンケート調査，観察や実験などを，対象に応じた適切さで，正確に実施している。	・　勤労生産や奉仕に関して集団や社会に必要なことを見い出し，自分のできることを判断し実践している。 ・　仮説の検証に向けて，最適な方法を選択しながら，原因を特定している。	・　見通しをもったり振り返ったりしながら，人間としての在り方生き方に関する自覚を深め，勤労観や職業観を醸成し，社会に貢献しようとしている。 ・　中間発表を通して，多様な意見や他者の考えを受け入れて協力しようとしている。
	10	TS 論文検証と分析	4			
		大学模擬授業	2			
	11	ポスターセッション準備	3			
	12	TS 論文中間発表会	4			
3	1	TS 論文作成	6	・　探究活動を通して課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	・　探究活動によって得られた調査結果を，データの質や伝えたい内容や方法を踏まえて表現している。	・　自己の在り方生き方を考え，社会の形成者としての自覚をもって，持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。
	2	キャリアパスポート作成	1			
	3	TS 論文まとめ	2			
年間授業時数			35			

令和６年度　＜６学年　総合的な探究の時間　＞　年間指導計画

単位数	１単位
使用教科書	―
使用補助教材	―

目標
・生徒各自の進路実現に向けて必要な情報を得、分析できる能力を身につける。 ・進路実現に向けた意識と意欲を涵養する。

評価の観点と方法・材料
・進路実現のための意識、情報入手の方法等理解できたか。 ・模試結果から志望大学への今後の取組方が計画できたか。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準
1	4	・オリエンテーション ・校外学習準備	2	・進路実現のための意識、情報入手の方法等理解することができたか。 ・進路を意識し、校外学習の準備を行うことができたか。
	5	・進路集会・自主研究	3	・受験科目と受験大学についての情報の入手と確認を行うことができたか。
	6	・在卒懇談会・自主研究	4	・先輩の経験に照らして、これからの自身の取組方法が明確になったか。 ・具体的な受験カレンダーが確定できたか。
	7	・進路集会・大学説明会	3	・最終確認と最新情報の入手について、どのオープンキャンパスに参加するか決定できたか。
2	9	・進路講演会・グループ別研究	3	・模試結果から志望大学への今後の取組方法が計画できたか。
	10	・自主研究・大学模擬講義	4	・大学の模擬講義に触れるなどして受験までの意識が高まったか。
	11	・自主研究まとめ	4	・出願について最終確認ができたか。 ・現時点での達成部分と課題が明確になったか。
	12	・受験計画書の作成・提出	3	・日程に無理はないか、手続きについて確認できているか。
3	1	・大学入学共通テストリサーチ ・受験計画書の練り直し	4	・大学入学共通テストの自己採点の結果をもとに、課題を明確にして出願に望めているか。
	2	・受験結果の分析報告書の作成・提出	3	・結果について正しい分析がなされているか。
	3	・受験結果の分析報告書の作成・提出	2	・大学生活やその後の社会生活に向けての意識が高められたか。
		年間授業時数	35	

図書館・保健室より

図書館から

学校図書館は、多様な資料や検索のためのツールを用意して、皆さんのひとりひとりが自ら学ぶことができる環境を整えています。図書館に来て、棚に並ぶ本の背表紙を眺めるだけでも世界は広がります。広く豊かな本の世界を通して、理解する力や考える力、また表現する力を培ってください。この中学・高校時代に図書館を利用する習慣を身に付けることは、将来、大学生や社会人になってから、各種の図書館を活用するうえで、大きな助けになるはずです。

〈読書〉

書物は時代や空間を超えて、人の営みを伝えてきました。個人で体験できることには限りがありますが、読書をすることで、未知の世界に触れ、複雑な社会や人の心を理解するヒントが得られます。様々な考え方や感じ方に接し、自分自身や社会について考えることは、未来を模索することにつながっていきます。中学・高校時代に多くの本に出会うことによって、視野を広げ、ものの見方を確立し、自分の意見を表現できるよう成長してほしいと願っています。

また、くつろいだ気分で想像の世界に楽しみを発見する読書もあります。図書館には、エンターテインメント小説、趣味やスポーツの実用書や写真集など、気軽に楽しみながら読める本や雑誌もたくさんあります。時には図書館で、ひとりでできる息抜きを楽しんでください。

〈調査・研究〉

探究のサードステージでは、個人論文を完成することになります。テーマの設定や調査に、インターネットだけでなく、図書館にある資料を活用できるようになりましょう。本校図書館でも他館でも、資料の探し方や利用についてわからないことがあれば、遠慮せずに職員に質問をしてみて下さい。

【資料の探し方】

学校では閲覧室にある蔵書検索パソコンが利用できます。また本校の蔵書検索サイト「三鷹中等教育学校蔵書検索」（https://lib-finder.net/mitaka_ss/）からオンラインで検索することも可能です。検索の際は、調べたい事柄にたいして関連するキーワードを複数用意すると、より情報をみつけやすくなります（例：節電について調べたい……省エネ、電気、発電、エネルギーなど）。そうしたキーワードが浮かばない場合は、まずは百科事典でその事柄を調べると、必要最低限の知識を得ることができます。

また、図書館には本だけでなく、新聞や雑誌もあります。そちらも調べてみましょう。

【資料の読み方】

調べものをする際は、楽しみの読書とは違い、1 ページ目から順番に読む必要はありません。見つけた資料に必要な情報があるか、内容を示している「目次（もくじ）」か、巻末にある「索引（さくいん）」から該当するページを探して確認しましょう。

また、本の巻末には「参考文献一覧」という、本を書く際に参考にした資料の一覧がついている場合があります。必要な本が一冊あれば、そこから別の本を探すことができます。

必要な情報を見つけたら、それがどの資料のどこに載っていたのかをメモしましょう。本の場合は「書名」「著者名」「出版社」「出版年」が基本です。

図書館は、みなさんの「知りたい、学びたい」を応援する場所です。おおいに活用してください。

保健室から

保健室では、みなさんが充実した学校生活を送れるように、サポートをしていきます。みなさんも自分の体調を把握し、自分で健康管理ができるようにしましょう。

<前期課程>

小学校時代に比べて、通学時間が長くなります。学習内容も難しくなり、予習・復習・宿題と勉強時間が長くなるとともに部活動の練習内容も厳しくなります。思春期は大切な成長期なので、必要に応じ体を休息させることが大切です。

<後期課程>

後期課程は義務教育ではありませんので、決められた出席日数をこなし単位をとることが大切です。体調管理を行い、充実した学校生活を送りましょう。

<前期課程・後期課程共通の健康管理>

自分の生活リズム

睡眠時間を削っての生活は、単に疲労感や眠気を招くばかりではなく、頭痛や肩こり
立ちくらみ、生理の不順、胃腸の調子が悪いといった症状を招きます。

体の疲労が重なると「やる気が出ない」「何もしたくない」「理由はないが涙がでてくる」など心への影響がでてくることもあります。

規則正しい生活を送り、自分なりの生活リズムをつくりましょう。

睡眠と栄養

中等教育学校の 6 年間は身体が最も成長する時期です。睡眠と栄養と適度な運動は成長に欠かせない大切な要素です。睡眠は休息をとるという点からも、また睡眠中に成長ホルモンの分泌が促進されている点からも重要です。自分に必要な睡眠時間をつかんでください。

食生活の面では、栄養のバランスを考えて摂取しましょう。前期課程の給食は、成長に必要なエネルギー、栄養バランスを考えた献立となっています。

後期課程は、弁当を持参します。自分で弁当を作る（購入する）人もいるでしょう。パンだけ、おにぎりだけでなく野菜（サラダやジュース）・たんぱく質（チーズ等）も加えるなどバランスを考えましょう。

学校感染症について

インフルエンザなど学校感染症に罹患した場合は、速やかに学校に連絡し出席停止期間は十分に休養をしましょう。登校を再開する時には「学校感染症による欠席届」を担任に提出してください。

心の健康

中学・高校時代は精神的・身体的・社会的に大人へと成長していく時期です。

その過程で不安感や挫折感を感じることもあると思います。自分の心と向き合いひとりで考えることも大切ですが、信頼できる大人に相談することも時には必要でしょう。

保健室でも相談に応じますし、週に１回スクールカウンセラーも来校します。

６年間の学習計画

国語科　６年間の指導計画

目　　標　・文化の源となる国語教育という視点に立ち、読むこと・書くことはもちろん、話すこと・聞くことの領域においても「ことば」の働き・成り立ちに興味や関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を養う。実社会において「ことば」の正しい、主体的な使い手となり、自分の気持ち、考えを適切に表現できる力を身につけさせる。他者を理解し、物事を論理的に思考し深化させていくことのできる言語力を養成する。

指導の特徴　○学 校 設 定 科 目…「文化科学Ⅰ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
読書に親しむ。漢字と言葉の正しい理解と習得。自分の意見や考えを言葉にして率直に表現する。他者の言葉を的確に受け止める。	意欲的に読書に取り組み、視野を広げる。文章表現の仕方を学び、文章を書き慣れる。討論・討議を通して他者を理解し、自分の論理を鍛える。	自ら課題を設定し、読書を行う。古今の文章を読み叡智に触れて、自分の考えを発展させる。価値判断を伴った読解力を付ける。効果的な表現方法を工夫する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	○国語 ・楽しく読む。 ・工夫して音読・朗読・群読をし、読解力と表現力を育てる。 ・口語文法を学び、日本語の特性を知る。 ・漢字の成り立ち・故事成語・四字熟語を学んで漢字の造語力を知る。 ・古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れる。 書写・字形・配列などを理解して楷書で書く。 ・漢字の行書の基礎。 ○文化科学Ⅰ ・読解力、表現力の基礎を養う。 ・身の回りに材をとったスピーチや、グループでの話し合い活動を通じて、効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ・論理的な文章の構成や、資料の読み取り方を学ぶ。 ・百人一首の暗唱を行い、和歌に親しむ。	国語 文化科学Ⅰ	週４時間 週１時間	・日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする。 ・スピーチ「私のお気に入り」ショウ・アンド・テル
		2	○国語 ・正しく読む。 ・仲間や社会とのかかわりを描いた文学作品を読み、日常生活から社会全体へと視野を広げる。 ・通知文、説明文、図表などの制作を行い、情報を伝える編集方法について学ぶ。 ・熟語の構成・漢語と和語の性質を学び、日本語の豊かさを理解する。 ・文語文法・訓読のきまりの基礎を学び古典独特の表現を味わう。 ・百人一首の鑑賞とともに近現代の短歌・俳句を学び、定型詩の伝統と特色を考える。 書写・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書く。	国語	週４時間	・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く。 ・書いたものをグループで回して読み合い、良さやアドバイスを伝えあい、推敲する。
	セカンドステージ	3	○国語 ・広く読む。 ・社会や世代を超えて読み継がれる物語や小説を読んで自己と社会を考える。 ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読み、読み取ったことを簡潔にまとめた文章を書く。 ・ディベート・パネルディスカッションを行い、対話と説得の技術を身につける。 ・文語文法（用言）・訓読のきまりを体系的に学び、読解力の基礎を固める。 ・世界の様々な文字の特性と背景にある文化を知るとともに、我が国における仮名の成り立ち・特性を理解する。 書写・多様な文字に関心を持ち効果的に字を書く。	国語	週４時間	・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。 ・報道されていることを読み取り、起こった出来事をとらえる。
後期課程		4	○現代の国語 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○言語文化 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・読書に親しみ、自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会を理解する。 ・古典の世界に親しみ、作品や文章の歴史的、文化的背景などを理解する。	現代の国語 言語文化	２単位 ２単位	
	サードステージ	5	○文学国語 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味する。 ・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 ○古典探究 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにする。	文学国語 古典探究	２単位 ３単位	
		6	○論理国語 ・読んで広げる。 ・時代や地域で異なる多様な文化を相対的にとらえ尊重するとともに、普遍的真理を追究する態度を育てる。 ・近代、現代を考えさせる小説・評論を読み、時代と人間・社会と人間について話し合って考えを深め、文章に表現する。 ○発展古典、古典演習（選択） ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ○現代文演習（選択） ・現代文や古典の作品を通して、より深く解釈をするとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深める。	論理国語 発展古典 古典演習 現代文演習	２単位 ４単位 ２単位 ２単位	

社会科　６年間の指導計画

目　　標　・「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」として必要な、公民的資質を養う。６年間を通じ各分野の基本的な事項に関する知識・技能を確実に習得させるとともに、分野相互の関連を図り、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心と愛情を身に付けた社会的リーダーとして必要な判断力・表現力を身に付ける。

指導の特徴　○学 校 設 定 科 目…「文化科学Ⅱ（公民）」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
社会的事象に関する基本的な知識と技能を身につける。(その際、一貫教育の特性を生かし、後期課程の理解に不可欠な部分については充分な時間を確保する)。	社会的事象に関する幅広い知識と技能の定着を図る。また、社会事象の原因や背景を考察したり、多面的多角的に追及したりする力を養う。	社会的事象を理解・分析し、課題を解決する総合的な力を身につける。また、それらを分かりやすく表現する能力を培う。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容			履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	○地理的分野 （１） 世界の様々な地域 （２） 日本の様々な地域	○歴史的分野 （１） 歴史のとらえ方 （２） 古代までの日本 （３） 中世の日本 （４） 近世の日本 （５） 近代の日本と世界 （６） 現代の日本と世界		社会	週４時間	＜地理的分野＞ ・地域の規模に応じた調査、身近な地域 ＜歴史的分野＞ ・歴史のとらえかた、身近な地域の歴史を調べる活動 ＜公民的分野＞ ・政治分野：地方自治 ・経済分野：政府の役割 ・地方財政
		2				社会	週３時間	
	セカンドステージ	3	○公民的分野 （１） 私たちと現代社会 （２） 私たちと経済 （３） 私たちと政治 （４） 私たちと国際社会の諸課題			社会	週４時間	
後期課程	セカンドステージ	4	○地理総合（必履修） （１）地図や地理情報システムでとらえる現代社会 （２）国際理解と国際協力 （３）持続的な地域づくりと私たち ○歴史総合（必履修） （１）工業化の進展と国民国家の建設 （２）結び付く世界と日本の開国 （３）帝国主義とアジア諸国の変容 （４）第一次世界大戦と大衆社会 （５）経済危機と第二次世界大戦 （６）第二次世界大戦後の世界と日本 （７）冷戦と植民地化・第三世界の台頭 （８）世界秩序の変容と日本	○公共（必履修） （１）公共の扉 （２）自立した主体としてよりよい社会の形成 （３）持続可能な社会づくりの主体となる私たち ○文化科学Ⅱ （１）法と法学 （２）憲法の意義 （３）財政のしくみ （４）税の歴史と現代の税制 （５）日本の裁判制度と裁判員裁判		地理総合 歴史総合 公共 文化科学Ⅱ	２単位 ２単位 ２単位 １単位	
	サードステージ	5	○世界史探究（選択必修） （１）世界史へのまなざし （２）諸地域の歴史的特質の形成 （３）諸地域の交流・再編 （４）諸地域の結合・変容 （５）地球世界の課題	○日本史探究（選択必修） （１）原始・古代の日本と東アジア （２）中世の日本と世界 （３）近世の日本と世界 （４）近現代の地域・日本と世界	○地理探究（選択必修） （１）自然環境 （２）資源、産業 （３）交通・通信、観光 （４）人口、都市・村落 （５）生活文化、民族・宗教 （６）現代世界の地域区分 （７）現代世界の諸地域 （８）持続可能な国土像の研究	世界史探究 日本史探究 地理探究	４単位 ４単位 ４単位 ※１科目選択	
		6	【選択科目】 発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済			発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済	２単位 ２単位 ４単位 ２単位 ４単位 ２単位 ２単位 ２単位	

数学科　６年間の指導計画

目　　標　数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を以下のとおり３ステージ分けて育成する。

指導の特徴　○習熟度別指導の実施…２学級３展開の授業を実施し、個々に応じたきめ細かな習熟度別指導を行う。

○継 続 的 指 導…精選した内容を系統的、体系的に指導する。

○発 展 的 指 導…中等教育学校の後期課程における指導内容の一部については、前期課程における指導内容に移行させて発展的な学習として指導する。

○学 校 設 定 科 目…「自然科学Ⅰ」を設定し、「日本の文化と幾何学」を題材に、意欲、興味関心を高める課題学習指導を行う。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○数量や図形などについての基礎的な概念や法則を理解する。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能について学ぶ。 ○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	○数量や図形などについての基礎的な概念や法則について理解を深める。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を伸ばす。 ○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭。的確に表現する力を養う。 ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	関連教材	履修科目	週授業数 単位数	
前期課程	ファーストステージ	1	○代数分野 (1) 正の数と負の数 具体的な場面を通して正の数と負の数必要性と意味を理解し、四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。 (2) 文字を用いた式、四則演算 文字を用いることの必要性と意味を理解し、文字を用いた式の計算ができるようにする。また、目的に応じて式を変形したり、数量や数量の関係を捉え説明したりすることができるようにする。 (3) 一元一次方程式、連立二元一次方程式 等式や方程式の必要性と意味について理解し、一元一次方程式や連立二元一次方程式を解くことができるようにするとともに、方程式を具体的な場面で活用することができるようにする。 (4) 比例と反比例 関数関係の意味を理解するとともに、比例や反比例として捉えられる二つ数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、具体的な事象について考察し表現することができるようにする。 (5) データの活用 ヒストグラムや相対度数の必要性と意味を理解するとともに、目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断することができるようにする。 (6) 確率 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。 ○幾何分野 (1) 平面図形 基本的な作図や図形の移動について理解するとともに、扇形の弧の長さや面積の求め方について理解し、これらを具体的な場面で活用することができるようにする。 (2) 空間図形 空間図形についての理解を深めるとともに，基本的な錐体や柱体、球の表面積や体積について理解し、これらを具体的な場面で活用できるようにする。	検定教科書 体系数学 ・１代数編 ・１幾何編 ・２代数編 数学の泉 体系問題集 （発展編） ・１代数編 ・１幾何編 ・２代数編	数学	４時間	

		2	○代数分野 (1) 式の展開と因数分解 具体的な事象の中にある数量について文字を用いた式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。 (2) 平方根 正の数の平方根の必要性と意味について理解し、平方根を含む式の計算をすることができるようにするとともに、具体的な場面で活用することができるようにする。 (3) 一次関数 事象の中にある一次関数として捉えられる二つの数量にについて、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 (4) データの活用 四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解するとともに、これらを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。 (5) 確率 場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解するとともに、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができるようにする。 ○幾何分野 (1) 平面図形の性質 基本的な平面図形の性質を見出し、平行線と角の性質、多角形の角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができるようにする。 (2) 図形の合同 平面図形の合同、三角形の合同条件の意味、証明の必要性と意味及びその方法について理解することができるようにする。 (3) 三角形と四角形 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、新たな性質を見いだしたりすることができるようにする。	検定教科書 体系数学 ・２代数編 ・１幾何編 数学の泉 体系問題集 （発展編） ・２代数編 ・１幾何編	数学	４時間	
			○自然科学Ⅰ　「日本の文化と幾何学」と「データの活用」 (1) 和算や算額の歴史について理解を深めるとともに、算額作りに必要な幾何の諸定理（三平方の定理や円の性質など）を理解し、利用することができるようにする。 (2) 幾何の諸定理を利用して算額を作ったり、仲間の作品を意欲的に鑑賞し、解きあったりすることができるようにする。 (3) データの分析についての理解を深める。	体系数学 ・２代数編 ・２幾何編 数学の泉	自然科学Ⅰ	１時間	
	セカンドステージ	3	○代数分野 (1) 二次方程式 二次方程式の必要性と意味を理解し、因数分解や平方根の考えを基にして二次方程式を解くことができるようにするとともに、具体的な場面で二次方程式活用できるようにする。 (2) 関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにするとともに、具体的な事象を捉え考察し表現することができるようにする。 (3) 標本調査 標本調査の必要性と意味を理解するとともに、コンピュータを用いて標本調査の実験を行い、母集団の傾向を推定し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したりすることができるようにする。 ○幾何分野 (1) 図形の相似 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解するとともに、三角形の相似条件を基にして図形の性質を論理的に考察し表現したり、新たな定理を見いだしそれを活用したりすることができるようにする。 また、基本的な立体の意味を理解するとともに、相似比と面積比や体積比との関係にについて理解し活用することができるようにする。 (2) 円周角と中心角 円周角と中心角の関係の意味を理解し証明ができるようにするとともに、具体的な場面で活用できるようにする。 (3) 平面図形の探究 三角形の性質や円の性質など平面図形に関する基本的な性質や定理についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。	検定教科書 体系数学 ・２代数編 ・２幾何編 数学の泉 体系問題集 （発展編） ・２代数編 ・２幾何編	数学	４時間	
			○数学Ⅰ (1) 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また，式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	数学Ⅰ 体系数学３	数学Ⅰ	３単位	

後期課程		4	(2) 二次関数 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (3) 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 (5) いろいろな式（数学Ⅱ） 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	数式・関数編 論理・確率編 数学Ⅰ 体系数学3 論理・確率編			
			○数学A (1) 場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (2) 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 (3) 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。（復習）	数学A 体系数学3 論理・確率編	数学A	2単位	
	サードステージ	5	○数学Ⅱ (1) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現しその有用性を認識するとともに事象の考察に活用できるようにする。 (2) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (3) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (4) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	数学Ⅱ 体系数学5	数学Ⅱ	4単位	
			○数学B (1) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (2) 統計的な推測 確率の理論を統計に応用し、区間推定と仮説検定の方法を理解するとともに、母集団の特徴や傾向を推測し判断できるようにする。	数学B	数学B	2単位	
			○数学C (1) ベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	数学C	数学C	1単位	
		6	○数学Ⅲ（選択） (1) 平面上の曲線と複素数平面 平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (2) 極限 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (3) 微分法 微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。 (4) 積分法 積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	数学Ⅲ	数学Ⅲ	6単位	
			○数学Ⅰ（選択） 数学Ⅰ、数学Aの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。	数Ⅰ・A	数学Ⅰ	2単位	
			○数学Ⅱ（選択） 数学Ⅱ、数学Bの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。	数Ⅱ・B	数学Ⅱ	2単位	
			○数学Ⅱ（応用）（選択） ・数学Ⅱ、数学Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通じて、大学入試における得点力向上を目指す。	数学Ⅱ・B	数学Ⅱ	2単位	

理科　６年間の指導計画

目　　標　・自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探究する力を身につける。
　　・「社会的リーダー」として必要な、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を身につける。
指導の特徴　○学 校 設 定 科 目…「自然科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
身のまわりの現象に実験や観察を通して触れることで、自然に対する興味・関心を深める。 科学的探究を行うための基本的な能力や態度を育てる。	自然に対する疑問を持ち、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる。 自然と人との関わり合いや共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。	専門性の高い授業を展開するとともに、各科目間を横断的に考える力も育てる 個々の生徒の興味・関心に応じて科目を選択できるようにする。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容				履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	物理分野 身近な物理現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	化学分野 物質のすがた ・いろいろな物質 ・気体の発生と性質 ・物質の状態変化 ・水溶液	生物分野 生物の世界 ・身近な生物の観察 ・植物のなかま ・動物のなかま	地学分野 大地の変化 ・火山 ・地震 ・地層 ・大地の変動	理科	週３時間	・硬貨の密度から物質を特定する。 ・さまざまな細胞を観察し、その共通点、相違点を知る。
		2	物理分野 電流とその利用 ・電流と回路 ・電流と磁界 ・電流の正体	化学分野 化学変化と原子､分子 ・物質の成り立ち ･いろいろな化学反応 ･化学変化と熱の出入り ･化学変化と物質の質量	生物分野 生物のからだのつくりとはたらき ・生物をつくる細胞 ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき	地学分野 気象のしくみと天気の変化 ・気象観測 ・気圧と風 ・天気の変化 ・日本の気象	理科	週４時間	・毎日の天気予報を聞いたり、見たりして明日の天気を予報する。
	セカンドステージ	3	物理分野 運動とエネルギー ・力の合成と分解 ・水中の物体に加わる力 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー	化学分野 化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・化学変化と電池 ・酸、アルカリとイオン	生物分野 生命のつながり ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	地学分野 地球と宇宙 ・天体の動き ・月と惑星の運動 ・宇宙の中の地球	理科	週４時間	・リニアモーターカーの仕組みを知る。 ・デジタルカメラを用いて、物体の運動を記録する。
			自然界のつながり ・生物同士のつながり ・自然界を循環する物質 地球の明るいみたいのために ・自然環境と人間 ・科学技術と人間 ・これからの私たちのくらし						
			○自然科学Ⅱ ・我々をとりまく科学の探求 ・科学者やノーベル賞受賞者の調査 ・JAXA や国立天文台との連携授業 ・化学、生物のプレ学習				自然科学Ⅱ	週１時間	

課程	ステージ	学年	目標と学習内容		履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
後期課程	セカンドステージ	4	○化学基礎　物質の構造と化学変化を理解する 物質の構成 ・物質の探求 ・物質の構成粒子 物質と化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 物質の変化 ・物質量と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応	○生物基礎　遺伝・生体内の環境・生態系について理解する 生物と遺伝子 ・生物の特徴 ・遺伝子とその働き 生物の体内環境の維持 ・生物の体内環境 生物の多様性と生態系 ・植生の多様性と分布 ・生態系とその保全	化学基礎 生物基礎	2単位 2単位	
	サードステージ	5	○物理基礎　運動とエネルギー、その他物理現象についての理解 物体の運動とエネルギー ・運動の表し方 ・様々な力とその働き ・力学的エネルギー 様々な物理現象とエネルギーの利用 ・熱 ・波動 ・電気 ・エネルギーとその利用 ・様々な物理現象	○化学　物質の状態・物質の性質と反応の理解 物質の変化と平衡 ・化学反応とエネルギー 無機物質 ・非金属元素 ・金属元素 有機化合物 ・有機化合物の特徴と分類 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物 ・構造式の決定 ○地学基礎 ・地球の構造 ・地層の形成 ・地球の環境 ・太陽系と宇宙	物理基礎 化学 地学基礎	2単位 2単位 2単位	
		6	○物理　様々な運動・電磁気の理解　原子構造理解 様々な運動 ・平面運動、剛体、運動量、円運動 単振動、万有引力、気体分子運動 波動 電気と磁気 原子の物理学 ○化学　気体・固体の性質　平衡についての理解 物質の状態と平衡 ・気体の性質 ・固体の構造 ・溶液 物質の変化と平衡 ・反応の速さとしくみ ・化学平衡 ・高分子化合物の性質と利用 ・天然高分子化合物 ○生物　生命現象・生殖・環境・進化についての理解 ・生命現象と物質 ・遺伝子の発現制御 ・生殖と発生 ・生物の環境応答 ・生態と環境 ・生物の進化と系統	○物理演習　物理全般の復習 国公立２次、私大一般入試の問題演習 ○化学基礎演習　化学基礎全般の復習 大学入学共通テストへの演習 ○生物演習　生物全般の復習 国公立２次、私大一般入試の問題演習	物理 物理演習 化学 化学基礎演習 生物 生物演習	4単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位	

音楽科　６年間の指導計画

目　　標　○ 様々な表現活動の練習や発表の機会を通して、音楽を愛好する心情を育て、豊かな音楽表現の力を身につける。

○ 幅広い鑑賞活動を通じて、音楽を味わい、理解し、深く感受する力を養う。

○ 様々な音楽に触れ、幅広い情操教養を身につけることで、生涯音楽に関わっていく態度を育成する。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】
・音楽表現に必要な基礎的な力を身につける。	・音楽表現に必要な幅広い力を高める。
・音楽鑑賞に必要な基礎的な能力を身につける。	・作品の背景や他の芸術とのつながりを理解し、幅広い鑑賞の力をつける。
・合唱活動を通し、集団で音楽を作り上げる楽しさを味わわせる。	・小グループによる創作的な音楽作りや即興的演奏活動をする。
・独唱や独奏発表を数多く経験させ、個人の表現力を高める。	・アンサンブル活動を通し、集団で取り組む音楽表現の創意・工夫をする。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	・　合唱曲とパートの役割 ・　合唱の響きと表現① ・　詩と音楽の関わり ・　和楽器の演奏①② ・　音楽の要素とイメージのつながり ・　器楽作品の演奏①② ・　日本の音楽① ・　独唱曲① ・　次年度の合唱に向けて①		音楽	週１時間
		2	・　合唱曲とパートの役割 ・　合唱の響きと表現② ・　楽曲の形式 ・　和楽器の演奏③ ・　独唱曲②③ ・　器楽作品の演奏③ ・　絵画と音楽の結びつき ・　日本の音楽② ・　次年度の合唱に向けて②		音楽	週１時間
	セカンドステージ	3	・　合唱曲とパートの役割 ・　合唱の響きと表現③ ・　楽曲の構成 ・　器楽作品の演奏④⑤ ・　作者の思いや時代背景と音楽の結びつき ・　日本の音楽③ ・　独唱曲④ ・　次年度の合唱に向けて③		音楽	週１時間
後期課程		4	・　合唱曲とパートの役割 ・　合唱の響きと表現④ ・　独唱曲⑤⑥ ・　作品と音楽史・鑑賞①②③ ・　器楽作品の演奏⑥⑦ ・　表現・理論のまとめ ・　歌唱まとめ		芸術選択 音楽Ⅰ	２単位

美術科　６年間の指導計画

目　　標　・６年間の継続した美術の表現及び鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う。

○ 創造する力と発想を表現へとつなげる力の伸長を目指す。
○ 豊かに発想し、表現力をつけるための技能・技術力の伸長を目指す。
○ 過去から現代にいたる日本及び世界の文化に対する知識と鑑賞力を育成する。
○ 教科外での貢献や学習や生活の中でも活用できる程度の美術の知識及び技能を、思考力・判断力・表現力をもって身に付ける。
○ 生活や社会の中で想像力や表現力を生かし、試行錯誤、調整力をもって生きていけるようにする。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
様々な素材を扱い、対象を観察する力、発想し構成する力や基礎的技能を身につける。美術作品などについて基礎的な理解を広げる。	基礎的表現力、鑑賞力をもとに幅広い視野で、見通しを持ちながら表現活動を目指す。日本及び世界の文化の知識を育成し美術を通した国際理解を深める。	より深い自己の追及により個性豊かな表現力を高める。鑑賞力の育成をめざし生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性と美意識を深める。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	１．対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ２．自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かなに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 ３．楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A　表現（絵・デザイン・色の学習・レタリング・版画・彫刻）B　鑑賞　　共通事項	・展示発表	美術	週１時間
		2	１．対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ２．自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かなに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ３．主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A　表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸）B　鑑賞　　共通事項	・展示発表	美術	週１時間
	セカンドステージ	3	１．対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ２．自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かなに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ３．主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A　表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸）B　鑑賞　　共通事項	・展示発表	美術	週１時間
後期課程		4	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 １．対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。 ２．造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ３．主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 A　表現（絵画・デザイン・彫刻・映像メディア・工芸）B　鑑賞	・展示発表	芸術選択 美術Ⅰ	２単位
	サードステージ	5				
		6	芸術を通し、社会人・教養人として基礎を完成させる。 ○前期（各自のテーマにそって作品制作）　○後期（卒業制作・鑑賞）	・展示発表 ・受験対策	選択科目	２単位

書写・書道　６年間の指導計画

目　　標　・書写・書道の学習活動を通し、思考力、判断力、表現力を養い、生活や学習に生かす態度を育成する。また書写から書道への円滑な接続を図ることで書美への関心を高め、表現や鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統や文化を尊重する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
書写の基礎・基本の習得および書字過程を重視した学習活動を通して、思考力や判断力、表現力を養う。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる能力を育成する。	文字が果たす役割や文化としての意義について理解することで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養う。また、書道の幅広い活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を育成し、書の伝統や文化についての理解を深める。	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する態度を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	1. 文字の基礎的知識の理解 ・漢字や仮名の由来 2. 書写(毛筆)の基礎・基本の習得 ・執筆・姿勢 ・用具・用材 ・筆使い ・筆順 3. 文、文章の書き方 ・字形や大小の捉え方 ・漢字と仮名の調和および配列 ・硬・毛関連学習	・展示発表	書写	週1時間
		2	1. 行書の書き方の習得 ・行書の特徴 ①速書き、筆脈 ②点画の連続 ③払い、はね、筆順の変化 ④点画の省略 2. 行書とそれに調和した仮名の書き方の理解 3. 多様な書字場面への活用 ・目的や必要に応じた筆記具や書体(楷書又は行書)の選択	・展示発表	書写	週1時間
	セカンドステージ	3	1. 文字の役割を考える ・身のまわりの多様な文字の発見 ・文字を手書き文字することの意義 ・文字の伝達性と表現性 2. 文字文化としての意義を考える ・伝統的な書式（手紙、慶弔袋等） ・文字の表現性と芸術性についての探究（毛筆による書簡や名跡・名筆等）	・展示発表	書写	週1時間
後期課程		4	1. 書道の学習目標の理解 ・書写と書道 ・表現と鑑賞 2. 漢字の書 ・書体の変遷 ・基本用筆の習得 ・古典の鑑賞　・字形と線質の関係 ・創作（イメージ書）への活用 3. 文化祭展示 ・伝統的な表現形態の理解（裏打ち） ・展示鑑賞 4. 仮名の書 ・成立と種類　・基本用筆の習得 ・単体と連綿　・古筆の鑑賞と変体仮名の効用 ・散らし書きと余白美　・創作への活用 5. 漢字仮名交じりの書(共同制作) ・創作法 ・自分達の今を表す言葉を考える ・意図に基づく表現の構想と工夫 ・これまでの書の学習を生かした作品制作	・展示発表 (美術館鑑賞)	芸術選択 書道Ⅰ	2単位
	サードステージ	5 6	1. 篆刻 ・印の歴史と篆書 ・印の効用 ・姓名印作成 2. 多様な書の美についての探究 ・漢字の書　古典の鑑賞 ・仮名の書　古筆の鑑賞 ・書の美の諸要素と表現効果 ・生活に生かす 3. 自主研究 ・自らの興味、関心に沿ったテーマ別研究および作品制作	・展示発表	選択科目 書道Ⅰ＊	2単位

＊６年の選択科目は教育課程の都合上、設置しないこともある。

保健体育科　６年間の指導計画

目　　標　・健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育成する。また、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
・幅広い運動経験 ・適切な健康管理と基礎的な体力の向上 ・積極的に運動し親しむ資質や能力の育成 ・運動や健康・安全についての理解	・健康保持増進のための実践力育成と体力向上 ・各種運動の特性の理解と運動技能の向上 ・公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成	・自主的な計画立案と運営 ・生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上 ・継続的に運動を実践する資質や能力の育成 ・公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化

課程	ステージ	学年	目標と学習内容			留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技	・器械運動 ・武道 ・ダンス	○体育理論 ・運動やスポーツの多様性 ○保健 ・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康		保健体育	週３時間
			各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。					
		2	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技	・器械運動 ・武道	○体育理論 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 ○保健 ・健康な生活と疾病の予防 ・傷害の防止		保健体育	週３時間
			各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。					
	セカンドステージ	3	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技	・ダンス	○体育理論 ・文化としてのスポーツの意義 ○保健 ・健康な生活と疾病の予防 ・健康と環境		保健体育	週３時間
			健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。					
後期課程		4	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技		○体育理論 ○保健 ・現代社会と健康 ・安全な社会生活		体育 保健	２単位 １単位
			健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。					
	サードステージ	5	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技		○体育理論 ○保健 ・生涯を通じる健康 ・社会生活と健康		体育 保健	２単位 １単位
			生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上を目指すと共に、継続的に運動を実践する資質や能力を育成し、運動における公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。					
		6	○体育 ・体つくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技		○体育理論	種目選択による授業	体育	３単位
			各種目について、自主的な計画立案と運営を行う態度を育成し、生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上、及び、公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。					

技術・家庭・情報科　６年間の指導計画

目　　標　【技術分野】

体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータ活用に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際の生活に活用できる能力と態度を身につける。

【家庭分野】

生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識と技術を習得し、毎日の生活に活用できる能力と態度を身につけるだけでなく、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見出しその課題を解決する過程を重視する。この力は、社会の一員として、リーダーとして、これからを展望し持続可能な社会を構成する一員としての基礎力になっていく。

【情報】

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。

(1)　情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

(2)　様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

(3)　情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○技術に関する基礎的な知識と技術の習得		
○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。		○生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成。
○情報とコンピュータに関する基礎的な知識と技術の習得	○情報とコンピュータに関して、情報活用能力の基礎を養う	○情報とコンピュータに関して、生活と社会に応用する知識と技術の習得

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	○技術分野 Ａ材料と加工に関する技術 Ｂエネルギー変換に関する技術 Ｃ生物育成に関する技術 Ｄ情報に関する技術 　情報とコンピュータの基礎 　情報とコンピュータと私たちの生活 ○家庭分野 Ａ家族・家庭生活 Ｂ衣食住の生活 Ｃ消費生活・環境 Ｄ生活の課題と実践	・技術分野及び家庭分野の授業時数については、３学年間を見通した全体的な指導に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させる。 ・様々な学習で、コンピュータを活用することができるようになる。 ・セキュリティ・発達の段階に応じた情報モラルの指導	技術・家庭	週２時間
		2			技術・家庭	週２時間
	セカンドステージ	3			技術・家庭	週１時間
後期課程		4	○情報社会の問題解決 ○コミュニケーションと情報デザイン ○コンピュータとプログラミング ○情報通信ネットワークとデータの活用	セキュリティ・情報モラルの指導・プログラミング教育の推進・マルチメディアの適切な取り扱い	情報Ⅰ	２単位
	サードステージ	5	○人の一生と家族・家庭及び福祉 ○衣食住の生活の自立と設計 ○持続可能な消費生活・環境 ○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ ○情報 　他教科の学習への活用	社会の一員としてこれからを展望し持続可能な社会の構築する姿勢を身に着ける情報活用能力の育成を重視した他教科との連携指導	家庭基礎	２単位
		6	○情報社会の進展と情報技術 ○コミュケーションとコンテンツ ○情報とデータサイエンス ○情報システムとプログラミング ○情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報Ⅱは、情報Ⅰの基礎の上に、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や、コンテンツを創造する力を育む。	情報Ⅱ	２単位

英語科６年間の指導計画

目標・国際社会でツールとして使用できる英語力を身につける。
指導の特徴〇少人数授業の実施…基礎・基本の充実。生涯学習の観点からの学習習慣の確立
〇細かい目標設定による学力の把握・・・実用英語技能検定、GTEC 等の活用
〇外国人英語指導助手の活用による運用体験・・・JET・ALT とのティーム・ティーチングの活用
〇複数学年にわたる継続的指導・・・リスニング・多読等による実践的な地力の向上
〇学校設定科目…「文化科学Ⅲ（原典購読）」の設置指導の特徴　〇学 校 設 定 科 目…「文化科学Ⅲ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
〇積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 〇自学自習の方法と習慣を身につける。	〇実践的能力を身につけ、異文化を理解する力を育てる。	〇多様な意見や考えの受信・発信を通じて、世界と積極的に関わる力を育てる。

課程	ステージ	学年	学習内容	学校行事との関連	関連教材 時間数	英検取得目標	GTEC による CEFRJ level 目標
前期課程	ファーストステージ	1	・be 動詞、一般動詞 ・命令文 ・can を用いた文 ・３人称単数 ・疑問詞 を用いた疑問文 ・現在進行形 ・過去形 ・過去進行形 ・未来を表わす表現	スピーチ・コンテスト 校内留学（全員）	NEW TREASURE STAGE 1 英語 週４時間	４級	A1-2（60%）
		2	There is 構文 ・比較 ・助動詞 ・副詞節を導く接続詞 ・接続詞 that ・文型 ・不定詞 ・動名詞 ・受動態 ・現在完了	スキット・コンテスト 校内留学（希望者）	NEW TREASURE STAGE １・２ 英 語 週４時間	３級	A1-3（60%）
	セカンドステージ	3	・名詞、不定代名詞、前置詞 ・後置修飾、分詞 ・関係代名詞　・仮定法 ・比較表現 ・間接疑問文・完了形 ・知覚、使役動詞 ・関係代名詞・関係副詞 ・過去完了 ・オンライン英会話	スペリング・コンテスト 校内留学（希望者） 日本文化のプレゼンテーション 海外ボランティア研修（希望者） ディベート大会	NEW TREASURE STAGE ２・３ 英語 週４時間	準２級	A2-1(69%)
後期課程		4	・副詞節　　・名詞節 ・不定詞　　・分詞、 ・分詞構文　・仮定法 ・動名詞 ・比較 ・話法 ・時制の一致 ・強調・倒置 ・オンライン英会話	英語劇発表 海外ボランティア研修(希望者)	コミュニケーション 英語　３単位 論理・表現Ⅰ　２単位	準２ 級 ２級	A2-2(69%)
	サードステージ	5	・ディベート ・より高度な 4 技能のトレーニング ・オンライン英会話	海外修学旅行	コミュニケーション 英語５単位 論理・表現Ⅱ 2 単位 文化科学Ⅲ（原典講読）１単位	２級	B1-1(59%)
		6	・より高度な 4 技能のトレーニング	グローバル遠足	コミュニケーション 英語３ 単位 英語表現２単位 コミュニケーション 英語 （選択科目）　２単位	２級 準１級	B1-1(69%)

総合的な学習の時間　６年間の指導計画

目　　標　・人生設計学と称し、自ら調べ、話し合い、発表等を通して豊かな人間性を育てる。一般常識、礼儀作法、ルール、マナー、討論の基礎等を学習し、職場体験やボランティア体験などの体験活動を通して実践力やコミュニケーションの力を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な基礎的、基本的な資質や能力を育てる。	○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な、より実践的な資質や能力を育てる。	○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するのに必要な、より高度で実践的な資質や能力を育てる。

課程	ステージ	学年	活動内容				授業時数	学校行事	学年行事	進路学習
前期課程	ファーストステージ	1	○思いやり・人間愛 ・講演会 ・グループ体験 ○校外学習		○個人課題解決学習 ＊職業調べⅠ ・働くことの意義 ・職場見学		５０時間	入学式 生徒会・部活紹介 生徒会役員選挙 生徒総会 鷹校祭 ・文化祭 ・体育祭 合唱祭 卒業式	○校外学習 ○百人一首大会	○職業研究 ・働くことについて ・職場見学 ○自分自身について知る
		2	○思いやり・人間愛 農業体験 ・ボランティア活動の一環 ・自然と触れ合い、日本の農業について学習する。 ○伝統文化体験		○個人課題解決学習 ＊職業調べⅡ ・職業について知る ・職場体験 ・各企業、事業所にて実施		７０時間		○校外学習 ・農業体験 ○職場体験 ○百人一首大会	○職業研究 ・農業体験 ・職場体験 ・職業について研究を深める ○どんな人間になりたいか
	セカンドステージ	3	○思いやり・人間愛 中学生ができるボランティア体験 ○伝統文化体験 ・能楽体験 ・京都伝統文化体験		○個人課題解決学習 ＊職業調べⅢ ・大学研究 ・学部学科研究 ＊課題学習Ⅰ ・社会とかかわりながら学ぶ		７０時間		○大学研究 ○都内巡り遠足 ○研修旅行(京都・奈良)	○職業研究 ・職業と学部、学科の関連 ・職業と大学の関連 ○どんな職業に就きたいか ○自分の社会参加について考える
後期課程		4	○人間関係形成能力 ＊奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成 ・奉仕活動 ・奉仕活動実践報告 ＊プレゼンテーション能力の育成	○情報活用能力 ＊発表活動による学習成果の共有 ＊職業調べⅣ ・職業、資格研究	○将来設計能力 ＊大学と職業の関係調べ ・学部、学科研究 ＊将来設計プランの策定 ＊進路適性検査	○意思決定能力 ＊課題学習Ⅱ ・セカンドステージ探究 ・セカンドステージ探究発表	３５時間		○高大連携校への授業参加 ○奉仕実践報告会	○大学模擬授業 ○職業研究 ・職業、資格研究 ・学部、学科研究
	サードステージ	5	○人間関係形成能力 ＊プレゼンテーション能力の育成 ＊自文化理解 ＊海外修学旅行 ・国際理解の一環として、海外修学旅行先の台湾の地理、歴史、文化について学習する	○情報活用能力 ＊発表活動による学習成果の共有 ＊大学研究	○将来設計能力 ＊各界リーダーを招いての講演会 ＊進路講演会 ＊進路適性検査 ＊進路希望調査	○意思決定能力 ＊大学模擬授業 ＊サードステージ探究	３５時間		○修学旅行(海外) ○高大連携校への授業参加	○大学模擬授業
		6	○人間関係形成能力 ＊プレゼンテーション能力の育成	○情報活用能力 ＊発表活動による学習成果の共有	○将来設計能力 ＊進路希望調査	○意思決定能力 ＊大学模擬授業 ＊サードステージ探究 ＊サードステージ探究発表 ＊在卒懇談会	３５時間		○グローバル遠足 ○高大連携校への授業参加 ○在卒懇談会	○大学模擬授業

道徳　６年間の指導計画

目　　標　・道徳の時間を中心に、他人を思いやる心と互いに助け合う心をはぐくむとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。また、自己の生き方、在り方を考えさせるとともに、地域や社会、ひいては世界の平和や人類の幸福に貢献する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
「思いやり」と「勤労」	「責任」と「奉仕」	社会的リーダーとしての「奉仕」と「社会貢献」

課程	ステージ	学年	学習内容	学校特設科目・学校行事などとの関連
前期課程	ファーストステージ	1	○望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもち、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。 ○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するとともに、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	文化一般：情操の育成 文化科学Ⅰ：話し合い、心情理解力 校外学習：団結力、協力、環境保全
		2	○礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとるとともに、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝しそれにこたえる。 ○社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方がることを理解して、寛容の心をもち謙虚に学ぶ。	自然科学Ⅰ：論理的思考力 校外学習：農業体験、持続可能な生態系利用 職場体験：勤労意識の向上、郷土愛
	セカンドステージ	3	○自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持ち、真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるよう努める。 ○自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 ○世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。	自然科学Ⅱ：科学的な見方、考え方 研修旅行：伝統文化理解
後期課程		4	○自他の尊重と自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上と、よりよい校風をつくるとともに、他者や異性、ジェンダーフリーについての理解を深め、相手の人権を尊重する態度を身につける。 ○郷土や自然を愛する心を養い、進んでボランティア活動や自治的な活動に取り組み、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、理解を深める。 ○望ましい生活習慣及び節度ある生活ができるように自主的に計画を立て実践し、自己を見つめて自己の向上を図るとともに、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○国際社会の一員として、国家の発展に努めるとともに、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 ○家族への敬愛と感謝の念を深め、家族の一員としての自覚を持って、充実した家庭生活を築くとともに、生命のつながりについても、理解を深める。 ○より高い目標を目指し、希望と勇気を持って着実にやり抜く強い意志を持つともに、人間としての在り方生き方についても考える。	文化科学Ⅱ：社会連帯、公正公平、権利と義務 総合的な学習「奉仕」：相互扶助、公徳心
	サードステージ	5		修学旅行（移動教室）：異文化理解 総合的な学習：個性の伸長、個性の尊重
		6		文化科学Ⅳ：国際理解、異文化理解 総合的な学習：理想社会の実現

キャリア教育　６年間の指導計画

目　　標　・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成するとともに、「総合的な学習の時間」を中心に、さまざまな体験的学習を行い、自己の将来のあり方について目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき大学・学部等を選択する力を身につける。 社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を身につける。

各ステージの目標

ファースト（１・２年）【基礎力養成期】	セカンド（３・４年）【活動実践期】	サード（５・６年）【応用発展期】
○体験的学習を通して、地域社会と自分とのかかわりを学び、職業観、勤労観を育成する。 ○自己の適性や能力を理解し、また自分の周りの仲間について理解し、人間関係形成能力を高める。	○人間の生き方について学ぶとともに、自己の適性について理解を深める。 ○進路についての情報収集と活用により、自己の将来の進路について考察する。	○卒業後の生き方を見すえて、進路目標を決定する。 ○自己の適性を考慮し、進路実現に向けて具体的な準備を進めるとともに、６年一貫教育のまとめを行う。

課程	ステージ	学年	進路学習との関連場面			学年行事	備　考
			【 総合的な学習の時間 】 ・プレゼンテーション能力の育成① ・グループによる協働① ・発表活動による学習成果の共有②	【特別活動】	【教科】		
前期課程	ファーストステージ	1	・働くことについて③ ・職業について②③ ・職場見学③④ ・自分や仲間のことを知る① 職業研究	・校外学習① ・個人面談④ 合唱祭① 体育祭① 文化祭①②③ ホームルーム① 移動教室　事前学習② 部活動①③ 球技大会① 生徒会、委員会活動③ セーフティ教室③ 進路説明会④ オープンキャンパス④	グループ学習① 実験、実習① コミュニケーション能力の育成① 情報の整理と活用② 理論的思考力の開発② 学力推移調査② 生活、家庭、保育の学習③ 言語能力と情操の育成③ 社会参加意識の啓発③ 卒業後を見すえた科目の選択④ 思考力と意思決定能力の育成④ 図書館の活用②	・校外学習 ・職場見学	・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
		2	・職業について研究を深める② ・職場体験③④ ・農業体験① ・地域と接して学ぶ② ・ステージ探究発表会②③	・農業体験①③ ・個人面談④		・職場体験 ・農業体験	・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
	セカンドステージ	3	・学部学科研究② ・大学訪問②④ ・社会とかかわりながら学ぶ② 大学訪問	・個人面談④ ・研修旅行②		・大学訪問 ・研修旅行（関西方面）	・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
後期課程		4	・高大連携、大学模擬授業④ ・進路希望調査③ ・奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成① ・ステージ探究発表会②③	・個人面談④ ・勉強合宿②		・奉仕実践報告会 ・高大連携校への授業参加 ・勉強合宿	・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書
	サードステージ	5	・高大連携、大学模擬授業④ ・将来設計プランの作成③④ ・進路希望調査③	・個人面談④ ・海外修学旅行② ・勉強合宿②		・海外修学旅行 ・高大連携校への授業参加 ・勉強合宿	・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書
		6	・大学模擬講義④ ・大学別進路ガイダンス② ・分野別進路ガイダンス② ・進路講演会③ ・進路希望調査③ ・在校生卒業生懇談会④ ・ステージ探究発表会②③ 進路の実現	・個人、三者面談④		・在卒懇談会 ・高大連携校への授業参加	・放課後、土曜、夏・冬期補習 ・学力診断テスト ・朝学習

東京都立三鷹中等教育学校　道徳教育全体計画

【法的根拠】
日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

学校の教育目標
社会的リーダーとしての資質をもつ生徒を育成するため、次の教育目標を定める。
① 互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心をもった豊かな人間性を養う。
② 高い見識と幅広い視野を培う。
③ 自立と共生の精神を養う。

【地域の実情】 穏やかな地域
【学校の実情】 国際交流が盛ん
【子供の実態】 学習意欲が高い
【教師の願い】 思いやりの心をもった社会的リーダーの育成
【保護者の願い】生活面と学習面の両立

学校の道徳教育の重点目標
思いやり・人間愛（ヒューマニティ）を主題に、社会的リーダーとして必要な判断力と行動力、思いやりの心を育成する。

各学年の指導の重点

第1学年
中学生としての自覚をもち、豊かな人間性を養う。

第2学年
2年生としての自覚をもち、思いやりのある人間関係を築く。

第3学年
より高い目標に向かって理想の実現を目指す。

各教科

国語
言語感覚を養い国語を愛する心を育てる。

社会
我が国の国土・歴史に愛情をもち、公民的な資質の基礎を培う。

数学
数学的なものの見方や考え方の良さを生活に生かす態度を養う。

理科
自然に対する関心を高め、科学的な考え方を養う。

音楽
表現・鑑賞を通して音楽的な情操を養う。

美術
表現・鑑賞を通して美的な情操を養う。

技術・家庭
生活と技術との関わりを通し、進んで生活を工夫する態度を養う。

保健体育
運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

外国語
外国の言語や文化に関心をもち、進んで交流する態度を養う。

選択

その他特に必要な教科
社会的リーダーを育成するため、高い見識と思いやりを養う。（探究等）

補充・深化・統合

特別の教科　道徳

各学年の重点内容項目
1年
「思いやり」
・望ましい生活習慣の育成
・他人への思いやりと信頼
・生命尊重と自然愛護
2年
「勤労」
・礼儀作法の意義と感謝の精神
・郷土愛と勤労の尊さ
・向上心と個性の伸長
3年
「責任」
・自主・自律の精神
・法や決まりの理解と遵守
・集団生活の向上
・世界平和と人類の幸福への貢献

指導方針
・生徒一人一人の個性を尊重しながら、可能性を伸ばしていく指導
・生徒の道徳的な実践力を伸ばすため、各教科・特別活動との密接な連携

指導の工夫
・教材にある読み聞かせや朗読を利用するとともに、VTRやCDなどの視聴覚教材の利用を推進し、課題について生徒に十分理解させ、課題整理や課題解決の能力を育成する。
・生徒の体験や日常の出来事など身近な話題を多く取り入れたり、ICTを利用したり、理解しやすい教材を用い、具体的・積極的に生徒が自らの意見を述べ、円滑に議論できる条件や環境を設定する。

補充・深化・統合

特別活動

学級活動
教師と生徒、生徒相互の理解を深め、互いに尊重する態度を育成する。

生徒会活動
自主的な活動を重んじ、進んで公共のために奉仕する態度を養う。

学校行事
集団の一員として自覚をもち、規律ある集団生活を築くとともに、助け合い

総合的な学習の時間

・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

生活指導
・思いやりの心をもてる集団を育成する。
・健康で安全な学校生活が送れるよう集団を育成する。

環境整備
・豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境を整備する。
・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係を育てる。
・図書館の整備、充実に努める。

家庭・地域との連携
・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

推進体制
・道徳教育推進教師を中心に、各教科・各部と連携し、推進する。
道徳授業地区公開講座を活用し、授業の在り方や他教科との連携について研究する。

特別活動全体計画

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
郷数委の数育目標

【学校の教育目標】
＊互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心を持った豊かな人間性を養う
＊高い見識と幅広い視野を培う
＊自立と共生の精神を養う

【学校・地域の実態】
・学習意欲が高い
・落ち着いている
・部活動や行事が盛ん
【保護者の願い】
・充実した進路指導
・いじめ等のない安心できる学校

【教科指導の重点】

国語
読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の学習に継続的に取り組み、国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成する

社会
社会科学の基礎的な知識の確実な習得に努め、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心を身に付けさ

数学
習熟の程度に応じた授業を実施し、発展的な内容や基本的な概念、原理・法則を理解させ、数学的な表現や処理の仕方を習得させる

理科
自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探求する力と、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる

音楽
音楽を深く感受する力を養い、個性的で豊かな表現に必要な音楽技術を身につけ、自己表現力を高める

美術
生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う

情報・家庭
体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用、自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技能を習得し、実際に活用できる能力と態度を育てる

保健体育
健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質、能力と、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成

外国語
習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ＡＬＴを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る

【学校像】
①教養教育により広く深い教養、知性を培う学校
②世界的視野をはぐくむ学校
③豊かな人間性を育成し、望ましい職業観・勤労観を涵養する学校
④一人一人の生徒の進路希望を実現する学校
⑤地域社会とともに歩む学校
⑥生徒が切磋琢磨する活力ある学校

【育てたい生徒像】
① 社会的リーダーを目指す生徒
② 学習活動と、特別活動・部活動等の両立を目指し、限界までチャレンジする生徒
③ 幅広い視野を持ち、すべての教科を意欲的に学習する生徒
④ 高い目標を持ち最後まで努力する生徒
⑤ 自主的、意欲的に取り組む生徒

【特別活動】
①各学級の班活動や係活動を重視し、自己と他、集団との関わりを尊重する態度を育成する。生徒の自主性・自発性を重んじ、与えられた責任、使命を自覚できる人間に育てる。
②生徒会、委員会、学級活動相互の連携を図り、学校行事の企画・立案・運営に主体的・自主的に関わる態度を育てる。異年齢集団との関わりの中から、集団との関わり方を学習し、達成感や成就感を実感させる。
③部活動等の異年齢集団における継続的な活動において、目的を共有し互いに切磋琢磨することで、互いを尊重し合う豊かな人間関係を育て、個性や能力の伸長を図る。
④集団への帰属意識の高まりや、学校生活の充実と発展を促す学校行事を実施し、異年齢集団における交流を深め、思いや

【総合的な学習の時間】
①将来の在り方生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を育むために「人生設計学」を設定し、系統的なキャリア教育を展開しながら、進路希望を実現させる。
②ボランティア活動や校外学習等の体験的活動を通して、実践力、コミュニケーション能力を育成し、思いやりの心と人間関係形成能力を培う。
③自らの生き方と職業との関わりを考えさせ、職場見学や職場体験、講演会等の体験的学習等を計画的に行いながら、望ましい勤労観・職業観を育成する。
④自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、各ステージのまとめの論文の作

【道徳教育の指導】
①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。
②年間３５時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。
③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動な

【生活指導】
①あいさつの励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナー、規範意識の育成等、きめ細かく規律ある生活指導を通して、社会性、協調性、規範意識などを育成する。
②生活指導全体計画に基づいて全教職員が協力した、生徒の発達段階に応じた生活指導を行い、基本的な生活習慣や生活態度を身に付けさせる。

【ＨＲ活動】
学級を単位として、学級や学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。
(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること
(2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること
(3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること

【生徒会活動】
学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動を行うこと。
学校生活の充実、改善向上を図る活動：生徒総会(5 月)
学校行事への協力に関する活動：文化祭・体育祭(9 月)
中高一貫校連携事業における生徒会連絡会(11 月)

【学校行事】
全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。
儀式的行事：始業式（4,８,1 月)、入学式（4 月)、終業式（7,12 月)、修了式（3 月）
学芸的行事：文化祭(9 月)、芸術鑑賞教室(7,2 月)
集団宿泊行事：海外修学旅行（11 月）
健康安全・体育的行事：健康診断（4 月)、体育祭（9 月)、避難訓練（4 回)・防災訓練

「食に関する指導」の全体計画

後期

都立三鷹中等教育学校

生徒の実態

生徒は明るく、礼儀正しい生徒が多い。
学校内には売店がないため昼食にはお弁当持参率が高い。

【学校教育目標】

① 他の基本的人権を尊重する思いやりの心を持った豊かな人間性を養う
② 高い見識と幅広い視野を培う
③ 自立と共生の精神を養う

- 学習指導要領
- 食育基本法
- 東京都教育委員会の基本方針

【健康教育目標】

生涯にわたり健康な生活が送れるよう、健康・安全に関する実践力を育成する

【食に関する指導目標】

○ 食事と健康的な生活の関連と営みについて自己管理能力を養う。
○ 食糧供給についての関心を高め、食品の安全性や日本の食糧生産についての考えを深める。
○ 地域の特産物を利用した郷土料理、家庭の行事における伝統的な料理を実践するとともに、世界の食文化について理解する。
○ 食品の安全・食事・栄養・健康などについて情報収集を行い、理解を深め、それらを生活の改善向上に生かすことができる。
○ 地球環境にやさしい食生活について考え、実践する。

【目指す生徒像】

- 自分の生活や将来の課題を見つけ、朝食を必ず摂るなど、望ましい食習慣を理解して、実践する力を身につける
- 食文化や食品の生産・流通についての理解を深め、食事を通して豊かな心と望ましい人間関係を構築できる
- 食物の働きや栄養について理解し、献立・調理にも関心をもち、日常生活に活かしていくことができる

各教科・科目との連携	普通教科・科目	地理歴史	・日常生活にみる世界の歴史（衣食住、家族） ・資源 産業（食料問題）　・生活文化 民族・宗教（食生活と宗教）
		理科	・化学と人間生活　・天然高分子化合物　・有機化合物と人間生活
		保健	・健康的な食生活の重要性と意義　・健康的な食生活習慣の形成 ・食品衛生活動のしくみと働き　・食品と環境の保健と私たち
		外国語	・食事場面での表現
		家庭基礎	・食べることを通して（食事の役割） ・食品の安全性（楽しく安全に食べる）
総合的な学習の時間			・環境　・世界的な食糧問題　・遺伝子組み換え作物
特別活動		HR 指導及び学校行事	・食生活について　・生徒保健委員会
奉仕			・食事マナーとサービス ・高齢者施設における食生活に関わる奉仕体験
家庭・地域との連携			・学校保健委員会　・保健室来室時の個別指導 ・保護者会　・ＰＴＡ便り

令和6年度　学校安全計画　全体計画

東京都立 三鷹中等教育学校

安全教育に関する法令等
○学習指導要領総則
「安全に関する指導」
○学校保健安全法(第27条)
○「未来の東京」戦略
○東京都教育ビジョン(第4次)
基本的な方針6　施策展開の方向性⑰
○いじめ防止対策推進法

学校の教育目標
人間性豊かな社会を構築する社会的リーダーを育成するため、
○　自他の基本的人権を尊重する思いやりの心を持った豊かな人間性を養う。
○　高い見識と幅広い視野を培う。
○　自律と共生の精神を養う。

安全教育の目標
規範意識の確立を基礎とした安全教育を推進し、自他の生命を尊重しながら生涯にわたって自らの安全を守るとともに、社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。

学校の現状等
○平成22年4月に開校。令和3年度に、7期生が卒業。
○前期生の通学手段は交通機関利用が85％程度、後期生については、自転車による利用が85％程度である。
○保護者は規律ある生活指導による安全・安心な学校生活への期待が高い。

目指す生徒像
○現在や将来に直面する安全課題を把握し、的確な判断と行動ができる生徒
○地域の安全活動に貢献する社会性の高い生徒

育てようとする資質や能力及び態度
○安全に関する理解を深め、適切な意志決定や行動選択をする力、自ら危険を予測し、回避する力
○地域の安全活動に参画する自発的な意欲と態度

安全教育の目標を実現するための基本方針
○各教科、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動、部活動等の全教育活動を通して、安全課題を設定するとともに、生徒が自ら課題を把握し、その解決方法を考えることのできる活動を基本に推進する。
○全学年ともセーフティ教室を実施し交通安全や薬物乱用防止、犯罪被害防止等に重点的に取り組む。

安全学習及び安全指導の指導方針等

生活安全
○家庭や地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、犯罪に巻き込まれない行動ができることを重視する。
○校内外で不審者に対する適切な対処方法や行動ができるようにする。
・セーフティ教室
・登下校時の安全指導
・長期休業期間中における生活指導

交通安全
○地域・社会で展開される交通安全活動を知り、参加する意識を高める。
○公共交通機関利用時のマナー、自転車の安全利用とマナー指導に重点的に取り組む。
・交通安全教室
・生活指導部と学年によるマナー指導
○保健の授業において補助教材「災害の発生と安全・健康」を活用した学習を実施

災害安全
○「防災ノート」「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行い、地震や火災時に適切な行動ができるようにする。
○災害発生時における避難所の役割を理解し、家庭や地域における災害ボランティア活動に参加できるようにする。
・緊急地震速報システムを活用した避難訓練
・地区の総合防災訓練へのボランティア参加
○保健の授業において補助教材「災害の発生と安全・健康」を活用した学習を実施

各学年の指導方針
【1、2学年】体験を通して安全に関する知識を理解し、自分自身で身を守る方法を身に付けさせる。
【3学年】安全に関する知識を活用し、学校生活や日常生活の中で判断し、行動できるよう にする。
【4、5、6学年】安全に関する知識を理解し、地域への貢献活動に参加し、安全意識を高める態度を育成する。

関係する教科等
【関係教科(技術・家庭、地歴公民、保健体育、理科、実習教科】学習活動における事故防止の指導を徹底する。
【ホームルーム活動】日常的な安全指導を徹底し、安全・安心に学校生活を送る生活態度を育成する。
【部活動・生徒会活動】生徒自ら安全確保に努める態度の育成と生徒会による啓発活動の活性化を図る。

安全管理との関連

生活や行動等の安全管理(対人管理)
○屋上への立入りや無断外出の禁止等、学校生活のルールの遵守を徹底する。
○教職員による生徒の行動観察により、心身の健康状態の把握に努め、養護教諭との連携を深める。

学校環境(対物管理)
【定期点検】生徒が使用する防火・防災・防犯設備、体育施設や薬品管理について学期に1回実施する。
【日常点検】事故防止の観点から授業や学校行事等の際は、事前の安全点検を徹底する。

事件・事故や災害発生時の危機管理
○危機管理マニュアルを熟知し、生徒の安全を最優先に、迅速な報告と的確な初期対応を行う。
○災害発生時における保護者との連絡手段の及び生徒の引渡し方法の確立
○近隣の関係諸機関と緊密な連絡、情報交換をし、適切な対応を行う。

教職員の校内研修
○4月：安全教育プログラム、学校安全計画及び危機管理マニュアル
○9月：不審者対応
○2月：交通安全

推進組織及び評価
○総務部(防災)、生活指導部(防犯、交通)、教務部(研修)、経営企画室(対物管理)
○評価は、学校運営連絡協議会のアンケートを活用して行う。

家庭・地域・関係機関との連携
○学校だよりPTA広報を通した啓発活動
○区役所・消防署：区の総合防災訓練への参画と教育活動への協力
○警察署：スクールサポーターと連携、セーフティ教室への協力